

2022年度 年 報
—自己点検・評価報告書—

天使大学 看護栄養学部
天使大学大学院看護栄養学研究科
天使大学大学院助産研究科

自己点検・評価報告書

目 次

1. 教育課程	1
1) 教育課程の運営	1
2) 看護学科	3
3) 栄養学科	7
4) 教養教育科	15
5) 看護栄養学研究科	17
6) 助産研究科	21
2. 学生の受け入れ	24
3. 教員組織	31
4. 研究活動・研究環境	33
5. F D S D活動	39
6. 社会貢献	41
7. 国際交流	43
8. 学生生活	44
9. 就職支援	59
10. 図書館	62
11. 情報処理システム	65
12. 施設・設備	67
13. 管理運営	68
14. 財務	69
15. 事務組織	71
16. 自己点検・評価活動	72

1. 教育課程

1) 教育課程の運営

担 当： 教務委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>《活動方針》－2022年度活動計画書から－ 看護栄養学部の教育を円滑に遂行するため、関係部署間の調整を図るとともに、教育課程の確実な実施と改善・充実に努める。</p> <p>〈2022年度の重点目標〉</p> <p>1. 内部質保証推進委員会、FDSD委員会、IR室等と連携した委員会活動に努め、教育の質の充実・向上に努める。</p> <p>2. ウィズコロナ及びポストコロナ社会における授業実施方針、時間割編成方針等を検討する。</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準4：教育課程・学習成果 ①～⑦</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>II：教育の質保証体制の構築 II-3～6</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 内部質保証委員会、FDSD委員会、IR室等と連携した委員会活動に努め、教育の質の充実・向上に努める。</p> <p>[活動内容]</p> <p>(1) アセスメント・ポリシーに係る調査及び評価・改善</p> <p>①アセスメント・ポリシーに基づくデータ収集を行った。</p> <p>②内部質保証推進委員会やIR室と打ち合わせをした上で、ディプロマ・ポリシーに対する「学生による到達度評価アンケート」及びカリキュラム・ポリシーに対する「教員による科目評価」の調査を実施し、分析結果及び課題を学生及び教員へフィードバックするとともに、改善につなげるための検討を行った。</p> <p>(2) 教育の展開における評価・改善・検討</p> <p>①現行カリキュラムに基づく展開をしていく中で生じた課題等の洗い出しを行った。</p> <p>②学部カリキュラム委員会設置にむけた意見交換を行った。</p> <p>③新入生オリエンテーションプログラムの改善を決定し、2023年度に執行する(学長講話、DP解説、授業評価アンケート説明)。</p> <p>④教育の質に係る客観的指標調査において、教務委員会担当分は全項目で満点を獲得した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>(1)については、現行カリキュラムの運用と同時に2020年度から実施され、定着された感がある。経年変化を分析するために少なくとも完成年度までは同一の項目により実施するが、新カリキュラムを検討する際に、これらのアンケートの内容についても併せて点検を行う必要がある。</p> <p>(2)については、教務委員会の中でも教育の評価及び改善を意識して検討を行っているが、評価の仕方などを検討する必要がある。</p> <p>2. ウィズコロナ及びポストコロナ社会における授業実施方針、時間割編成方針等を検討する。</p> <p>[活動内容]</p> <p>(1) 授業実施方針、時間割編成方針等の変更</p> <p>①基本的に対面授業を中心とし、一部に遠隔授業を併用して授業を実施するよう方針を変更した。</p>

	<p>②2023年度から教室収容人員70%まで緩和できる措置を決定した。</p> <p>(2) 環境整備等</p> <p>①ハイブリッド型授業及び2教室連結授業を可能とする教室環境等の整備を行い、授業等で活用している。</p> <p>②教室の換気機能充実に関する要望を理事会に行った(2022年度中の工事が決定)。</p> <p>③スプレッドシート利用による教員への速やかな出校停止学生情報の提供を実現した。</p> <p>④コロナ禍における臨地実習科目の特別講師の扱いに関するルールを整理し、2023年度から執行する。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>(1)については、文部科学省の指針に基づいて運用し、大きな感染を引き起こすことなく授業を終了することができた。また、授業実施方針についても、時間割や授業予定表の編成に間に合うように早期に決定するように段取り、学内外に周知し、大きな混乱を来すことなく運用することができた。</p> <p>次年度については、5類感染症への変更を見据え、5月頃を目途に教室収容人数等についての検討を行う。</p> <p>(2)については、教室の換気設備、コロナ禍におけるルールの整備、迅速な情報共有など環境整備の面で一定の成果を出した。</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 諸制度の改正</p> <p>[活動内容]</p> <p>①学則の一部改正(第24条第1項第3号 単位の計算方法の改正)を行い、2023年度から施行する。</p> <p>②天使大学非常勤講師等の採用選考に関する規程の新規制定を行った。</p> <p>③全学休講制度の一部改正を行い、2023年度から施行する。</p> <p>④公欠制度の一部改正を行い、2023年度から施行する。</p> <p>⑤大学設置基準改正に伴う教務関係諸制度の検討を開始した。</p> <p>(2) 環境整備等</p> <p>①非常勤講師試験手当等の新設を検討したが、他大学との比較等を行い、本学の講師料が道内平均以上の水準に達しているため、新設は不要との結論を出した。</p> <p>②非常勤講師の委嘱手続を見直し、データベースによる機能化・手続合理化を実現した。</p> <p>③教室音響設備等の整備を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>学則や規程をはじめとする諸制度の整備を行い、懸案となっていた課題の解決及び教職員の業務の効率化につなげることができた。</p> <p>次年度には、教務事項における大学設置基準改正に対する対応についての検討が必要であることを教務委員会で確認した。</p>
次年度への課題	<p>1. ディプロマ・ポリシー(DP)達成のための教育の展開</p> <p>2. 学修成果及び教育課程に係る点検評価</p> <p>3. ウィズコロナ及びアフターコロナに係る検討</p> <p>4. 大学設置基準改正に関する各種制度の検討</p>

1. 教育課程
2) 看護学科

担当：看護学科

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 建学の精神に基づくカリキュラムの実施：DP、新カリの教育内容への反映と評価</p> <p>1) カリキュラムルーブリックに基づき、改定の主旨を捉えた科目内容の精選と評価 ・臨床判断能力、ICTの活用、地域包括ケアを意識した科目展開、積み上げを評価する。</p> <p>2) カリキュラム〔2022年（1年）、2020年（2～3年）、2016年（4年）〕の円滑な運用 ・スムーズなカリキュラムの移行：履修指導、科目間の内容の精選、統合科目の検討。 ・各学年に教務係を配置し、授業方法や時間割の変更、非常勤講師の対応等を行う。</p> <p>3) APに基づく全学的視点を加えた評価を行う。（教育評価、科目評価の関連等）</p> <p>4) 理念教育の一環の行事や修養会の意味を確認、浸透させ、効果的な方法を検討する</p> <p>2. 主体性を育てる学生支援の充実：主体的学習のための環境整備と学習習慣の獲得</p> <p>1) アクティブラーニング、ICT等の活用による主体的学習の効果を評価する。</p> <p>2) 臨床判断能力強化のために講義、演習、実習を体系化、モデルを活用し連携する。 ・シミュレーションモデル等を活用した「臨床判断能力強化プログラム」を作成する。</p> <p>3) 時間割や課題の調整、実習室、図書館、情報処理室等の学習環境を整備する。</p> <p>4) 学習支援と生活支援の役割分担の明確化、教員間の効果的連携による支援の強化 ・ポートフォリオの活用した自己管理の支援。 ・健康状態の把握、実習の配慮の調整。</p> <p>3. 教員の教育能力・研究能力の強化と研究推進の体制づくり</p> <p>1) 主体的学習・臨床判断力育成のため学生の準備状況に応じた教育の実践能力の強化。</p> <p>2) 授業参観の活用やアクティブラーニング、ICT活用等、主体的学習を促す授業改善</p> <p>3) 会議短縮、実習、業務を見直し、各領域で研究時間の確保（半日～1日）を調整する</p> <p>4) 外部研究費、特別研究費などの研究費を各人、領域等で獲得できるよう支援する。</p> <p>5) 各人が目標をもち、学会発表、論文投稿、学会の参加など計画的に実施する。</p> <p>6) 専門性を高めるために、臨床現場との抄読会・研究会等の勉強会を推進する。</p> <p>4. 教育指導体制の充実：PDCAに基づく学科活動の推進、教員体制構築、質保証体制</p> <p>1) 臨床判断能力、地域包括ケアの強化のための実習に向けた教員と臨床指導者の連携。</p> <p>2) 現場の実習体験を保証できるような調整とともに、リアルな学内実習の工夫。</p> <p>3) 実習指導教員の体制、指導のあり方について検討する。</p> <p>4) 学習効果を高めるための施設設備等を確認管理し、長期的な整備・購入計画の立案</p> <p>5) 修士課程の強化、博士後期課程の準備に向けた教員体制の整備、将来計画の明確化</p> <p>6) 教員業績評価を活用した教員の目標管理、自己評価による教育研究の質向上活性化</p> <p>5. 認証評価の準備</p> <p>1) 大学基準協会：2022年中間報告に向けて、認証結果の改善点を確認する。</p> <p>2) 分野別評価：2024年に向けた審査内容を確認する。全員参加の準備体制の構築 教育目標を設定する。設置主旨に地域における本学の役割を述べる。</p> <p>（大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄）</p> <p>基準4：教育課程・学修成果①～⑦</p> <p>基準6：教員・教員組織①～⑤</p> <p>基準7：学生支援①～③</p> <p>（中期計画戦略目標に該当する項番記入欄）</p> <p>II教育の質保証体制の構築 4.特色を生かしたカリキュラムの編成・充実</p> <p>III研究業績の向上</p> <p>IV教育に関するビジョンの構築</p> <p>VI包括的な学生支援の充実</p>
-----------------	--

活動内容の評価	<p>1. 建学の精神に基づくカリキュラムの実施（基準4①～⑦）（Ⅱ-4・5）</p> <p>[活動内容]</p> <p>1) カリキュラムルーブリックを意識して科目内容を精選し、科目の評価を実施した。各学年ガイダンスで学生への浸透を図り到達度を評価させ、年度末評価で確認した。臨床判断能力、ICT活用、地域包括ケアの展開は、各科目で実施した。</p> <p>[活動内容に対する評価]</p> <p>教員、学生ともに、カリキュラムルーブリックを意識した展開ができた。各々の科目で内容の精選はできたが、科目間の連携、積み上げ等全体の評価は課題が残る。</p> <p>[活動内容]</p> <p>2) 新カリキュラムの次年度開講の統合科目に向けた内容の検討は、確認し実施できた。カリキュラム移行に伴う、留年生の履修指導を教務委員が確認し教務係が実施した。各学年に教務係を配置し、授業方法や時間割の変更、非常勤講師対応等を実施した</p> <p>[活動内容に対する評価]</p> <p>3つのカリキュラムの運用は、円滑に運用することができたと評価する。留年生の履修指導は、カリキュラム移行の対比表に基づき実施し、混乱はなかった。教務係は、科目担当教員と連携をとり、学生の履修を支援することができた。</p> <p>[活動内容]</p> <p>3) アセスメントポリシーに基づく評価は、年度末会議で到達度評価、カリキュラムの課題を討議した。進級、卒業判定は、単位取得状況とGPAを確認し単位を認定した。</p> <p>[活動内容に対する評価]</p> <p>APに基づき学科の教育課程の評価を会議で確認し、改善の方向を検討できた。</p> <p>[活動内容]</p> <p>4) 戴帽式は感染対策の下、実施できた。修養会は、宿泊はせず学内での実施となった。</p> <p>[活動内容に対する評価]</p> <p>コロナ禍において、工夫しながら行事を実施できたことは評価できるが、理念教育の一環としての意味を再確認し、効果的な方法、宿泊等の検討が必要と考える。</p> <p>2. 主体性を育てる学生支援の充実：主体的学習のための環境整備と学習習慣の獲得</p> <p>2022年度卒業生：94名。就職73名、進学20名（助産師12名、保健師8名）</p> <p>3月末在籍状況：1年105（休学2）名、2年101（休学2）名、3年98（休学1）名、4年96（休学1）名、退学2年2名、4年1名。国家試験合格者94名（合格率97.9%）</p> <p>[活動内容]</p> <p>1) 専門科目は基本的に対面授業で実施したが、教育効果を考え遠隔授業とした科目や一部で遠隔を活用した科目もあった。2教室連結や体育館での授業もあった。</p> <p>[活動内容に対する評価]</p> <p>対面授業を実施できたが、教育効果を考え教室の課題は早期解決が必要である。遠隔授業は学生の自己管理能力による差が大きいため自己管理能力の支援が課題となる。対面と遠隔のハイブリット授業の効果的活用は、主体性を育てる方法の一つとなる。</p> <p>[活動内容]</p> <p>1) 臨床判断能力の強化のための講義、演習、実習は、各領域で検討し実施した。</p> <p>シミュレーションモデルは8月納入で、基礎実習、統合実習、在宅演習で活用した。</p> <p>[活動内容に対する評価]</p> <p>臨床判断能力の強化は、各領域で検討し実施できたが、学科全体の共有、体系化は課題で「臨床判断能力強化プログラム」の作成には至らなかった。モデルを効果的に活用するためには、推進チームを作り、各領域に広げることが必要と考える。</p>
---------	--

[活動内容]

2) 時間割や課題の調整、実習室、図書館、情報処理室等の学習環境は整備されていた。

[活動内容に対する評価]

3年後期の時間割の過密は、自己学習時間の確保も困難で、改善の検討が必要。

図書館や実習室を利用しての自己学習の利用の推進は、今後も課題となる。

[活動内容]

3) 学習支援と生活支援の役割は学科内の役割で明記し、非常勤講師対応、履修指導や出席状況の確認を学習支援係が担い、学生支援教員と連携し、学生を支援した。学生の自己プロジェクトに向けたポートフォリオの活用は、充分ではなかった。学生の健康状態を把握し、実習配置等を調整し、連携により実習指導を実施した。

[活動内容に対する評価]

学習支援と学生支援の教員は、役割分担に基づき連携しながら支援できた。

ポートフォリオの活用は、キャリアデザインの科目と連動し、学生自らが活用できるようにすることが重要で、各学年の積み上げを強化する必要があると考える。

3. 教員の教育能力・研究能力の強化と研究推進の体制づくり（基準6①～⑤）

[活動内容]

1) 教育能力向上:シミュレーションモデルの活用については、学科会議で共有した。

学生の準備状況に応じた教育実践は、実習前面接の実施など各科目で取り組まれた。

授業参観の実施は、対面2領域、授業動画のアップは1科目で、各教員が参加した。

実習指導者研修会 3月3日(金)「コロナ禍における臨地実習指導～より良い実習指導とは」講師、石垣靖子先生。参加者190名(対面37名、遠隔153名、学外165)

[活動内容に対する評価]

シミュレーションモデルの活用を共有できた。授業参観では相互の学びが得られた。

学生の主体性を促すためにICTの活用等授業方法の検討は今後も課題である。

実習指導者研修会の参加が多数であったのは、ニーズとテーマが合致したと考える。

[活動内容]

2) 学部・大学院の教育体制の構築と質保証体制構築に向けた計画立案

研修日(研究時間)の確保(半～1日)を目標に実施したが、実施は一部に留まった。

[活動内容に対する評価]

業務多忙により研修日の確保が難しい。業務内容や分担を見直す必要がある。

[活動内容]

3) 看護学科研究費獲得状況:2022年度科学研究費助成事業申請13件、新規採択5件、継続3件。合計8件が助成を受けている。特別研究費は2件で、3月に報告した。

コロナ影響による制限は残るが、学会発表、学会等、各人が計画的に参加している。

臨床現場との抄読会・研究会等の勉強会の開催は、実現できていない。

[活動内容に対する評価]

科研費の採択と申請数が、例年増加しているのは評価できる。今後は、さらに、申請者を広げるとことと研究遂行のための時間の確保が課題となる。

4. 教育指導体制の充実

[活動内容]

1) PDCAサイクルに基づく学科活動の推進

実習は、実習施設と調整し臨床に出る方向に進めたが、コロナの影響で変更もあった。

全体では、当初予定どおり実習できた学生65%、学内実習のみ14%であった。

学年別では、予定どおり2年45.1%、3年66.3%、4年前期97.1、4年後期40.4%。

	<p>実習施設から検査を求められた場合の実習の保証のために検査センターと提携した。大学で実施したPCR検査は、4施設113件、臨時4件、抗原検査3施設60件。実習施設での実施は、PCR2施設26件、抗原検査2施設35件。(検査費用130万)臨床判断能力、地域包括ケアの強化は、各領域で臨床指導者との連携により実施した。演習や実習でシミュレーションモデルを活用し、リアルな体験となるよう工夫した。</p> <p>[活動内容に対する評価]</p> <p>実習は施設と調整しながらも、4年前期は実施できたがコロナ対応に苦勞した。後期は、検査体制を整えたが、感染拡大による制限が大きかった。学内実習になった場合にも、リアルな体験ができるようにモデルの活用等の整備がより重要となる。</p> <p>[活動内容]</p> <p>2) 教員体制構築</p> <p>2022年度は33名体制(教授9名、準教授8名、講師10名、助教6名)で活動した。博士後期課在籍中5名。産休-育休1名(実習指導教員を期間限定の補助教員で対応)。</p> <p>[活動内容に対する評価]</p> <p>教員体制は欠員なく、産休育休教員の補助体制も検討し対応することができた。2024年博士後期課程開設を視野に計画的な教員配置、教育研究実績の積上げが必要。</p> <p>[活動内容]</p> <p>3) 質保証体制</p> <p>教員業績評価は、学科長が面接で結果をフィードバックし、今後の課題を確認した。</p> <p>[活動内容に対する評価]</p> <p>教員の自己評価の機会となり、今後の課題を確認する場とすることができた。</p> <p>教員の目標管理、自己評価を可視化するために、教育研究活動報告書や教育研究費交付申請書を活用する等、教育研究の質向上につなげる仕組みの構築が必要である。</p> <p>5. 認証評価の準備</p> <p>[活動内容]</p> <p>1) 大学基準協会:2022年中間報告に向けて、認証結果の改善点を報告し承認された。</p> <p>2) 分野別評価:2024年審査にむけて学科教員全員が分担をして、評価基準に基づき自己点検-評価報告書を作成し改善点を確認した。教育目標は学科で検討設定した。</p> <p>[活動内容に対する評価]</p> <p>分野別評価に向けての作業は、各教員が質保証にむけて考える機会となった</p> <p>目標は設定できたが、設置主旨に地域における本学の役割については今後検討する</p>
次年度への課題	<p>1. 建学の精神に基づくカリキュラムの実施:DP、新カリの特徴の教育への反映と評価</p> <p>1) 2020年カリキュラム完成年度の評価と改善、2022年カリキュラムの効果的運用</p> <p>2) 3P、カリキュラムループリックの学生への浸透と到達度評価を活用した改善</p> <p>3) 理念教育の一環である行事や修養会意義の確認と浸透、効果的な方法による実施。</p> <p>2. 学生の主体性を育てる支援の充実:主体的学習のための環境整備と学習習慣の獲得</p> <p>1) アクティブラーニング、ICTの活用による自主学習支援による学習時間の増加</p> <p>2) 臨床判断能力の強化のための学習方略の強化と学年の積みあげによる体系化</p> <p>3) 学習支援と生活支援の役割分担と教員間の連携による学生支援の強化</p> <p>3. 教員の教育・研究能力の強化と研究推進の体制づくり</p> <p>1) 主体的学習・臨床判断能力育成のための教育実践能力の強化</p> <p>2) 研究推進体制の強化のための業務改善、研究時間の確保、成果の公表の推進</p> <p>4. 教育指導体制の充実:PDCAサイクルに基づく学科活動の推進、教育の質保証体制</p> <p>1) 2024年看護学教育評価受審に向け、学科全体での教育課程を評価と改善</p> <p>2) 学部・大学院の教員体制、質保証体制の構築、教員業績評価の活用による改善</p>

1. 教育課程

3). 栄養学科

担当：栄養学科

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 正課教育、正課外教育（修養会等行事を通じたカトリック大学としての理念教育）の充実</p> <p>2. 就職支援対策の充実</p> <p>3. 研究活動および社会・地域貢献の一環として地域連携の推進</p> <p>4. 天使大学栄養学科への受験者増に向けた対策について学科で検討を進める。</p> <hr/> <p>（大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄）</p> <p>（大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄）</p> <p>基準4 教育課程・学修成果 ③④⑤⑥⑦</p> <p>基準5 学生の受け入れ ④</p> <p>基準7 学生支援 ②③</p> <p>基準9 社会連携・社会貢献②</p> <hr/> <p>（中期計画戦略目標に該当する項番記入欄）</p> <p>II：教育の質保証体制の構築 II-4（1）</p> <p>III：研究業績の向上 III-1（4）</p> <p>IV：教育に関するビジョンの構築 IV-1（2）</p> <p>VI：包括的な学生支援対策の充実 VI-1（1）（2） VI-2（2） VI-3（2）（3）（4）</p> <p>VII：地域連携と社会貢献の促進・充実 VII-1（4）</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 正課教育、正課外教育（修養会等行事を通じたカトリック大学としての理念教育）の充実</p> <p>[活動内容]</p> <p>①専門教育科目について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度から開講された新カリキュラムの充実を図るために、完成年度に向け、新カリキュラムの評価の検討を始めた。 ・内部質保証推進委員会から提示された内部質保証推進委員会外部委員からの意見と就職先アンケート、卒業生就職状況調査の結果について学科内で検討を行った。 <p>②臨地実習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習施設の確保と共に臨地実習内容・実習期間の検討を、臨地実習担当教員を中心として学科教員全体の協力体制のもと実施した。 <p>③管理栄養士国家試験受験の支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験WGのメンバーを従来の4年生支援教員から各学年より1名抜粋した新メンバーを構成した。新国家試験対策WGを中心として支援教員の学習指導、学科教員による対策講義および専門業者等による対策について検討・実施した。具体的な対策として、成績不振者に対し、学科長、支援教員による個々の試験対策に向けた個別指導を月1回ペースで行った。 <p>④正課外教育である修養会や大学行事への参加率の学年差異がある状況を踏まえ、参加を促し、支援教員が中心となり内容の充実（修養会）を図った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>①専門教育科目について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムの評価の検討は、新設した将来ビジョンWGメンバーが中心となり実施し、問題点を挙げる事ができたことは評価できるが、学科内での最終検討までには至らなかった。学科会議へ提案は行ったが、意見・改善案はなかった。 ・内部質保証推進委員会から提示された事項について、学科内の意見を集約し、カリ

キュラムに関する事項、臨地実習に関する事項等に分類し、学生の指導とカリキュラムに反映することとした。検討内容の具現化には至っていないが、活動の方向性を決めることが出来たことは評価できる。

②臨地実習について

- ・2021度と同様、コロナ禍の影響で、実習施設の確保ができず一部の学生は学内実習となった。そのような状況下でも、新規開拓、あるいは再開要請にて実習先を確保できたことは評価できる。
- ・次年度に向け臨地実習WGを中心に、今年度の臨地実習全体の意見交換を実施、問題点・課題の検討を行ったことは評価できる。

③管理栄養士国家試験受験の支援について

- ・模擬試験1・2回目の結果から、成績不振者20名を抜粋し苦手な科目を中心に7・8月から、学科長、支援教員による個々の試験対策（個々の苦手な科目を重点的に）に向けた個別指導を月1回ペースで行った。模試前では課題の提案を、模試後は自己評価と不得意課題の解決に向けた提案を行い、学生と共に課題へ取り組むことで学生のモチベーションも向上した。学生の進捗状況を確認しながらの指導は効果的だったと考える。実際に模擬試験結果は3回目以降全て、全国平均点より学内平均点は高く、学生に対する頻回指導は評価される。

④正課外教育である修養会に対しては、前年度と比較し時間を延長する等、内容の充実を図ったことは評価される。しかし、大学行事への参加率は学年差異があるとはいえ、全体に低かった。大学行事の実施の際、授業との兼ね合いも考慮に入れることも次年度は必要と思われた。

2. 就職支援対策の充実について

[活動内容]

- ・学科の就職委員及び学生支援教員と連携して活動を行った。

[活動内容に対する自己評価]

就職委員から学内での会社説明会を積極的に実施し、学生への参加を促し、幅広い分野での就職先を開拓した。学生支援教員を中心に個人面接を行い、学生の希望に沿った就職支援を実施し、特に専門分野ごとに希望する施設の概要、面接指導、提出する書類等のアドバイス等を個別に行なった。昨年同様、企業施設からの求人数は少ないながらも求人施設の内定者は天使大学学生がほぼ占めている。2月14日現在の内定率80.3%（2月21日前年度72.3%）は評価できる。

3. 研究活動および社会・地域貢献の一環として地域連携の推進

[活動内容]

- ・科学研究費3件の採択、日本医療研究開発機構1件での共同研究を行っている。
- ・個人としては論文6件、紀要4件、シンポジスト1件、学会発表等22件。
- ・道民の課題を解決するための共同プロジェクトとしてHTB、イオン北海道との「どうみん健康化計画プロジェクト」を継続して実施。
- ・北海道庁が関係機関と連携して推進する「ほっかいどうヘルスサポートレストラン推進事業」に協力し、登録飲食店等に掲示する栄養・食生活に関する普及啓発ツールを作成し、道民の健康づくりを支援。
- ・札幌市東区役所と連携して市民の健康づくりを支援-①広報さっぽろ東区版へのレシピ掲載、②東区役所食堂の定食メニューの考案。
- ・セイコーマートとの共同研究で、コンビニ食を活用し健康に配慮したレシピをセイコーマートのwebサイト・ちらしに掲載し地域住民に広く発信。

	<p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>個人の論文や学会等の講演、発表が増えてきたことと、コロナ禍の状況が落ち着いてきたことから、地域連携の推進事業活動が開始されたことは評価する。</p> <p>4. 天使大学栄養学科への受験者増に向けた対策について学科で検討を進める</p> <p>[活動内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科の広報委員会を中心に他学科教員と連携して活動を行った。学科会議にて、受験者増に向けた検討を行った。 <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成したオープンキャンパスや高校訪問時用のプレゼンを使用し工夫しながら、出張講義へ積極的に行った。広報活動に対する提案等を行った。受験者増に対する検討を行い提案・実施は評価する。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラム委員会と連携をし、栄養科教員全員で2020年度から開講された新カリキュラムの完成年度に向けた取り組みをし、カリキュラムの充実を図りたい。 2. 将来ビジョンWGを中心とし栄養科教員全員で取り組んでいきたい。 3. 国家試験対策WGを中心として支援教員の学習指導、学科教員による対策講義および専門業者等による対策についてさらなる検討し、合格率100%を目指す。今年度での結果が期待値であったならば、継続して2022年度と同様の対応をしていく。

1. 教育課程

3) 栄養学科—教職課程

担当：教職課程委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 栄養教諭養成のための教育を円滑に実施する。 2. 科目等履修生の栄養教諭免許状取得を支援する。 3. 栄養教諭免許状更新講習を実施する。 4. 教職課程の自己点検・評価等を実施する。 5. ICT活用能力の向上を図るため、授業におけるICT活用を推進する。</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準3 教育研究組織—②、 基準4 教育課程・学習成果—②～⑦ 基準5 学生の受け入れ—①、 基準6 教員・教員組織—②、④ 基準7 学生支援—①～③、 基準9 社会連携・社会貢献—②</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>戦略目標Ⅱ—3(3)、 戦略目標Ⅳ—3(5)、 戦略目標Ⅶ—1(6)</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 栄養教諭養成のための教育を円滑に実施 <u><基準4—②～⑦> <基準7—①～③> 戦略目標Ⅳ—3(5)</u></p> <p>[活動内容1.1] 現場の栄養教諭による授業(講演)の実施(4年次生対象)</p> <p>[活動内容に対する自己評価1.1] 4年次生対象の「栄養教育実習事前事後指導」「教職実践演習」で計3回の特別講師による授業を実施し、教員としての自覚を高めた。</p> <p>[活動内容1.2] 外部との連携による教育の充実 <別紙1参照></p> <p>[活動内容に対する自己評価1.2] コロナ禍の影響で、3年次生対象の「教職総合演習」において体験活動を一部変更し、特別講師による授業を2回実施した。</p> <p>[活動内容1.3] 北海道大学での農場体験、農作物の収穫・搾乳体験(1年次生対象)</p> <p>[活動内容に対する自己評価1.3] コロナ禍の中、3年ぶりに2種の農場体験を実施し、学生の満足度も高かった。</p> <p>[活動内容1.4] 小学校での夏休みインターンシップ体験(2年次生対象) ・連携学校:札幌市立の美香保・新琴似・北光小学校(2年次生対象・正課外)</p> <p>[活動内容に対する自己評価1.4] 7名の履修者中6名が参加し、大変有意義な体験活動となった。</p> <p>[活動内容1.5] 学外での栄養教育体験・ボランティア活動等 ・小学校授業参観(1年次生「教職概論」、札幌市立北光小学校) ・サッポロさとらんどにおける栄養教育体験・ボランティア活動 (3年次生「教職総合演習」) ・学校給食センター参観(3年次生「教職総合演習」): Zoomの遠隔授業に変更</p>

[活動内容に対する自己評価1.5]

コロナ禍ではあったが、サッポロさとらんどにおける活動が、3年ぶりに復活し、3年次生の発表は好評であった。また、4年次生「教職実践演習」では、サッポロさとらんどでの栄養教育は行わず、ICTを活用した栄養教育動画の作成プログラムに変更・継続した。学生の感想から学習効果が高かったことが確認できた。さらに、学校給食センター参観はZoomによる特別講義とした。

[活動内容1.6]

履修カルテ活用の充実

- ・履修カルテ活用の点検・充実

[活動内容に対する自己評価1.6]

7月に「教職概論」を活用して1年次生に履修カルテの記入・活用のガイダンスを実施。1月に全学生の記入状況を点検した。また、12月に3年次生対象に履修カルテを活用した面接を行い、4年次生の教職実践演習では履修カルテを活用した授業を行った。

[活動内容1.7]

教員採用試験対策ゼミの実施 <別紙1参照>

- ・教員採用試験ガイダンスⅡ（4月、4年次生対象、14名参加）
- ・1次直前ゼミ（5月、4年次生対象、3日間、11名参加）
- ・2次直前ゼミ（7～8月、4年次生対象、4日間、7名参加、就職委員会と連携）
- ・教員採用試験ガイダンス（12月、3年次生対象、1日間、10名参加）
- ・春期ゼミ（2月、3年次生対象、4日間、10名参加）

[活動内容に対する自己評価1.7]

全てのガイダンスおよびゼミが対面で予定通り実施できた。また、令和5年度北海道・札幌市教員採用試験の受験支援等は、就職委員会・学務課のご支援と、栄養学科・教養教育科の教員、外部講師にご協力をいただき実施した。1次合格者8名中4名が採用登録となった。今年度から札幌市の栄養教諭区分が新設。北海道における本学現役受験者は2名が登録となり、合格率は66.7%であったが、受験者が少ないこともあり合格者全体の現役学生の占有率は5.9%であった（前年度は現役6名が登録、占有率50.0%）。

札幌市における本学現役受験者は2名が登録となり、合格率は33.3%、合格者全体の現役学生の占有率は66.7%であり、採用枠3名中2名の合格となったことは大いに評価できる。

2. 科目等履修生の栄養教諭免許状取得を支援

<基準5-①>

[活動内容2]

教職課程科目の履修を希望する科目等履修生の受入れと支援

[活動内容に対する自己評価2]

本学の卒業生を2名受け入れ、栄養教諭免許状取得の単位修得を支援した。

3. 栄養教諭免許状更新講習を実施

<基準9-②> 戦略目標Ⅶ-1(6)

[活動内容3]

栄養教諭および小、中、高等学校教員を対象とした講習を計画

	<p>[活動内容に対する自己評価 3]</p> <p>2022 年 7 月に教員免許更新制が廃止となり、昨年 12 月から準備していた標記の更新講習は中止を余儀なくされた。</p> <p>4. 教職課程の自己点検・評価等の実施</p> <p><u><基準 3-②> <基準 6-②、④> 戦略目標Ⅱ-3(3)</u></p> <p>[活動内容 4.1]</p> <p>教職課程 F D 研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日時：2023 年 1 月 24 日 13：10～14：40 ・出席者：43 名（教職課程に関わる専任教員・非常勤講師・職員 8 名、学生 4 名、その他の本学教職員 31 名） ・講師：星槎道都大学社会福祉学部社会福祉学科 学科長・特任教授 藤根 収 氏 ・演題：「特別な支援を必要とする児童生徒・学生への対応と合理的配慮」 <p>[活動内容に対する自己評価 4.1]</p> <p>特別な支援を要する学生等が増えている現状の中、教育機関に勤務をする者として、個別最適な学びを実現するため、本学の教員のみならず学生にとっても大変有益な研修会となった。</p> <p>[活動内容 4.2]</p> <p>自己点検・評価の実施と評価結果の公開</p> <p>[活動内容に対する自己評価 4.2]</p> <p>1 月下旬～2 月上旬にかけて教職課程の 2～4 年次学生と教職員を対象とした自己点検・評価を実施した（回答数：2 年次 6 名、3 年次 10 名、4 年次 8 名、教職員 9 名）。評価結果を 3 月の委員会で分析し学長に報告するとともに、全国私立大学教職課程協会の認証を受けた後の 5 月に本学ホームページで公開を予定している。</p> <p>5. ICT 活用能力の向上を図るため、授業における ICT 活用を推進</p> <p><u><基準 4 教育課程・学習成果-②～⑦> 戦略目標Ⅱ-3(3)</u></p> <p>[活動内容 5]</p> <p>2023 年度から初めて開講される「教育における ICT 活用論」において、あらためてシラバスの確認及び点検を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価 5]</p> <p>教育実習の巡回等で教育現場における ICT 活用事例を視察して得られる情報を共有し、授業改善に取り組んでいくことを委員会で確認した。</p>
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養教諭養成のための教育を円滑に実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程委員会業務の円滑な実施と分担の均一化を図る。 2. 科目等履修生の栄養教諭免許取得を支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ・科目等履修生への指導・支援を強化する。 3. 外部との連携による教職課程の P R と地域貢献を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職総合演習（3 年次生対象）において、地域行事に参加し大学の P R と地域の活性化に貢献する。 4. 教職課程の自己点検・評価、F D 研修会等を確実に実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程 F D 研修会を実施 ・教職課程履修学生を対象とした自己点検評価アンケートを実施する。

	<ul style="list-style-type: none">・教職課程科目担当教員および事務担当者を対象として自己点検評価を実施する。・自己点検・評価報告書を作成して教職課程の質保証・向上に役立てるとともに、全国私立大学教職課程協会の様式に基づき、自己点検評価報告書を作成し認証評価を受け、結果をホームページに公表する。 <p>5. ICT活用能力の向上を図るため、授業におけるICT活用を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ICTに関する新設科目について、2023年度から実施する。・ICT活用能力を高めるため、関係科目における授業を工夫する。
--	--

2022年度 教職課程委員会の行事等一覧（決定版）

<別紙1>

<2022.4.20 教職課程委員会決定>
<2023.2.14 同 実施状況報告>

区分名	期日	時間	行事名	対象者など	担当者1	担当者2	備考	
ガイダンス ・履修カルテ	4月6日(火)	12:30～13:00	栄養教諭教職ガイダンス	1年次生	長谷川	松下	希望者:新入生オリエンテーション内	
	4月14日(木)	13:10～13:40	教職課程履修の手引ガイダンス	1年次生	新井		教職概論受講者(授業内)	
	6月中旬まで		履修カルテ原稿確認・印刷・配布	1年次生	新井	金吉		
	7月28日(木)	13:10～13:40	履修カルテの活用・記入方法ガイダンス	1年次生	新井		教職概論受講者(授業内)	
	1月～2月初旬		履修カルテの記入点検・確認	1～4年次生	新井	★		
栄養教育 実習	5月30日(月) ～6月10日(金)		栄養教育指導の巡回指導等	4年次生	教職課程委員全員 +栄養学科教員		科目責任者:松下 事務業務:星	
北大農場 体験等	7月21日(木)	13:10～14:10	収穫体験1	1年次生	新井		教職概論受講者(授業内)	
	8月30日(火)	15:10～17:10	搾乳体験	1年次生	新井	吉田		
	11月初～中旬 ★未定:中止	12:15～13:00	お米の味くらべ	1年次生	長谷川	松下・★	お米の講義の後	
	11月初～中旬 ★未定:中止	10:30～13:30 ★未定	北大の先生によるお米の講義	1年次生	長谷川	松下・★		
サッポロ さとらんど 栄養教育	10月16日(日)	10:00～16:00	サッポロさとらんど 新米・新そばフェアにおける栄養教育発表会	3年次生	長谷川	授業担当者全員	日程や内容は未定で6月7日に打合せ 教職総合演習受講者(授業内)	
インター シップ	8月29(月)～9月9日(金)のうちの1週間	8:30～15:30	学校インターンシップ ・北光小学校 ・美香保小学校 ・新琴似小学校	2年次生	新井・長谷川	星	・4月下旬学校訪問 ・5月初旬:2次調査 ・5月中旬:学校決定 ・6月初旬:依頼文書発送 ・実習中:学校訪問	
外部人材・ 地域を活用した 特別授業 ・見学等	4月26日(火)	15:00～16:20	教育実習事前事後指導	4年次生	新井		・講師:佐藤涼可先生(栄養教諭) (札幌市立陵北中学校)	
	7月14(木)	13:10～14:30	北光小学校の見学	1年次生	新井		教職概論受講者(授業内)、中止もある	
	11月9日(水)	14:50～16:20	教職実践演習(1)	4年次生	長谷川	新井	・講師:佐藤実花先生(栄養教諭) (石狩市立厚田学園義務教育学校)	
	1月10日(火)	14:50～16:20	教職実践演習(2)	4年次生	長谷川	新井	・講師:辻山しのぶ先生(校長) (北海道余市養護学校)	
	1月26日(木)	9:00～12:10	教職総合演習の給食センター見学: Zoom対応	3年次生	長谷川			
教員免許制 更新講習 ★中止	8月3日(水)	9:00～17:00	教員免許制更新講習	教諭全般	武蔵・忠賀	受付等: 全委員	事務業務:星	
	8月4日(木)	9:00～17:00	教員免許制更新講習	教諭全般	鹿内・講師			
	8月5日(金)	9:00～17:00	教員免許制更新講習	栄養教諭	坂本			
教員採用 対策	4月12日(火)	15:40～16:20	教員採用試験ガイダンスⅡ	4年次生	星・西川	新井	・東京アカデミー講話・資料 ・依頼:学務課西川、 ・願書配布・説明:星、ゼミ等の説明:新井	
	5月24日(火)	9:30～12:00	1次直前ゼミ	4年次生	新井			
	5月25日(水)	9:30～12:00	1次直前ゼミ	4年次生	新井			
	5月26日(木)	14:50～17:30	1次直前ゼミ	4年次生	新井			
	6月21日(火)	14:30～16:00	自己採点・教員採用2次ガイダンス	4年次生	新井	長谷川	・自己採点資料手配等:学務課西川 ・2次対策資料配付:新井	
	7月26日(火)	8:50～17:00	2次直前ゼミ	4年次生	教職課程委員全員 +教養教育科教員 +栄養学科教員		・講師依頼は5月、教員依頼は6月に行い、素案は7月初旬に完成する。 ・計画の確定は、7月中旬の1次合格者発表後。 ・2022年度は8名が1次合格して1名辞退で、7名が面接を希望した。	
	7月27日(水)	8:50～17:00	2次直前ゼミ	4年次生				
	8月1日(月)	8:50～17:00	2次直前ゼミ	4年次生				
	8月2日(火)	9:00～17:00	2次直前ゼミ	4年次生				
	8月3日(水)	9:00～17:00	2次直前ゼミ	4年次生				
	12月15日(木)	9:15～10:30	教員採用試験ガイダンス	3年次生	新井	星	・東京アカデミーの講話など ・依頼:学務課西川	
	12月13(火)～20日(火)4日間	10:40～14:30	3年次生面接指導(進路希望等の確認)	3年次生	吉田	教職課程委員全員		・日程調査と計画作成、実施
	2月初旬～2月中旬の4日間	9:30～12:00	春期ゼミ	3年次生	新井	長谷川		2022年度は、2月1日、2日、8日、9日の4日間で実施を予定。

※1: 北大関係は、北大に打診して一部確定。お米の味くらべ体験等の日程は今後打診して確定するが中止もありうる。

※2: 教職総合演習におけるサッポロさとらんど等の行事は、2022年度から復活する。

※3: 教員採用対策は、2022年度の実施要項に準じた日程。2022年度は2019年度以前の日程より早まっている。

1. 教育課程

4) 教養教育科

担当：教養教育科

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 初年次教育関連</p> <p>(1) 英語 習熟度別授業を実施し、各学生の英語力にあった指導を行うことで学生一人一人の英語力の増強を図る。</p> <p>(2) 共通基礎教育科目 高等学校の教育課程を踏まえ、入学前教育・導入教育をおこなう。</p> <p>(3) 専門基礎科目との連携 現行の教育課程の下、効果的な連携を目指す。</p> <p>2. 学外研修関連 教養教育に関連する学外研修に参加し情報収集に努める。</p> <p>3. その他 その他、昨年度の状況を踏まえ、教養教育科の活動を充実させる。</p> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準3 教育研究組織 ①②</p> <p>基準4 教育課程・学修成果 ③～⑦</p> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>IV-1 (3)、VII-3 (1)</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 初年次教育関連 (入学前教育・導入教育を含む)</p> <p>[活動内容]</p> <p>◎ 英語：新型コロナウイルスの感染防止に配慮した上で、新入学生に対しプレイスメントテストを実施し、習熟度別クラス編成のために活用した。昨年は実施できなかった到達度テストを今年度は実施した。</p> <p>◎ 共通基礎科目：</p> <p>○ 化学・生物学… 新入学生に対し、4月に診断テストを実施し履修指導に活用した。推薦・一般選抜入学予定者に対し、自学自習を促す問題集を配布した。また、推薦入学予定者には答案を提出させ、2月中旬に添削して返却した。</p> <p>○ 基礎学修演習… 2教室 (7302, 7405) をオンラインで連結し、両方の教室に教員を配置した上で、対面授業により授業をおこなった。</p> <p>◎ 専門教育科目との連携：カリキュラム・マップに従い、教養教育科目群の各授業を実施した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>昨年度よりも、新型コロナウイルス感染防止の対応が、より対面授業を可能とする内容となり、現行教育課程における所期の目的を達成できつつあることは評価できる。ただし、未だ、教室の収容人数制限や時間割編成の困難さから、土曜日開講や遠隔授業などが残り、これらは今後の課題として残る。</p> <p>2. 学外研修関連</p> <p>[活動内容]</p> <p>東北・北海道地区大学等・高等共通教育研究会 (岩手大学・遠隔) に参加した。教養教育科内で資料を回覧し情報共有した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>他大学における教養教育について、特に新型コロナ禍における教育の状況を把握</p>

	<p>できたことは評価できる。</p> <p>3. その他</p> <p>[活動内容]</p> <p>科目「健康とスポーツ I・II」は実技科目であり、従来から授業45時間（1コマ2時間×23回）で1単位として運用してきた。新型コロナ対策の下、教室・時間割など様々な制約から、実技の大部分を夏休み期間に集中的に実施せざるを得ず、科目を選択した（教職課程では必修）学生の負担が過重であるまま2年が経過した。また、感染防止対策が緩んだとしても、この状況は良くならないことが分かった。</p> <p>これを改善するため、科目「健康とスポーツ I・II」について、授業1コマ2時間×15回 = 30時間で1単位とするよう、履修規程を改正（教授会：9月）した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>次年度から学生の過重な負担が軽減されることは評価できる。</p>
次年度への課題	<p>1. 初年次教育関連（入学前教育・導入教育を含む）および、専門教育科目との連携を継続する。</p> <p>2. 学園中期計画および、客観的指標調査などを踏まえ、今後の教養教育科のあり方について検討を継続する。</p>

1. 教育課程

5) 看護栄養学研究科

担 当：看護栄養学研究科

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 将来ビジョン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学部卒業生の進学機会の拡大に向けた大学院体制の検討（教員体制、課程・分野・コースの拡大） ・ 看護栄養学研究科としての特色の明確化 課程毎のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを作成し公表している。これらから修了時に身に付けられる能力について具体的に示し、課程の特色として分かりやすく広報していくことを検討する。 ・ カリキュラム評価のPDCAサイクルの確立 アセスメント・ポリシーを作成し、学生の学修成果の評価について達成すべき質的水準とその評価の具体的実施方法を定める。内部質保証推進委員会と連携しPDCAサイクルを確立する。 <p>2. 教育課程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新カリキュラムの検討 2) アセスメント・ポリシーを作成する。 <p>3. 大学院生定員確保のための対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学院の広報活動（広報委員会、入試広報室との連携） <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院ホームページの見直しと充実（専攻分野等の紹介） ・ 大学院説明会の実施、公開授業、特別講義等の実施 ・ 科目等履修制度を利用して大学院教育を体験できるように検討 ・ オープンキャンパスでの大学院のPR、大学院ブースの設置、大学院生の活用 ・ ホームページに大学院に関する記事の掲載 ・ 大学院生募集のPR（大学院看護栄養管理栄養学専攻の案内送付） ・ 実習指導者会議、実習巡回時等の機会を活用してのPR、大学院案内、募集要項の配布等 ・ 学部生の進学支援の推進。奨学金制度の拡充案の策定と他大学院の情報収集。 <p>4. 大学院生の学習環境・研究活動の充実に向けての支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 院生PCソフトのバージョンアップ、院生学習室の備品等の購入 2) 本学で使用しているWeb会議システムZoom等を活用した授業・単位認定の栄養管理栄養学専攻での実施と看護学専攻での検討 3) 職業実践力育成プログラム認定制度（文科省）の申請の検討 <p>5. 教育実践・研究活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護栄養学研究科としてのFDの企画・運営 2) 看護栄養学研究科の特色を活かした実践・研究能力の向上 3) 両専攻の協働研究・協働事業の検討 <hr/> <p>（大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄）</p> <p>基準4 教育課程・学修成果 ①-⑦</p> <p>基準5 学生の受け入れ ①-④</p> <p>基準7 学生支援 ①-③</p> <hr/> <p>（中期計画戦略目標に該当する項番記入欄）</p> <p>II-3 3ポリシーとアセスメント・ポリシーの明確化（1）（2）</p> <p>II-4 特色を生かしたカリキュラムの編成・充実（1）</p>
-----------------	--

	<p>II-5 学修成果の可視化（４）</p> <p>II-6 FD・SD活動の充実、強化（１）</p> <p>IV-1 学部・大学院の将来ビジョンの再構築（４）</p> <p>V-1 学生の受入れ拡充（３）</p> <p>V-2 入学者選抜への対応（４）</p> <p>VI-1 学生支援策の充実（２）（３）</p> <p>VI-3 キャリア支援の充実・強化（１）（２）</p> <p>VII-1 地域との連携（５）</p>
活動内容の評価	<p>1. 将来ビジョン</p> <p>[活動内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護学専攻においては、高度実践看護師コースに在宅看護 CNS の教育課程を増設するための申請を行った。また、コース名を①修士論文コース、②高度実践看護師コース、③保健師コースの３コースに集約し、①および②の各分野については〇〇領域として示すよう整理を行った。これらの学則変更については、高度実践看護師コース在宅看護 CNS 領域の文部科学省への届け出の際に併せて行う予定である。 看護学専攻博士後期課程設置の申請準備について、設置準備室が中心となり進められた。 栄養管理学専攻においては来年度、所属教員を１名増やし、教員体制を強化する。 <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護学専攻においては、今年度掲げた目標の通り、課程・分野・コースの拡大として、在宅看護 CNS 領域の申請を行い教育課程が認定された。加えて博士後期課程設置申請の準備を進めることができた。 栄養管理学専攻においては教員体制の強化は達成できていると評価する。社会人のみならず、学部生に魅力ある大学院についてはさらに検討していく必要がある。 看護栄養学研究科としての特色の明確化については、３つのポリシーを作成し、これに基づいた教育の推進を今後も継続する。 <p>2. 教育課程</p> <p>1) 新カリキュラムの検討</p> <p>[活動内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護学専攻においては、現行カリキュラムの見直し等の検討は行わなかったが、新たに在宅看護 CNS 領域のカリキュラムおよび博士後期課程の検討を行った。 看護学専攻のコースの整理（３コースに集約し、コース内に各領域を位置づけ）を行った。 栄養管理学専攻は博士前期課程の選択科目の整理を行い、2023年度から新カリキュラムの運用を開始する。 <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護学専攻では、新たな教育課程の検討を行うことができたが、今後は現行カリキュラムの見直しも行う必要がある。 栄養管理学専攻が新カリキュラムの運用を開始出来ることを評価する。今後もより良いカリキュラム構築を目指す。 <p>2) アセスメント・ポリシーを作成する</p> <p>[活動内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育課程の PDCA サイクルの確立については、内部質保証推進委員会と連携し、アセスメント・ポリシーの検討を行ってきた。

[活動内容に対する自己評価]

- ・アセスメント・ポリシーの完成には至っていない。2023 年度も継続し体制整備を行う必要がある。

3) 現行カリキュラムに関する検討

[活動内容]

- ・看護学専攻では、未完成であった高度実践看護師コースのディプロマ・ポリシー(DP)到達度ルーブリック(自己評価表)の作成に着手したが、高度実践看護師(CNS)の機能・能力を評価可能とする内容にするには検討が十分には行えず、次年度も継続審議とすることとなった。但し、今年度の修了生に対しては、現時点での評価表を用いることとした。
- ・北海道大学大学院と共通する非常勤講師の講義を合同で実施できる体制の整備について、今後検討を進めることとした。

[活動内容に対する自己評価]

- ・当初は今年度中に高度実践看護師コースの DP 到達度ルーブリックを完成させる予定であったが、議論が不足し、暫定的な評価表となった。次年度は計画的に検討を進める必要がある。
- ・他の大学院との講義の合同実施に向けては、大学間協定や合同講義の規定等を整備する必要があるなど具体的な検討課題を明確にし、今後進めていく必要がある。

3. 大学院生定員確保のための対策

1) 大学院の広報活動(広報委員会、入試広報室との連携)

[活動内容]

- ・看護学専攻では、保健師コースのオープンキャンパスを2回実施し、修士論文コースは個別相談会を2回開催した。また、大学院生募集のチラシの作成・配付を行い、新たに開設予定の高度実践看護師コース在宅看護 CNS 領域については、チラシの作成および1月に大学ホームページへの掲載、SNS への投稿を行った。
- ・更に、学部3年生を対象に本学大学院保健師コースの紹介を2023年1月31日に実施した。参加者は8名であった。
- ・栄養管理学専攻は学部生を対象に大学院進学への意識づけのため説明会を開催し、栄養学科8月1日4名(3年生)、12月23日6名(3年生)の参加があった。
- ・2023年度入学者選抜の結果、看護学専攻は修士課程保健師コースに8名が合格した。(3月4日に高度実践看護師コース在宅看護 CNS 領域の入学者選抜を実施予定である。)栄養管理学専攻は博士前期課程に1名、博士後期課程に1名が合格した。

[活動内容に対する自己評価]

- ・栄養管理学専攻の大学院説明会等は参加者が少なく、さらに周知が必要だと感じた。しかし、参加者の意欲は高く、進学につながる可能性を感じた。
- ・2023年度入学者選抜の結果を踏まえると、看護学専攻は修士論文コース、高度実践看護師コースの広報活動を見直し、新たな方策を講じる必要がある。
- ・栄養管理学専攻は次年度の入学者数も定員に達することが出来ず、入学予定者は全て社会人であった。学部生の入学希望者を増加するために、次年度も学部生への広報を強化したい。

2) その他

- ・天使大学大学院看護栄養学研究科出願資格審査覚書を作成した。

	<p>4. 大学院生の学習環境・研究活動の充実に向けての支援</p> <p>[活動内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習環境整備として、看護学専攻では院生学習室 PC の統計ソフト SPSS のアップデートのため Base Ver. 28 を1台分購入し、インストールした。また、量的研究を行っている院生が最新バージョンの SPSS が使用できるよう、情報処理室の協力のもとパソコンの入れ替え等を行った。栄養管理学専攻では、栄養価算定ソフト「Excel アドイン栄養プラス」と食物摂取頻度調査「FFQ NEXT」の導入を解析用 PC 2 台に行った。 ・今後、院生学習室の PC 管理・整備は、図書情報課（情報処理室）、財務室と研究科の共同ワーキングで管理運営方針を決定する方向で検討が進んだ。 ・看護学専攻の長期履修生 2 名から前年度研究費残額の年度を超えた使用の願い出があり、対応した。 <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアのバージョンアップを行った事は院生の学修環境の向上に繋がり評価できる。しかし、院生に個別に配置している PC のソフトウェアについて、バージョンに新旧の差があり、この整備方針を検討する必要がある。今後は各専攻レベルで予算化し整備するのではなく、整備方針の明確化にあたって関係者により協議を行うことが確認され、院生学習室の計画的な環境整備に向けて一歩前進したと言える。 <p>5. 教育実践・研究活動</p> <p>[活動内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護栄養学研究科としての FD 第 1 回（栄養管理学専攻担当）8 月 3 日「2040 年を見据えた大学院教育について」北海道大学高等教育推進機構 准教授 山本堅一先生の講演はハイブリット方式で実施し、学内教職員 58 名の参加があった。 ・FD 第 2 回（看護学専攻担当）2 月 9 日「ケアの困難と可能性について」上智大学短期大学部英語科 教授 丹木博一先生の Zoom による講演を対面または録画視聴の方法で実施し、38 名（学内教員 37 名、院生 1 名）の参加（2 月 24 日時点）があった。 <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD 研修会を実施し、教員の見識を高めるために貢献できたと評価できる。 ・看護栄養学研究科の特色を活かした実践・研究能力の向上と両専攻の協働研究・協働事業の検討は進展がなかった。今後も継続して検討を行う事とする。
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学生確保に向けた広報活動の充実、奨学金制度の拡充案の検討を進める。 2. 看護学専攻では、修士論文コース、高度実践看護師コース、保健師コースの 3 コースが明確にわかるように、配布物や HP の整備に取り組む。 3. 内部質保証システム整備のための実質的な検討として、教育課程の PDCA サイクルを確立する。 4. アセスメント・ポリシーの専攻毎の検討と策定を早急に行う。ディプロマ・ポリシーに明示した学修成果についての適切な把握および評価について検討する。 5. 大学院生の学習環境の整備として、院生学習室の PC 管理・整備は、図書情報課（情報処理室）、財務室と研究科の共同ワーキングで管理運営方針を決定し、進める。 6. 大学院の教員体制の整備、大学院担当教員の負担軽減のための方策を検討し、両専攻の協働研究・協働事業の進展につなげる。

1. 教育課程

6) 助産研究科

担 当：助産研究科教務委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 実習施設の確保（継続・新規） 2. 教育分野の新カリキュラム等の改正準備 3. 教員および臨床指導者の教育・研究能力の強化 4. 質の高い専門職教育の提供 5. 助産研究科学則、諸規程の見直し 6. 入学選抜試験に関する見直し（助産入試広報委員会と共同）</p> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準4, 基準5, 基準6, 基準7 (日本助産評価機構)</p> <p>I:2, 2:1・2・3, 3:1, 4:1・2, 5:1・2, 7:1</p> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>II:1・2・3・4・5・6, III:1, IV:1, V:1・2, VI:1・2・3・4, VII:2, VIII:6</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 助産学実習として適切な実習施設の確保</p> <p>[活動内容] 従来の実習病院のほか、分娩件数が多いクリニック2か所を実習施設として確保し、今年度から実習を行った。新たに「乳児の成長発達・健康状態の把握や母親への育児相談」について学ぶ実習施設として4市町村の保健センターに協力を得て、1年次生の実習を行った。さらに、次年度の新規実習施設を4か新開拓した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 適切な新規実習施設を開拓できたことは、評価できる。</p> <p>2. 教育分野のカリキュラム等の改正に向けた準備、手続きを円滑に行う。</p> <p>[活動内容] 教育研究評議会や外部有識者との検討を経て、多くの意見や助言を得て改正カリキュラムを作成中である。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 改正カリキュラム案を作成にあたり、多くの関係者から有益な意見を得て慎重に進めていることは評価できる。今後は、確実な進捗を図り次々年度からの新カリキュラムでの開講を目指したい。</p> <p>3. 教育・研究能力の向上</p> <p>[活動内容] 1) 助産研究科FDの開催 清水嘉代子氏を講師に、「看護と政治」をテーマにFDを実施した。</p> <p>2) 修了生の動向調査および助産教育評価 教育評価を行うため、修了生の就職先から修了生の助産実践能力等の評価をお願いするアンケートの作成を行った。次年度に実施の予定である。</p> <p>3) 質の高い教育の維持・向上が可能な教員体制の検討 現在の教員体制（専任教員7名、臨床専任教員3名、兼任教員5名）では、専任教員にかかる負担が大きくなっている。教育の質の維持と教員の適正な授業担当の面からも専任教員の増員と非常勤講師の充実が必要と考える。</p>

4) 大学 FSDS への助産研究科教員全員の出席

大学 SDFD に専任教員全員が出席した。また、教授法の向上を目的に他学科の授業参観に出席した。助産研究科の授業2件を学内授業参観として公開し、感想や意見等のフィードバックを得た。

5) 教員の研究、進学の奨励とそれらが可能な環境整備の検討

学内研究費は2名、外部研究費は1名の専任教員が、研究補助金を得て研究中である。また、ICM（国際助産師連盟）の学会開催にあたり助産研究科教員の研究4件が受理された。

今後、長期の臨床研修や研究時間の確保、就業を継続しながらの進学希望に応えられる環境整備が必要と考える。

6) 院生による授業および実習に対する評価結果の活用

授業評価アンケートや実習終了後に評価アンケート調査の結果を次の授業計画に活用している。特に実習については、教員間だけではなく、臨床指導者会議で臨床助産師とも共有し、実習課題の共通認識を図っている。遠隔地でのインターンシップ型の実習では、実習期間の中間と終了時期にオンラインによるカンファレンスを行い、実習に進捗や実習目標の評価について、院生、臨床指導者、教員との間で共有している。

[活動内容に対する自己評価]

学内の SDFD や授業参観、学外のオンライン研修やセミナーに、各教員が積極的に参加していること、研究への積極的な取り組みについても評価できる。

4. 実習指導教員・臨床指導者の教育指導能力の向上

[活動内容]

臨床指導者会議を3回開催し、実習目標達成のための院生指導について意見交換を行った。また、今年度、新規の実習受け入れ施設を対象に、教員が施設に赴いて臨床助産師に対して研修を複数回行った。今後はコロナ禍以前に行われていた実習施設の助産師を対象にした臨床指導者FDを再開していきたい。

[活動内容に対する自己評価]

新規実習施設の助産師に対し、実習受け入れ前から助産実習指導者の役割や指導能力向上の研修を実施したことは評価できる。

5. 質の高い専門職教育の維持・向上

[活動内容]

1) メンターシップによる院生個別の学修支援

メンター教員は、年度初めや実習機会に個別面談を行い、学修や生活面の相談に応じている。また、実習施設担当や特別統合課題研究指導担当では、担当院生に適宜、個別の学修支援等を行っている。また必要に応じ、教員間で情報共有を図り効果的な学修支援につなげている。

2) 実習前学内演習充実（シミュレーター教材の導入）

乳児人形1体を購入した。その他、胎児超音波診断シミュレーション教材については今年度の購入は見送られた。演習の充実のために、現在保有の老朽化したシミュレーション教材の買い替えや新規教材購入について中長期的に計画し、教育環境を整備していきたい。

3) 専門職大学院教育の充実のための有識者会議の開催

	<p>外部委員3名、学内委員2名による教育課程連携協議会をオンラインで開催し、カリキュラムに対する評価、助言を得た。また、助産教育の有識者を招き、カリキュラム改正に関する助言を得た。</p> <p>学習効果が高い教材については、中長期的に計画のもと確保し、適切な学修環境を整備していきたい。今後も、専門職大学院の設置目的にかなう高度な専門職教育を維持継続するために、積極的に第三者評価を受け、点検と改善をはかっていきたい。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>院生の学修支援については、教員が、個々の院生の背景等を考慮した支援を行っていること、適切なカリキュラムの運用に外部有識者からの評価、助言を得ていることは評価できる。</p> <p>6. 助産研究科学則・諸規定の見直し</p> <p>[活動内容]</p> <p>入試に関する規定の見直しを行った。ほかの諸規定についても適宜点検し、状況にあった適切な諸規定としていきたい。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>一部の規定について見直し、適切な結果をえたことは評価できる。</p> <p>7. 入学選抜試験の試験時間等の見直し（助産入試広報委員会と共同）</p> <p>[活動内容]</p> <p>入試方法（試験科目の時間配分等）について見直しを行い、今年度の選抜入試から実施した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>入試方法について見直しを行い実施し、従前より効率的で効果的な入試方法となったことは評価できる。</p> <p>8. 日本助産評価機構による評価申請の準備</p> <p>[活動内容]</p> <p>日本認証評価機構への受審申請を行い、評価機構からの事前説明会（オンライン）に専任教員全員が出席した。内部質保証委員会を中心に準備を進め、学内関係者と事前打ち合わせ会を行った。今後、より計画的に進捗をはかっていきたい。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>教員間、学内関係者と情報を共有し、準備を開始したことは評価できる。</p>
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な選抜入試と優秀な入学院生の獲得 2. 大学の理念、専門職大学院として適切なカリキュラムの運用 3. 院生への支援体制（学修・生活支援） 4. 教育指導体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・適切な教員体制 ・教員人材の確保（適切な人材の採用） ・教育環境の充実（学内教育環境、適切な実習施設の確保） 5. 教員の教育・研究能力の強化と研究の奨励 6. 日本助産評価機構による認証評価の受審と認定

2. 学生の受け入れ

担 当：入試委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 各種入学者選抜について、一層、厳正な実施と円滑な運営に努める。</p> <p>2. アドミッション・ポリシーに相応しい入学者確保に向けた入学者選抜について検討を継続する。</p> <p>3. 新型コロナウイルス感染状況に対応する入学者選抜を行う。</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準5 学生の受け入れ ①、②、③、④</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>V-2、VI-4、VIII-6</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 入学者選抜制度に関する重点課題の見直しについて</p> <p>[活動内容]</p> <p>2023年度入学者選抜について、実施をした。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>当該選抜制度にかかる選抜要項内容、及び実施・運営に関する改正等について滞りなく行ったことは評価できる。特に、一般選抜の追試験を大学入学共通テストの成績を用いて行うことにより変更したことによって、業務負担及び経費の軽減がされたことは評価できる。その他、各種入学試験に関するアンケートを教職員対象に実施し、その結果等をもとに入試委員会で検討し、改善を続けていることも評価できる。</p> <p>[活動内容]</p> <p>インターネット出願の調査・研究について、実施をした。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>インターネット出願の導入校・費用面の調査を行った。紙の高騰も伴い、入学者選抜要項の作成費用とそれほど差がなく導入できることが判明したことは評価できる。2024年度以降入学者選抜に向けて導入できるよう引き続き検討を行う。</p> <p>[活動内容]</p> <p>新学習指導要領改訂後の入学者選抜について、検討を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>2025年度入学者選抜（新学習指導要領改訂後）の入学者選抜について検討を行い、受験生への混乱・公平性の担保が難しいことから見送ることを決定し、2年前公示ができるよう準備した点は評価できる。</p> <p>2. 選抜業務の円滑な運営について</p> <p>[活動内容]</p> <p>選抜業務の時間や役割を各学科・科、事務局へ周知し、人員配置等を考慮し円滑な運営を行った。また選抜当日に起こりうる災害や志願者が感染症に罹患した場合等の対応マニュアルを検討・作成した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>文部科学省の方針や大学入試センターの選抜要項変更等で、受験者に影響の無いよう入学者選抜要項を発行したことは評価できる。特例追試験の運営体制を整備し、受験者に影響の出ないよう通常の本試験と変わらず公正に実施したできたことは評価できる。</p>

	<p>3. 入試問題ミスの防止・早期発見について</p> <p>[活動内容] 選抜区分ごとに作成している本部要領及び実施要領内容を見直し、入試問題ミス防止・早期発見のための仕組みを検討・再構築を行う。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 一般選抜における出題ミスの防止対策として、問題作成及び校正スケジュールを早め、第三者機関による点検後に問題を修正する時間を昨年度よりも長く確保したことは評価できる。</p> <p>4. 大学入学共通テストの実施について</p> <p>[活動内容] 共同実施の北海道大学（実施本部）、藤女子大学（試験場）、東海大学（札幌キャンパス）と密に連携を取りながら大学入学共通テストを実施・運営した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 大学入学共通テストにおいては、責任大学として藤女子大学、東海大学の3大学でいずれも不備なく終了することができたことは評価できる。</p>
次年度への課題	<p>1. 志願者及び入学者確保に向けた新たな入学者選抜制度検討を行う。</p> <p>2. 既存の入学者選抜が安定的な志願者確保ができていないか見直す。</p> <p>3. 大学入学共通テストの実施・運営体制の反省や見直しを3大学で行う。</p>

2. 学生の受け入れ

担 当：広報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. ブランディング強化のため、広報ツールの充実を図る</p> <p>2. 看護栄養学研究科の広報活動強化</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準5 学生の受け入れ ② ③ ④</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>戦略目標V-1. 学生の受け入れ拡充 (2)</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. ブランディング強化のため、広報ツールの充実を図る</p> <p>[活動内容]</p> <p>学生の受け入れ方針に基づき、ブランディング強化のため、以下の通り学生募集を実施し、広報ツールの充実を図った。</p> <p>(1) ダイレクトメール (DM)</p> <p>① 受験生向け</p> <p>本学に資料請求があった高校生、既卒者、中学生などへ2023年度大学案内パンフレット、入学者選抜要項、過去問題集、OC案内チラシ、志願促進リーフレット、クリスマスカードを送付し、年度を通じたフォローアップを行った。</p> <p>② 高校進路指導部向け</p> <p>道内外の志願実績校(約200校)に対して、7月に2023年度大学案内パンフレット、入学者選抜要項、過去問題集、OC案内チラシ等を送付した。</p> <p>(2) オープンキャンパス (OC)</p> <p>人数制限及び感染対策に留意し、次のコンテンツを実施した。</p> <p>学科紹介・職業紹介・模擬授業・入学者選抜ガイダンス・学生発表(受験体験、学習・実習体験、学生生活など)・施設見学・交流コーナー</p> <p>① 第1回 6月18日(土) 高校3年生対象 午前・栄養、午後・看護 参加者数：看護学科99名 栄養学科60名 (申込制限：看護100名、栄養80名)</p> <p>② 第2回 8月1日(月)：栄養、8月2日(火)：看護 高校全学年対象 参加者数：看護学科157名 栄養学科111名 (申込制限 看護83名 栄養80名、両学科午前午後2回)</p> <p>③ 第3回 9月24日(土) 高校3年生対象 午前・看護、午後・栄養 参加者数：看護学科87名 栄養学科59名</p> <p>④ 第4回 3月25日(土) 高校1・2年生対象 午前・栄養、午後・看護 参加者数：看護学科129名 栄養学科56名 (保護者含む最大各200名程度)</p> <p>(3) 公式ホームページ (HP) によるPR</p> <p>① 基礎資料の掲載</p> <p>大学案内パンフレット、入学者選抜要項、各種広報チラシ、Web型OC資料などの閲覧及びダウンロードを可能としている。</p>

② 教員紹介の更新

看護栄養学部及び看護栄養学研究科の全教員の紹介を目的とした「顔と人物」がわかる親しみやすいページに更新した。

③ トップページ写真等の更新

トップ画面などの写真等を入れ替え、イメージを刷新した。

(4) 高校訪問、進学相談会・校内ガイダンス、模擬授業

① 高校訪問

入試・広報室員が6月下旬から道内約110校の高校を訪問し、一般選抜における新型コロナ感染による追試代替として大学入学共通テスト利用選抜の点数を用いる変更点などを広報した。

② 進学相談会・校内ガイダンス

新型コロナが収束するにつれ都度開催され、不定期に増加し、蔓延すると非開催となる傾向を数回繰り返す中、感染防止対策を講じながら道内各地の約73会場へ教職員が参加した。

③ 模擬授業・大学訪問

コロナ禍ながら徐々に高校から要望があり、道内のべ17校で模擬授業及び職業に関する解説等を行った。

(5) 広報活動勉強会

教職員が現状の学生募集について共通認識を持つため、以下を開催した。

テーマ：「一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜の傾向 学生募集事例に関して」

日 時：2022年5月25日(水)

講 師：(株)リクルート 梅津 直弥

(6) 内部質保証（点検評価）に向けたデータ整理・活用

次の活動評価指標を整理し、データを蓄積して改善につなげた。

- ・入学者選抜データ
- ・新入生アンケート
- ・OCデータ
- ・OC参加者アンケート

[活動内容に対する自己評価]

活動内容は昨年とほぼ同じ内容となったが、コロナの状況を注視しながら、オープンキャンパスにおいては受け入れ人数を増やして体験型コンテンツを企画したり、高校訪問や進学相談等の対応件数も増やして本学の認知度を高める活動を活発化させたことにより、一定数の志願者確保ができたと評価できる。

また、18歳人口減に伴う本学志願者数の減少に対する現状を客観的に把握するために勉強会を開催したり、入試・広報データの整理分析に取り組んだことは広報活動の課題を明確化する上で有効であったが、新たな活動の展開には至らなかった。次年度は全教職員と志願者減少の実態および定員割れリスクに関する現状認識を共有しながら、受験者確保のための新たな広報戦略の実施につなげるのが課題である。

	<p>2. 看護栄養学研究科の広報活動強化</p> <p>[活動内容]</p> <p>各専攻と連携し、以下を実施した。</p> <p>① 大学案内パンフレットの充実、大学院ホームページの改修</p> <p>ページ構成(コース配列)の整備および基礎看護学コースの追加掲載を行った。また、大学院ホームページは、より見やすく大学院の情報を得られやすい構造に変更するとともに、大学院の取り組みや新着情報を発信しやすくする工夫を施して、現在改修作業中である(3月完成予定)。</p> <p>② 大学院案内やチラシ等によるPR</p> <p>実習施設に対する大学院案内パンフレット、入学者選抜要項、看護学専攻チラシ、保健師コースチラシについて、6月に看護系大学及び実習施設等に送付または担当教員が持参、および本学の看護学科生にも配布した。また、看護学専攻在宅看護CNSコースの申請後にコース概要を記したチラシを作成・配布、公式ホームページおよびSNSに掲載し、学生募集要項を配布した。</p> <p>③ オープンキャンパス等によるPR。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天使大学在学生(看護、栄養学科)対象の説明会 <ul style="list-style-type: none"> 看護学専攻 1月31日(火) 保健師コース説明会 8名 栄養管理学専攻 12月23日(金) 6名 ・ 個別相談会 <ul style="list-style-type: none"> 看護学専攻 8月2日(火) ホスピス緩和ケア看護学コース 1名 栄養管理学専攻 8月1日(月) 4名 ・ オープンキャンパス、大学院説明会 <ul style="list-style-type: none"> 看護学専攻(オープンキャンパス) <ul style="list-style-type: none"> 6月18日(土) 保健師コース 13名 8月2日(火) 保健師コース 13名 栄養管理学専攻(大学院説明会) <ul style="list-style-type: none"> 8月20日(土) を予定したが申込者なし <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>昨年度より大学院の認知度を高める方策を検討し、上記を実施しアピールを試みたが、今年度は志願者の増加には至らなかった。引き続き看護栄養学研究科と連携し、ホームページコンテンツの充実を図るとともに、大学院の情報発信を積極的に行って、アピールを強化したい。</p>
次年度への課題	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブランディング強化のため、広報ツールの充実を図る 2. 新たな志願者層開拓(受験生への早期接触と多様な高校生へのアピール) 3. 看護栄養学研究科の広報活動強化 <p>【重点課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院入学者数の増加にむけた広報活動の充実 2. 栄養学科の志願者数の増加にむけた広報活動の充実

2. 学生の受け入れ

担 当：助産入試広報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 限られたマンパワー・予算の中で、「アドミッション・ポリシーに適った志願者」が増加するよう、広報効果の最大化を図る。</p> <p>2. 入試選抜のミス防止に十分配慮するとともに、円滑で遺漏のない選抜の実施・運営に万全を期する。</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準5 学生の受け入れ ①、②、③、④</p> <p>日本助産評価機構基準番号 第3章 入学者選抜 3-1-1、3-1-2、3-1-4、3-1-5</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>V-1、V-2</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 入学者選抜の見直しについて</p> <p>[活動内容]</p> <p>限られた人員で試験監督と出題者を兼ねる状況もあるため、事務局協力も含め、万全の体制で試験を実施できるよう検討した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>教員が、新型コロナウイルス罹患しても対応できるよう教職員の配置を増員したことは評価できる。あわせて、受験者数が増加したため、収容人数の多い講義室及び面接室を増室し、受験生負担を軽減したことは評価できる。受験生が新型コロナウイルス感染症などに罹患しても対応できるよう昨年度と同様の追試験日程を定め、面接試験室ドアを開放・手指消毒の呼びかけ等の感染予防を徹底し選抜を行ったことは評価できる。</p> <p>2. 看護系大学や病院等への広報活動を強化する。</p> <p>[活動内容]</p> <p>助産研究科フライヤー・ポスターおよびパンフレット完成後、以下の対象に対して一斉送付を行った。</p> <p>①道内看護系大学 ②完成年度を迎える新設看護系大学 ③その他、全国の看護系大学</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>パンフレット及び助産研究科フライヤーを一斉送付した結果、オープンキャンパスの参加者数及び出願者数が例年と比べ増加したことは評価できる。</p> <p>3. ターゲットとの対面広報活動（オープンキャンパス等）を重視する。</p> <p>[活動内容]</p> <p>参加者の増加と高い満足度の維持を図るため、オープンキャンパスの開催内容について検討した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>新型コロナウイルスの影響で昨年度実施できなかった来場型のオープンキャンパスを8月に実施し（参加39名）、6月はWEB配信方式で実施したため、全国各地からの参加希望者がいた（参加40名）ことは評価できる。</p>

次年度への課題	<ol style="list-style-type: none">1. WEBサイトについて、他の大学院との違い等、訴求内容が伝わりやすいよう見直しを行う。2. さらに魅力あるオープンキャンパスへの動員および出願者を増加させるため、引き続き、オープンキャンパスの魅力あるコンテンツの検討を行う。3. 天使大学 看護学科学生に対する広報活動を強化する。 ①天使大学 看護学科学生対象のオープンキャンパスを実施する。 ②学部進学者のメリット（入試、学費等）を検討する。4. 看護系大学や病院等への広報活動を強化する。 ①道内看護系大学 ②教育分野受験生への広報（ペリネイタルケア広告）5. 入試ミス防止に十分配慮するとともに、円滑で遺漏のない入学試験の実施・運営に万全を期する。限られた人員で実施するため、事務局の協力も含めた体制を検討する。
---------	--

3. 教員組織

担当：教育研究評議会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 2022年度においても、早期に人事方針を策定するよう努める。</p> <p>2. 看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程の設置に向けた取組みを推進する。</p> <p>3. 栄養学科における医師教員の確保等の教員体制の整備に努める。</p> <p>4. 教養教育科については、法人統合に伴う検討が進められていることを考慮し、教職課程を担う教員等の必要な教員の確保策について人事ヒアリング等により学内検討を進める。</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準6 教員・教員組織 ①、②、③、⑤</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>戦略目標IV 教育に関するビジョンの構築</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 人事方針の策定について</p> <p>[活動内容]</p> <p>2023年度人事方針を2022年5月理事会で決定した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>早期に人事方針を決定したので、教員募集大綱の決定、8月からの教員公募の開始により、必要な教員確保につなげることができたことは評価できる。</p> <p>2. 看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程の設置について</p> <p>[活動内容]</p> <p>2023年度人事方針で看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程の2024年4月の設置に向けて取り組むことを決定し、6月に同設置準備室を設置した。教育課程、〇合教員の確保、学則改正の準備、授業料等について検討を重ね、理事会に関係議案を提案する等、文部科学省への申請に向けて着実に推進してきた。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>2023年3月に文部科学省への申請準備ができたことは評価できる。</p> <p>3. 栄養学科における医師教員の確保について</p> <p>[活動内容]</p> <p>2023年度から栄養学科に医師教員を確保することができた。</p> <p>2023年度採用予定者：柳澤 健 教授</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>懸案であった医師教員を採用できたことは評価できる。</p> <p>4. 教養教育科について</p> <p>[活動内容]</p> <p>(1) 2023年度から新たに教職課程を担う教員を確保することができた。</p> <p>採用予定：二宮 信一 教授</p> <p>(2) 病気休職中の教養教育科教員から2022年度末での退職届が提出された。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>教職課程担当の教員採用は評価できるが、退職教員の後任者の確保を含め2024年度からの教養教育科のあり方については早急に方向性を示す必要がある。</p>

次年度への課題	<ol style="list-style-type: none">1. 学長による学科長等からの人事ヒアリングの前倒しと人事方針の早期策定2. 看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程の設置に向けた取組みの推進3. 2024年度に向けた教養教育科教員の確保とあり方検討4. 2024年度に向けた大学及び大学院の常設委員会等の見直し検討
---------	--

4. 研究活動・研究環境

担当：学術振興委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 科学研究費等競争的外部研究資金獲得のための情報提供や研究発表の機会を設け、研究意欲の発揚と共同研究の推進に努める。</p> <p>2. 天使大学紀要を年2回発行する。</p> <p>3. 本学ホームページに、研究成果を掲載するバナーを新たに設置する。</p> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準8 教育研究等環境 ③</p> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>III-1 (2)</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 科学研究費等競争的外部研究資金獲得のための情報提供や研究発表の機会を設け研究意欲の発揚と共同研究の推進に努めた。</p> <p>[活動内容]</p> <p>「2022年度科研費獲得セミナー」を実施した。</p> <p>実施日： オンデマンド形式で、9月1日～31日に配信</p> <p>テーマ： 科学研究費獲得のコツと戦略 part. 2</p> <p>講師： 竹宮孝子氏 (株) Machiim 代表取締役、元文部科学省学術調査官 日沼千尋氏 天使大学看護栄養学部看護学科 教授</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>科研費獲得セミナーは、2021年度から竹宮孝子氏を講師として実施し、アンケート回答者の約8割が「よく理解できた」と回答し、次回以降も竹宮孝子氏のセミナーを希望する声が多くあったことは大変評価できる。また、科研費申請「個別コンサルタント」に、1件の申込みがあったことも評価できる。</p> <p>[活動内容]</p> <p>「科学研究費アドバイザー」を選出し申請書の作成等各種相談体制を整備した。</p> <p>看護学科 教授 日沼千尋氏 看護学科 教授 小澤芳子氏 栄養学科 教授 鈴木純子氏 教養教育科 教授 鹿内信善氏 助産研究科 教授 中田かおり氏</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>各学科・科の協力のもと「科学研究費アドバイザー」を選出・依頼し、申請書の作成等各種相談体制を整備し、科研費獲得のために大学が一丸となって協力体制を構築していることは評価できる。</p> <p>[活動内容]</p> <p>研究のための「よろず相談」を、学術振興委員が担当した。</p> <p>委員長 榊建二郎 (看護関係) 委員 田中さおり (看護関係) 委員 西隆司 (栄養関係) 委員 片倉裕子 (助産関係)</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>若手教員の研究活動が推進されるよう、学術振興委員が中心となって、研究のための「よろず相談」体制を整備し、相談に対応できたことは評価できる。</p>

〔活動内容〕

特別研究費による報告会を、2023年3月16日に実施した。(予定)

①看護学科 講師 秋山雅代氏

「熟練看護師が行う介助シャワー浴の技術の構造化」における予備的研究

②看護学科 教授 伊藤治幸氏

大学生を対象としたヘルスリテラシーの多面的評価に関する研究

③助産研究科 講師 長田雅子氏

女子高校生への性教育実習を経験した助産大学院生のプレコンセプションケアに対する意識の変化

④助産研究科 助教 杉田樹美氏

後輩の指導・教育能力に関する助産師の学修ニーズ

〔活動内容に対する自己評価〕

特別研究費による研究報告会は、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、2019年度、2020年度、2021年度は対面開催を中止し、本学図書館ホームページ「本学の研究成果」に要旨の掲載をもって報告としていた。

2022年度は、コロナ感染状況を注視しながら2023年3月16日に、対面で開催したことは評価できる。(予定)

2. 2022年度天使大学紀要を年2回発行した。

〔活動内容〕

2022年度天使大学紀要第23巻第1号、第2号を発行した。

1) 紀要第23巻第1号(2022年9月30日発行)

①栄養学科 准教授 西隆司氏

「市販ゲル化剤を用いた米粥ゲルの物性に対する高温保温及び室温放置の影響」

②看護学科 助教 田中裕子氏他

「遠隔授業下におけるジグソー学習法を用いた老年看護学看護過程演習の実践報告」

2) 紀要第23巻第2号(2023年3月31日発行予定)

①看護学科 講師 伊織光恵氏他

「小児看護学臨地実習におけるルーブリック 評価表導入の試み」

②看護学科 助教 重岡妙氏他

「中等度及び重度認知症高齢者の足病変に注目した転倒リスクアセスメント」

〔活動内容に対する自己評価〕

2022年度天使大学紀要第23巻第1号、第2号を2回発行し、機関リポジトリに公開したことは評価できる。

〔活動内容〕

天使大学紀要「執筆要領」を一部修正した。天使大学紀要の新たな資料として、「利益相反(COI)自己申告書」「投稿時チェックリスト」を作成した。

〔活動内容に対する自己評価〕

「利益相反(COI)自己申告書」の提出により、個人的利益等に関する透明性を確保し、産学連携等の活動から生じた利益相反について、大学として、その正当性の確保につながることは評価できる。

	<p>3. 本学ホームページに、研究成果を掲載するバナーを新たに設置した。</p> <p>〔活動内容〕</p> <p>本学ホームページに研究成果を掲載するバナー「本学の研究活動」を新たに設置した。(2022年10月3日第6回教育研究評議会：報告第2号)</p> <p>〔活動内容に対する自己評価〕</p> <p>本学ホームページにバナー「本学の研究活動」を新たに設置した結果、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 本学教員・大学院生による新着の論文・著書などの紹介、 2) 大学院生による学会発表の紹介、 3) 科学研究費補助金・民間助成金など競争的外部研究費の獲得課題の紹介、 4) 天使大学紀要の発刊案内等を掲載、 <p>以上の内容から、学内外の学術情報流通の拠点となったことは評価できる。</p>
<p>次年度への課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学研究費等競争的外部研究資金獲得のための情報提供や研究発表の機会を設け研究意欲の発揚と共同研究の推進に努める。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「2023年度科研費獲得セミナー」は、教員から希望の多い竹宮孝子氏を講師として実施する。 2) 各学科・科の協力のもと「科学研究費アドバイザー」を選出・依頼し、申請書の作成等各種相談体制を継続して整備する。 3) 若手教員の研究活動が推進されるよう、学術振興委員が中心となって、研究のための「よろず相談」体制を整備する。 4) 特別研究費による報告会は、コロナ感染状況を注視しながら年度末(3月)に体面で実施する。 2. 2023年度天使大学紀要第24巻第1・2号を発行し、機関リポジトリに公開する。 3. 2022年度に設置したバナー「本学の研究活動」を研究成果の発信ルートとして、本学教員が国内誌・国際誌に発表した論文・総説、出版した著書のほかに、大学院生による学会発表、科学研究費補助金などの外部資金獲得、研究に関する受賞等本学の研究活動に関わる様々なことを紹介し、本学の学部・大学院に興味を持たれている中高生・大学生・社会人の方々に、本学教員がどのような研究をしているかを広く知って頂く機会とする。

4. 研究活動・研究環境

担当：研究倫理委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 研究の活性化に対応できる倫理審査の実施 2. 迅速かつ厳正な倫理審査 3. 教員の倫理的感受性の向上に取り組む 4. 倫理審査体制の改善 5. 倫理体制の明確化</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準8 教育研究等環境⑤</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>VIII-6 (2) 科研費補助金の不正受給の防止対策の推進</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 研究の活性化に対応できる倫理審査の実施 [活動内容] 年度初めに作成した日程表のとおり、滞りなく委員会を開催した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 研究の活性化に対応するため、原則として毎月開催することで、切れ間なく倫理審査を実施することができた。</p> <p>2. 迅速かつ厳正な倫理審査 [活動内容] 倫理審査の焦点を明確にし、研究対象者の保護と権利の確保に重点をおき倫理審査を行った。また、委員会開催前に委員に対し申請書類を配布し、事前に意見聴取を行った上で審議を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 研究倫理委員会として公正な審査を実施することができた。また、各委員からの意見を事前に申請者に伝え、必要に応じ修正された申請書類を委員会で審議することで、迅速な倫理審査を実施することができた。</p> <p>3. 教員の倫理的感受性の向上に取り組む [活動内容] 2021年度に制定された「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の理解を深めることを目的として、研究倫理研修会をウェブセミナー形式で6月に開催した。また、6月までに研究倫理申請があった申請者については、日本学術振興会によるeラーニング研修の受講により対応した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 倫理指針に定められた研究を行う上で遵守しなければならない事項についての理解を深めることができ、本学教員の倫理的感受性の向上に繋げることができた。</p>

	<p>4. 倫理審査体制の改善</p> <p>[活動内容]</p> <p>倫理審査上、確認が必要なことは倫理審査受審者を委員会に呼び出し対面での審査を行うため、原則として受審者を委員会の開催時間に研究室で待機させることについて、周知を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>実際に委員会中に呼び出しを行った事例は無かったが、体制の改善を図ることができた点は評価できる。</p> <p>5. 倫理体制の明確化</p> <p>[活動内容]</p> <p>委員長代行の指名や委員会規程に定められた委員構成の確認などを年度初めに行い、本学研究倫理委員会の倫理体制について委員間で確認した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>委員会の規程および運営方法についてあらかじめ共有しておくことで、委員会の運営を円滑に進めることができた。</p>
次年度への課題	<p>1. 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、研究対象者の保護と権利の確保に重点をおいた公正な審査を行うとともに、従来どおりの迅速な倫理審査を実施する。</p> <p>2. 引き続き、倫理審査体制の改善および倫理体制の明確化を図り、委員会の運営がより円滑に行われるよう取組を行う。</p> <p>3. 教育活動等により倫理審査申請前に得られたデータを使用する研究に対する倫理審査について、本学の対応方針を検討する。</p> <p>4. 学生を対象とする研究に対する倫理審査について、本学の対応方針を検討する。</p> <p>5. 学内外からの要請により新たに見直しや検討を行うべき事項が生じた場合は、直ちに委員会で検討し、必要な対応を行う。</p>

4. 研究活動・研究環境

担 当：病原体等安全管理委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 保有している病原体等を引き続き安全に管理する。 2. 病原体等の入手・分与の際には、安全性を考慮し、適切に対応する。 3. 関係省庁の病原性微生物の保管・管理に関する調査へ随時対応する。</p> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準 8 教育研究等環境①、④</p> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 保有している病原体等を引き続き安全に管理する。 [活動内容] 2021年度に制定した「遺伝子組換え実験に関する基準要領」に基づき天使大学が保有する病原体等を安全に管理した。 [活動内容に対する自己評価] 関係諸規程等に従い安全かつ適切に対応したことは評価できる。</p> <p>2. 病原体等の入手・分与の際には、安全性を考慮し、適切に対応する。 [活動内容] 実験継続者から提出(1件)された「遺伝子組換え実験計画書」について内容を確認した結果、管理方法等に問題は見当たらなかったため「承認」とした。 なお、病原体の分与及び譲渡の申請はなかった。 また、公益社団法人日本実験動物学会開催の「動物実験の外部検証 令和5年度の実施に向けた事前説明会・個別相談会」に参加し、知見を深めた。 [活動内容に対する自己評価] 適切に対応したことは評価できる。</p> <p>3. 関係省庁の病原性微生物の保管・管理に関する調査へ随時対応する。 [活動内容] 文部科学省研究振興局から2023年1月10日付で依頼があり、病原性微生物等の保有状況を確認し回答した。 [活動内容に対する自己評価] 適切に対応したことは評価できる。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 保有している病原体等を、引き続き安全に管理する。 2. 病原体等の入手・分与の際には、安全性を考慮し、適切に対応する。</p>

5. FDSD活動

担当：FDSD委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 「天使大学における人材育成の目標・方針とFDSD実施計画」に掲げる目標を達成するため、別に定める「FDSD活動実施要項」に基づき研修等を実施する。</p> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準6、基準10</p> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) II-6</p>															
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 教員間の授業参観の実施</p> <p>[活動内容]</p> <p>参観の方法について、動画視聴を基本とすること、各学科・科・研究科の参観用動画の提供最低数を設定することについて決定し、前期に実施要項を改正した。設定した提供最低数と提供数は、以下のとおりであり、提供最低数に届かない学科があった。</p> <table border="1" data-bbox="512 969 1203 1189"> <thead> <tr> <th></th> <th>提供最低数</th> <th>提供数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護学科</td> <td>6件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>栄養学科</td> <td>4件</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>教養教育科</td> <td>1件</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>助産研究科</td> <td>2件</td> <td>2件</td> </tr> </tbody> </table> <p>授業参観の実施状況については、2023年2月24日時点で19名の参加であった。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>動画視聴を基本とすることで、教員が授業参観しやすい環境を整えることができた。また、学科・科・研究科の参観用動画の提供最低数を設定することで、参観用コンテンツの充実を目指したが、看護学科と栄養学科は提供最低数に届かず、学科教員へのアナウンス・働きかけを強化する必要があった。</p> <p>授業参観の実施状況については、2023年2月24日現在で19名の参加にとどまっているものの、実施期間は3月31日までとなっており、また、例年開講期終了後の2～3月にかけて参観する教員が多く、年度末にかけて参観者数が伸びるものと考えている。</p> <p>2. 学生による授業評価アンケートの実施</p> <p>[活動内容]</p> <p>前期及び後期に学生による授業評価アンケートを実施した。また、教育の質に係る客観的指標調査の項目⑮「学生による授業評価結果の活用」に対応するため、評価が低い科目に対し授業改善計画書の提出を義務付ける「授業の改善を図るための取り組み」を実施要項に加える改正を行った。しかし、改正内容の適用を早急に進めたことで改正内容の問題点について指摘があり、「授業改善計画書の提出対象か否かを委員会で審議して最終判断を行う」こととする更なる改正を行った。</p>		提供最低数	提供数	看護学科	6件	1件	栄養学科	4件	3件	教養教育科	1件	4件	助産研究科	2件	2件
	提供最低数	提供数														
看護学科	6件	1件														
栄養学科	4件	3件														
教養教育科	1件	4件														
助産研究科	2件	2件														

	<p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>Web 回答方式に変更してから回収率の低下が課題であったが、学生に向けたアンケート回答のアナウンスを強化することで、複数の科目で回収率が上昇した。「授業の改善を図るための取り組み」として評価が低い科目に対し授業改善計画書の提出を義務付けることを盛り込み「授業評価アンケート実施要項」を改正したことで、客観的指標調査の項目⑮「学生による授業評価結果の活用」には対応できた。</p> <p>3. FD及びSD研修会の実施</p> <p>[活動内容]</p> <p>FDは、本委員会主催の研修会を動画配信で9月に実施したほか、6月に研究倫理委員会、8月に看護栄養学研究科栄養管理学専攻、9月に助産研究科、2023年1月に教職課程委員会、2月に看護栄養学研究科看護学専攻が主催したFDをそれぞれ実施した。</p> <p>SDは、本委員会主催の研修会を対面及び動画配信で8月から9月にかけて実施したほか、8月に学園が教職員説明会、同じく8月にハラスメント防止委員会とキャンパス・ハラスメント対策委員会の共催でハラスメント相談員研修会、カトリックセンターが12月に教職員修養会をそれぞれ実施した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>いずれの研修会も動画視聴による参加も可能とすることで、教職員の参加機会を確保することができた。</p> <p>4. 学生の学修時間及び学修行動の調査結果の報告</p> <p>[活動内容]</p> <p>教育の質に係る客観的指標調査の項目⑬「学生の学修時間・学修行動の把握」については、当初は授業評価アンケートにおける学習時間の回答結果を基に行う予定であったが、“「学修行動の把握」は、授業評価アンケートの結果からは把握できない”等の理由により、「2020年度学生生活についての調査報告書」の該当部分の集計結果および分析内容を第5回教授会にて報告した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>FDS D委員会が実施した調査ではなかったが、集計結果に基づく分析内容を教授会に報告したことで、教育活動の見直しに活用すべく課題の把握と必要な対応についての審議ができ、教育の質に係る客観的指標調査の項目⑬「学生の学修時間・学修行動の把握」の担当部署として対応できた。</p>
次年度への課題	<p>1. 授業評価アンケートについて、質問項目などの見直しを行う。また、回収率の上昇に向けて、学生への周知等の強化を継続する。</p> <p>2. 教員間の授業参観について、参観用動画の提供最低数を全学科・科・研究科が上回るようアナウンス・働きかけを強化し、コンテンツの充実を図る。また、可能な範囲で対面での授業参観を進める。</p> <p>3. 本学の状況や課題に即したテーマや内容となるようFD・SD研修会を企画し、実施する。</p>

6. 社会貢献

担 当：地域連携等委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 2022 年度天使大学・北海道科学大学公開講座の実施及び 2023 年度公開講座の企画 2. 東区役所との連携事業及び 5 者連携事業の推進 3. 大学間（北海道科学大学等）の連携事業等の展開 4. 地域・他大学との連携事業の実態把握 5. 国・行政の地域連携の施策等の把握</p> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準 9 社会連携・社会貢献 ①、②、③</p> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) VII：地域連携と社会貢献の促進・充実 VII-1</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 2022 年度天使大学・北海道科学大学公開講座の実施及び 2023 年度公開講座の企画 [活動内容] オンデマンド形式で開催し、161 名（2021 年度 178 名）の受講申し込みがあった。 2023 年度についても引き続きオンデマンド形式にて開催する予定である。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 昨年度より申し込み者数はやや減少したため、DM の送付先について検討する必要がある。なお、札幌市外の参加者の割合が高く、年齢層も対面時よりも若返っているため、時間や場所の影響を受けないオンデマンド形式の実施は評価できる。</p> <p>2. 東区役所との連携事業及び 5 者連携事業の推進 [活動内容] 1) 5 者連携事業イベント「ひがしく健康・スポーツまつり」は、つどーむで 3 年ぶりの開催となり、ブース参加（「正しい手指消毒の仕方！&食事バランス・塩分チェック！」）を行い、教職員と学生（両学科計 14 名）が参加した。地域住民 120 名の参加があった。 2) 「ひがしく健康づくりフェスティバル」は新型コロナウイルス感染症拡大のため、昨年度に引き続き開催中止となった。その代替開催である「東区健康づくりパネル展」に参加協力し、学生ボランティアを募り、「歩行時間増加」および「減塩のすすめ」のテーマについてポスター・リーフレットを作成し、発表展示した（両学科計 9 名の学生が参加）。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 新型コロナウイルス感染症で制約がある中で実施内容について工夫し、結果、イベントでは想定を超える参加者がいたことは評価できる。</p> <p>3. 大学間（北海道科学大学等）の連携事業等の展開 [活動内容] 北海道科学大学が実施する「夕張地域医療体験」について、参加学生の募集を行った結果、定員を超える 5 名の申込があった。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 12 月に新型コロナウイルス感染症拡大のため、昨年度に引き続き開催中止となった。</p>

	<p>4. 地域・他大学との連携事業の実態把握</p> <p>[活動内容]</p> <p>東区役所を通じて企業からの連携事業の提案があり学生の修学の観点から検討を行った。また、実態把握について、学内の「地域連携事業活動報告書」の提出数が少ないという認識から、提出方法等の改善について検討を行い、様式を変更しオンラインでの提出とした（実施は2023年度）。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>「地域連携事業活動報告書」について、提出しやすい様式と方法に変更したことは評価できる。</p> <p>5. 国・行政の地域連携の施策等の把握</p> <p>[活動内容]</p> <p>今後の動向について委員会で情報を共有しながら把握を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>国の動向を引き続き情報を把握していく。</p>
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 5者連携事業をはじめ、東区役所との連携を一層推進していく。 2. 本学 web サイトを通じ社会貢献・地域連携活動の情報を発信する。 3. 北海道科学大学・介護予防センター等との連携について検討する。 4. 国・行政の地域連携の施策の動向を把握し、本学の取組について検討していく。

7. 国際交流

担 当： 国際交流委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. コロナ後、法人統合後を見据え、天使大学の規模を考慮した国際交流活動の在り方について検討する。</p> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>VII-3</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 天使大学における国際交流に関する活動について</p> <p>[活動内容]</p> <p>2016年11月設置以降の国際交流委員会の事業、活動内容を振り返り、今後の天使大学における国際交流活動の在り方を検討した。方向性としては、現状の大学の規模、あり方、ニーズを考慮した活動を具体的に検討し、実施していくこととした。</p> <p>海外の大学等への情報発信のため、英語版ホームページを作成することを委員会で決定し、2023年度の開設に向けて予算要求を行った。</p> <p>2019年に加盟した東アジア及び東南アジアカトリック大学連盟 (Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities: ASEACCU) の活動については、2020年からのコロナ感染症拡大の影響により中止せざるをえない状況が続いているが、コロナ後を見据え、活動の充実に向けた取り組みが必要である。2024年4月の法人統合を機に、すでにASEACCUの活動を長く経験している藤女子大学と天使大学とが合同で国際交流について検討できるような両大学合同組織の設置を検討いただきたい旨、学長に要望書を提出した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>本委員会設置以降の活動を振り返り、今後の本学における国際交流活動および国際交流活動について検討し、法人統合を契機とした新しい組織のあり方についての提案にいたることができた。また、本学の規模、あり方、ニーズを考慮した国際交流活動として、札幌在住の留学生との交流など、身近でこれまで実施していなかった提案について、今後具体的に検討をすすめていく。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 英語版ホームページの設置</p> <p>2. 国際交流活動における藤女子大学との連携のあり方に関する検討 (合同組織設置を含む)</p> <p>3. 本学の規模、あり方、ニーズを考慮した国際交流活動の具体的な検討</p>

8. 学生生活

担 当：学生委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 変異する新型コロナウイルスの特性を捉え、学生の学修機会の確保と、感染防止対策の徹底の両立を図る。また、新型コロナウイルスの影響による学生の経済状況の変化を引き続き観察し、必要に応じて適切な支援を行う。</p> <p>2. 現在検討を続けている「本学の新しい奨学金制度」を各部署等と調整して成案させ、2023年4月から運用する。</p> <p>3. 新型コロナウイルスの感染拡大状況に十分配慮しながら、ハイブリッド（対面・オンライン）の「天使祭」の安心・安全に実施・運営できるようにサポートする。</p> <p>4. 危機管理マニュアル「学生関連個別マニュアル」の「事例ごとの対応」を、優先度の高いものから順次整備する。</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準7 学生支援 ①～③</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>VI 包括的な学生支援策の充実</p> <p>1 学生支援策の充実</p> <p>2 健康管理面の支援</p> <p>4 学生情報の適正管理と活用</p> <p>VII 地域連携と社会貢献の促進・充実</p> <p>1 地域との連携</p> <p>3 国際交流の推進</p> <p>VIII 経営基盤の充実</p> <p>7 危機管理体制の整備</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 新型コロナウイルス感染防止対策</p> <p>[活動内容]</p> <p>①感染防止対策の緩和</p> <p>いまだ新型コロナウイルスが収束したと言える状況ではないが、本学学生の新型コロナウイルスワクチンの高い接種率やオミクロン株の（従来株と比較しての）重症化しにくい病毒性などを勘案した結果、基本的な感染防止対策を徹底しながらコロナ前の生活に近づけるべきと考え、2022年7月5日（火）、大学として感染防止対策を大幅に緩和した。主な緩和のポイントは、マスクを外せる場面の増加、机等のアルコール消毒の中止、間引いていた座席数の増加など。その方針に従って、学生に対し黙食、検温等の健康観察の継続などの感染防止対策を指導した。</p> <p>②新型コロナウイルスの影響による経済支援</p> <p>アルバイトのシフトも通常化し、2020～2021年度と比べて、2022年度は新型コロナウイルスに由来する経済的な影響は大きく軽減された印象がある。若干影響が残っていたとしても、その学生たちは既存の奨学金制度（日本学生支援機構奨学金、本学独自の奨学金等）による支援でほとんど救済できたものと考えている。むしろ、物価高の方が、経済的な影響としては大きかったと感じるが、今年度も企業・同窓会からの食料支援が多数あり、物価高に苦しんだ学生たちは大いに助けられた。</p> <p>【2022年度の食料無償支援】</p> <p>・（日清食品）完全メシ カレーメシ欧風カレー（4,452個）、完全メシ 豚辛ラ王油そば（6,324個）、完全メシ グリーンスムージー（4,032個）、完全メシ 大豆グラノーラ（2,340個）</p>

- ・(大塚製菓株式会社) OS-1 アップル風味 (1,008 本)、OS-1 ゼリー (1,020 個)
- ・(雪印メグミルク) ガセリ菌SP株ヨーグルト プレーン (1,000 本)、ガセリ菌SP株ヨーグルト ベリーミックス (1,000 本)
- ・(天使大学同窓会) ご飯、パスタ等各種食料品 (100 セット)

※同窓会の食料支援は「1人暮らしの学生」に優先的に支給された。

[活動内容に対する自己評価]

- ①感染防止対策の緩和、全国的な感染者の増加により、本学の感染者・濃厚接触者等の「出校停止対象者」は大幅に増加した(2020年度 83名→2021年度 157名→2022年度 614名)。それにより、学務課学生担当の事務作業(出校停止に該当するかの判断、そのためのヒアリング、出校停止対象者への指示、濃厚接触者の有無の確認、出校停止学生の経過観察、出校停止報告書の発行、総合補償制度 Will の見舞金請求手続きなど)が膨大に増え、他の業務に大きな影響を及ぼした。しかし、そうした過重な負担があったとしても、学生が4年間のかけがえのない学生生活を少しでも制限なく過ごせる環境を整えることは、それに勝る価値あることだと考えている。
- ②経済支援を必要とする学生に対し、適切な支援ができたと考えている。次年度も各種奨学金の情報を学生に広く周知するとともに、食料の無償支援の機会があれば、学生全員が平等に恩恵を被ることができるように配慮したい。

2. 奨学金制度

[活動内容]

- ①新型コロナウイルスに関する業務過多により、学生委員会内での新しい奨学金制度に関する意見聴取、今後の制度運用に向けたロードマップの確認にとどまった。
- ②「学業成績優秀者奨励金に関する規程」を改正し、奨励金が予算(300,000円)を超過しないようにした。

[活動内容に対する自己評価]

2023年5月8日に新型コロナウイルスが感染法上の「2類相当」から「5類」に引き下げられることに伴い、学生の出校停止対象者は減少することが予想され、「新しい奨学金制度」の制定に取り組む時間が持てるものと思われるので、今後着実に取り組んでいきたい。

3. 天使祭、体育祭へのサポート

(1) 天使祭

[活動内容]

- ①天使祭は新型コロナウイルスの影響で、2020年度は中止、2021年度はオンライン開催であったが、2022年度は対面・オンラインのハイブリッド開催となった。
- ②3年ぶりに「模擬店」を開催した(2022年6月10日(金)実施)。参加者は本学学生・教職員に限定し、1日だけの開催となった(従来は2日間)。参加希望者は当日朝に抗原検査キットを使用し、「陰性」を確認できた者のみ、参加を認めた。345名(教職員34名を含む)が参加し、葦の会役員が「浴衣」の着用を全学生に呼びかけたこともあり、とても華やいだお祭りらしい雰囲気となった。14団体が出店し、売り切れとなる店が目立つほど盛況だった。また、「タキさんの店」が焼き菓子400個を学生に無料配布した。
- ③2022年6月11日(土)、天使祭ステージを実施した。感染防止対策のため体育館に188名を入場させ(事前抽選を実施)、残りの学生はYouTubeでの視聴となっ

た。YouTubeでの視聴者はのべ763名、最高同時視聴者数は188名であった。

[活動内容に対する自己評価]

- ① 葦の会会長を中心に、葦の会役員が団結し、天使祭を成功に導いたことは大いに評価できる。その証左として、終了後アンケート（232名が回答）での参加学生の満足度は過去最高の「86.3%」（今までの過去最高は2021年度の83.1%）であった。
- ② 学生からの希望に応じて3年ぶりに「模擬店」を復活させたことは大いに評価できる。また、「模擬店衛生管理マニュアル」、「新型コロナウイルス感染防止対策マニュアル」を作成し、万全の衛生管理体制・感染防止体制を整えたことも評価できる。特に参加者全員に抗原検査キットを使用させたアイデア、「模擬店衛生管理マニュアル」等の解説動画を作成し、その知識の定着を図るため重要点を参加予定者全員に「クイズ形式」で回答させるアイデアは高く評価できる（実際、食中毒罹患者、天使祭に起因する新型コロナウイルス感染者は確認されなかった）。
- ③ 模擬店開催の際、「浴衣」の着用を学生全員に呼びかけたことで学内は非常ににぎにぎしい雰囲気となり、「お祭り感」の演出としては非常に効果的であった。この卓越したプロデュース力は大いに評価できる。
- ④ 模擬店では、売り切れとなる店が多かったこと、商品提供までの待ち時間が長かったことなどが、次年度に向けた課題である。

(2) 体育祭

[活動内容]

- ① 体育祭を3年ぶりに「北海きたえーる」で開催した（2022年12月12日（月）実施）。192名が参加し、バスケットボール、バレーボール、ドッジボール、つなひきの4種目に汗を流した。感染防止対策に十分留意しながら、大きなケガもなく無事に終了した。次年度（2023年12月11日（月））は「北海きたえーる」が休館日のため、別の体育施設を借りなければならない。

[活動内容に対する自己評価]

- ① 葦の会役員の臨機応変な対応は十分評価に値するが、当日の役割分担等の打合せができておらず、反省点が残った。
- ② 事前準備が不十分だったこと、体育祭実行委員会の未実施なども、次年度に向けた課題である。

4. 危機管理マニュアル

[活動内容]

- ① 「地震・雪害等の災害が発生したときの学生に対する対応」、「大規模な感染症（新型コロナウイルス等）が発生した時の学生に対する対応」について2023年3月の学生委員会で検討する予定である。
- ② 2022年11月21日（月）、全学生を対象にT-NAVIを利用して「安否確認の訓練」を実施した。

[活動内容に対する自己評価]

新型コロナウイルスが収束に向かっている中、今後に向けて「大規模な感染症（新型コロナウイルス等）が発生した時の学生に対する対応」のマニュアル化に着手したことは評価できる。今後も「事例ごとの対応」を、優先度の高いものから順次整備する。また、全学生を対象にした「安否確認の訓練」を、毎年度実施する。

5. その他

(1) 学生生活の実態の把握、学生の満足度を上げるための取り組み

[活動内容]

- ①今まで3年に1度実施してきた「学生生活実態調査」を、学生生活の実態をよりこまめに把握するため毎年度実施することに変更した（「学生満足度調査」は従来通り3年に1度実施する）。2022年12月から調査を開始し、年度内に集計を完了する予定である。
- ②2021年度に実施した「卒業・修了時アンケート」を集計し、その結果を教育研究評議会に報告した。アンケートの回収率は96.3%であった。
- ③「学生生活実態調査」、「学生満足度調査」、「卒業・修了時アンケート」の集計結果を今年度から本学webサイトで公表することとした。
- ④今年度から新たに「学長と学生の懇談会」を実施した。第1回（2023年2月3日（金）実施）は学長と葦の会役員3名が1時間にわたり意見交換をした。学生目線の考えやタイムリーな要望を把握する、貴重な機会となった。また、学生から出された意見のうち参考にすべきものを関係部署と共有した。

[活動内容に対する自己評価]

- ①学生の生活実態を年度ごとに把握できるようにしたことは評価できる。今後は、その集計結果を、内部質保証推進委員会、IR室と連携しながら、「大学としての改善」につなげる仕組みを整備する必要がある。
- ②「卒業・修了時アンケート」の回収率が96.3%と非常に高かったことは評価できる。また、卒業生・修了生の天使大学に対する満足度（満足、どちらかといえば満足の合計）が「97%」と非常に高かったことも評価できる。比較的評価の高くなかった「就職支援」、「国家試験対策」を改善することが、今後の課題である。
- ③「学生生活実態調査」等の集計結果を、個人の特定等に配慮しながら学外に対して公表することとしたことは、情報公開の観点から評価できる。
- ④「学長と学生の懇談会」を初めて開催したが、学長・学生双方から活発な意見のやり取りがあり、1時間ではとても足りない、有意義な意見交換となったことは大いに評価できる。次年度も継続して開催する予定である。

(2) 部・サークルへの支援

[活動内容]

2020年に新型コロナウイルスが蔓延して以降、部・サークルの活動は大きく制限され、部員も激減していた。そうした中、今年度は企業や卒業生からのお力添えもあり、下火だった部・サークル活動が活況を取り戻した1年であった。

- ◆本学・北海道テレビ株式会社（HTB）・イオン北海道株式会社の3団体が協力し、「北の食物研究所」がお弁当、菓子研究サークル「Dolce（ドルチェ）」がスイーツの商品を開発する企画が2021年秋から開始され、2022年5月に完成を迎えた。北の食物研究所が考案したお弁当「タンドリーチキンプレート」、Dolceが考案した「2種のおいものぼてトライフル」、「ぼてっとシュークリーム」の3商品を、2022年5月11日（水）から15日（日）の期間、道内のイオン、マックスバリュなど105店舗で販売し、多くの方にお買い求めいただいた。販売に際して北の食物研究所・Dolce両部長がHTBの朝の情報番組「イチモニ！」に生出演したり、イオン平岡店の店頭メンバーが立って販売するなど、たくさんの得難い経験をした。
- ◆「Dolce」は、本学卒業生 岡本紅羽さん（2016年3月栄養学科卒業）がオーナー

を務めるカフェ「月祭(つきさい)」とコラボレートして、4つの新しいドリンクを考案した。10月24日(月)から11月20日(日)にかけて、月祭にて週替わりで販売された「とろーりみたらし 大学芋ラテ」、「ほっこりかぼちゃラテ」、「月の塩キャラメルフロートオレ」、「やさしいマロンラテ」は、どれも好評を博した。

◆多国籍料理研究サークル「ラ・コミーダ」は、本学卒業生 原真梨さん(2017年3月栄養学科卒業、株式会社ドラゴン・アロー所属)の協力のもと、「天使のひととき」というお弁当シリーズを考案し、学内で販売した。2022年10月14日(金)にはその第1弾として「天使のひととき ラコミカレー(お弁当 version)、にんじんムース」を販売し、46食を売り上げた。また、11月28日(月)には第2弾として「天使のひととき 和風ガパオライス、トマトカタラーナ、ヤンニョムチキン」を販売し、44食を売り上げた。

◆2022年3月、牛乳研究サークル「ミルクラ」と雪印メグミルク株式会社は、「牛乳・乳製品を活かして食課題を解決したい」、「牛乳・乳製品の消費拡大に貢献したい」という想いが一致し、レシピの共同開発を開始した。ミルクラは5つのチームに分かれてそれぞれ牛乳・乳製品を用いたレシピを考案し、「彩野菜で♪ カッテージチーズとタコス風大豆ミートのカラフル丼」、「卵ふわふわ味噌ミルクスープ」、「カラフルカルボリゾット」、「カルシウムアップ! チーズ in 春巻き」、「あったかとり〜り「カマンフォンデュ」鍋」として結実した。完成した5つのレシピは、2022年12月19日(月)から23日(金)にかけて、本学学生食堂でプレートランチとして提供された。また、2023年2月12日(日)に行われた雪印メグミルク杯ジャンプ大会では、来場した観客を対象にミルクラが「食育ブース」を出し、自分たちが考案したレシピの紹介、牛乳・乳製品の栄養価値の発信、ミルクラメンバーによるミニセミナーを実施した。また、考案したレシピはキッチンカーで販売され、たくさんの来場者が実食した。

[活動内容に対する自己評価]

学生と企業等をつなげたり、学生・企業間の調整役を果たすなど、部・サークル活動が円滑に進むよう、また学生たちがやりたいことを実現できるよう、しっかりサポートできたことは大いに評価できる。次年度も、企業・卒業生と連携を取りながら、部・サークルが活躍・成長できる場をひとつでも多く提供していきたい。

(3) 新入生への支援

1) 部活動紹介

[活動内容]

2022年4月15日(金)18:30~19:30、体育館にて部活動紹介を開催し、9つの部・サークルが勧誘のプレゼンテーションを行った。新型コロナウイルスの影響で2020年度は中止、2021年度はzoomを利用した「オンライン開催(同時接続80名程度)」であったが、今年度は対面・オンライン(zoom)の「ハイブリッド開催」とした。参加者数は対面で10名、オンラインで23名と伸び悩んだが、その後、映像をYouTubeに限定公開としてアップロードしたところ、185回の視聴があった(昨年度は151回)。

[活動内容に対する自己評価]

「部活動紹介」は各部・サークルの新歓イベントへの呼び水として機能しており、一定の役割を果たせたものと評価している。次年度は「対面」での参加が主となることが予想されるため、学生の授業予定を考慮しながら、開催日時を1年

次生が参加しやすいところに設定することが求められる。

2) クッキングライブ

[活動内容]

2022年4月28日(木)18:30~19:30、第2臨床栄養実習室にて新入生応援企画「栄養学科の先輩たちによるクッキングライブ」、「先輩! 天使のこと教えてください!」を開催した。新型コロナウイルスの影響で、2020年度は中止、2021年度はzoomを利用した「オンライン開催(参加者19名)」であったが、今年度は対面・オンライン(zoom)の「ハイブリッド開催」とした。感染防止対策のため、対面の参加者数の上限を「30名」に設定したが、対面の参加者は「18名」にとどまった。オンラインでの参加者9名を加え、合計27名が参加した。栄養学科4年次生7名、看護学科4年次生2名の協力のもと実施した。

[活動内容に対する自己評価]

協力してくれた栄養学科4年次生7名は、事前に入念な試作・リハーサルを行い、その甲斐もあり当日は見事な「料理のデモンストレーション」を披露したことは高く評価できる。また、栄養学科4年次生7名は、新入生のために「作り置き栄養レシピブック」という出色のレシピ集(カラー、32ページ)を新規に作成し、参加者に配布したことも高く評価できる。新型コロナウイルス感染への恐れもあったのか、参加者数が伸び悩んだが、参加者による事後アンケートの結果を見ると「満足度」が非常に高いことから、次年度も継続することとする。

(4) 学生食堂の改善

[活動内容]

学生食堂は、新型コロナウイルスの影響で2020年4月から開店できずにいたが、2022年1月11日(火)から本格的に再開した。しかし、現在に至るまで恒常的に喫食数が伸び悩み、採算の面では非常に厳しい状況にある。改善案を策定するため、2022年12月から2023年1月にかけて、学生に対し「学生食堂に関するアンケート」を実施した。

[活動内容に対する自己評価]

「学生食堂の継続」は、学生の福利厚生にとって重要な問題である。不採算に対する改善策として、魚国総本社から示されたのは営業時間の短縮、調理員の減員、大学からの補助金の要求など、ネガティブな内容ばかりであったが、学生の満足度を向上させ、喫食数を伸ばさないことには「負のスパイラル」に陥るだけだと分析している。たとえば、2022年度に実施した、「ミルクラ考案レシピをプレートランチとして提供した企画」は、プロモーション活動の成果もあり、十分な喫食数を確保した(5日間の平均喫食数は104)。学生・教職員に「学食を利用したい」と思わせるような、積極的な工夫なくして「学生食堂の黒字化」は難しいと考えている。

今後、「学生食堂に関するアンケート」の結果を分析し、魚国総本社と連携を取りながら、学生委員会主導で学生食堂の改善案を取りまとめ、2023年4月から改善に取り組む予定である。

(5) 合唱コンクールの中止

[活動内容]

2020~2022年度の合唱コンクールは、新型コロナウイルスの感染を広げる可能性があることから、中止とした。

	<p>2023年度合唱コンクールの実施については、2023年5月8日（月）に新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが「2類相当」から「5類」に引き下げられることを鑑みて検討したが、まだその具体的な感染防止行動の指針が厚生労働省・文部科学省等から示されていないこと、また、2023年4月の合唱練習中はまだ「2類相当」のため、多くの学生が感染・濃厚接触等により自宅療養・待機となり、授業に悪影響を及ぼす可能性があること等の理由により、教育研究評議会に中止を提案した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>合唱コンクールは本学にとって大切な伝統的行事であり、学生委員会としても早期に復活したいと願っているが、上記の理由により2023年度も中止を提案した。新型コロナウイルスが「5類」に引き下げられた後、文部科学省・全日本合唱連盟等により感染防止対策、合唱活動におけるガイドラインが更新されたあと、それに基づくかたちで「2024年度」から合唱コンクールを再開する方向で、今後検討を重ねる。</p> <p>(6) 学内掲示板の割当の変更</p> <p>[活動内容]</p> <p>2号館建設により新しい掲示板が設置されるなど、現在、学内の掲示板のなかには掲示カテゴリーが不明確な場所があり、それらも含め一度現状の掲示場の場所・カテゴリーを整理し、学生にとってよりわかりやすい情報発信を目指すべく、学生委員会として「学内掲示板の割当の変更」を提案した。具体的には、「現在の栄養学科の掲示板を栄養学科ロッカー室前の掲示板に移動する」、「現在の恵みのマリア様前の全体掲示板を部・サークル活動掲示板に変更する」などである。各学科・課・室から意見聴取を行ったうえで、学生委員会で学内掲示板の割当の変更を決定した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>「学生にとって重要度の高い情報」と「視認性の高い場所」のチューニングを行ったこと、情報カテゴリーの整理を行ったことにより、掲示板が学生にとってよりわかりやすいものとなったことは評価できる。</p>
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルスが2023年5月8日から感染法上の「2類相当」から「5類」に引き下げられることに伴い、感染防止対策が大幅に緩和されるであろう天使祭・体育祭を、学生が安心・安全に実施・運営できるようにサポートする。また、2023年度の海外研修再開、2024年度の合唱コンクール再開に向けて準備を進める。 2. 学生食堂の改善に注力し、学生からの満足度の上昇、喫食数の増加を目指す。 3. 現在検討を続けている「本学の新しい奨学金制度」を各部署等と調整して成案させ、2024年4月からの運用を目指す。 4. 危機管理マニュアル「学生関連個別マニュアル」の「事例ごとの対応」を、優先度の高いものから順次整備する。

8. 学生生活

担 当：保健相談室

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 学生の健やかな学生生活のため、学生の身体的・精神的な健康をあらゆる角度からサポートするとともに、さまざまな啓発活動を行う。</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準7 学生支援 ①～③</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>VI 包括的な学生支援策の充実</p> <p>2 健康管理面の支援</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 学生への健康面からのサポート・啓発活動</p> <p>(1) 学生の健康や生活等の面接相談</p> <p>[活動内容]</p> <p>保健相談室を訪れた学生からさまざまな相談を受け、面談した。必要に応じて、学生相談室や学生支援教員と連携して学生をサポートした。また、障害学生に対し、学生支援教員や健康管理運営委員と情報共有しながら継続的に支援を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>健康に関する相談から他愛もない話まで、保健相談室が学生にとって気軽に相談できる場になっていると感じる。今後も学生にとって敷居の低い、相談しやすい場所となるよう配慮したい。また、個人情報の取扱いに留意しながら、必要に応じて関係教職員・学校医とも適切に連携を図っていきたい。</p> <p>(2) 学生・教職員のケガ・体調不良への応急処置、医療機関の紹介・連携</p> <p>[活動内容]</p> <p>ケガや体調不良に対し、応急処置やベッドでの休養を促した。学生の病院受診に保健相談員が同伴したケースでは、保護者と連絡を取り、学生が安全に帰宅できるように配慮した。緊急性はないが病院受診が必要な場合は、学生に病院を紹介し、その後経過報告を受けるようにした。新型コロナウイルス感染症予防のため、保健相談室内の消毒や換気、リネン交換は、学生が利用する度にしっかりと行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>学生に寄り添った対応ができたと自己評価している。今後も、学務課等と連携しながら、適切に対応していきたい。</p> <p>(3) 掲示・イベントなどによる、健康情報等の発信・啓発</p> <p>[活動内容]</p> <p>①行事や季節に合わせて、計5回、保健相談室ニュースを発行した。</p> <p>第1号(7月) 熱中症予防×コロナ感染防止</p> <p>第2号(9月) 9月9日は救急の日です</p> <p>第3号(9月) インフルエンザ予防接種について</p> <p>第4号(12月) 冬の健康管理について</p> <p>第5号(2月) 定期健康診断のお知らせ</p> <p>②保健相談室前の掲示板に、月に2回「健生ニュース」を掲示し、身近な病気や話題の健康法等について最新の情報を提供した。その他、新型コロナウイルス感染症・新型コロナウイルスワクチンの情報の掲示や大学生に身近な内容の健康情報</p>

のリーフレットを設置した。

- ③学生相談室と合同で「こころの健康ミニ講座」を年3回実施した。内容は「ハーバリウムボールペンを作ろう」、「つぼトントン（TFT・思考場療法）と手のひらマッサージで心も体もすっきりしよう」、「クリスマスボトルをつくろう」。3回の講座で合計32名の学生が参加した。

[活動内容に対する自己評価]

「保健相談室ニュース」については、学生が必要とする情報を、適切な時期に発信できたとして自己評価している。また、「こころの健康ミニ講座」は、アンケート結果を見ても参加学生の満足度が高く、次年度もその評価を維持していきたい。

(4) 定期健康診断、感染症予防のための抗体価検査、各種ワクチン接種等の実施

[活動内容]

- ①4月9日（土）、10日（日）に学生の定期健康診断を実施した。当日受診できなかった学生は、札幌複十字総合健診センターで個別に受診し、職場で健康診断を受けた大学院生と休学中の学生を除き、全員が健康診断を受けた。精密検査該当者には個別に通知し、受診勧奨を行った。受診後は報告を受け、適宜経過のフォローを行った。
- ②「実習のための感染症予防プログラム」に基づき、小児4種感染症とB型肝炎ワクチン接種を学内で年3回実施した。接種できなかった学生は、個別に接種できるようにフォローを行った。
- ③インフルエンザワクチンの学内接種を年2回実施し、学生・教職員あわせて207名が接種した。流行期前に学内接種を計画的に進めることができた。
- ④「実習のための感染症予防プログラム」を、「医療関係者のためのワクチンガイドライン（第3版）」に則ったプログラムとなるように改定した。2023年度から運用する予定である。

[活動内容に対する自己評価]

今年度は定期健康診断、抗体価検査、各種ワクチン接種を適切かつ円滑に実施できたので、次年度も継続したい。また、改定した「実習のための感染症予防プログラム」を次年度から運用する予定なので、運用後の分析・評価を行う必要がある。

(5) 学校医との連携

[活動内容]

学校医とは「実習のための感染症予防プログラム」の改定に伴い連携を取り、アドバイスをいただいた。学校医による学生の健康相談の相談件数は「0件」であった。

[活動内容に対する自己評価]

今後も今年度同様、必要に応じて学校医と連携を取っていく。学校医による学生の健康相談は、次年度以降、学生への周知方法も含め検討が必要である。

(6) 学校保健に関する研修会に参加しての知見の習得、他大学の情報把握

[活動内容]

全国大学保健管理協会主催の北海道地方部会研究集会（札幌市）と全国研究集会（神奈川県）に参加し、感染症対策・障害学生支援・他職種連携などさまざまなテーマから大学保健についての知識を習得した。他大学の学校保健関係者（主に保健師・看護師）とは、メール等で学校保健業務に関する情報交換を行った。「実習のための感染症予防プログラム」の改定に際し、他大学の状況についてGoogle フォーム

	<p>で調査依頼を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>今年度は研修会に参加し、知見を深めることができた。次年度も継続して参加し、知見の習得とともに、他大学と積極的に情報交換を行っていきたい。</p>
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none">1. 改定した「実習のための感染症予防プログラム」の分析・評価を行う。2. 新型コロナウイルス感染症について、動向に応じた対応を行う。3. 「学校医による健康相談」について、その方法などを検討する。

8. 学生生活

担 当： キャンパス・ハラスメント対策委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 新入生を対象としたハラスメントに対する理解を深めるための講演会を開催する。</p> <p>2. 実習に行く前に、言葉やコミュニケーションによって引き起こされる恐れのあるハラスメントに対する知識を深めるため、3年生を対象とした講演会を開催する。</p> <p>3. 相談員及びキャンパス・ハラスメント対策委員会構成員を対象とするハラスメントに関する研修会を実施する。</p> <p>4. 定期的なキャンパス・ハラスメント実態調査アンケートを実施する。</p> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>7. 学生生活支援 1-② ③</p> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>VI-2-(4) ハラスメントへの対応</p>																																				
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 新入生を対象としたハラスメントに対する理解を深めるための講演会を開催する。</p> <p>[活動内容]</p> <p>学部及び助産研究科の新入生を対象としたハラスメントに関する講演会を、2022年6月14日～7月15日の期間にオンラインで開催した。</p> <table border="1" data-bbox="464 1055 1345 1458"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>在学生数</th> <th>参加者</th> <th>参加率</th> <th>2021年度の参加率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護学科</td> <td>1年</td> <td>105</td> <td>78</td> <td>74%</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>栄養学科</td> <td>1年</td> <td>95</td> <td>73</td> <td>77%</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">学部合計</td> <td>200</td> <td>151</td> <td>76%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>助産研究科</td> <td>1年</td> <td>24</td> <td>3</td> <td>13%</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">総合計</td> <td>224</td> <td>154</td> <td>69%</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>学部1年生について、支援教員の協力もあり前年度に比べて参加率が大幅に増えたことは評価できる。助産研究科については実習の関係もあり参加率が非常に少なかったため、次年度は実習時期を考慮して学部と助産研究科の開催時期を変えるなど、開催時期及び周知方法について検討が必要である。</p> <p>2. 実習に行く前に、言葉やコミュニケーションによって引き起こされる恐れのあるハラスメントに対する知識を深めるため、3年生を対象とした講演会を開催する。</p> <p>[活動内容]</p> <p>両学科3年生を対象としたハラスメントに関する講演会を、2022年7月1日～9月30日の期間にオンラインで開催した。</p>			在学生数	参加者	参加率	2021年度の参加率	看護学科	1年	105	78	74%	50%	栄養学科	1年	95	73	77%	44%	学部合計		200	151	76%	—	助産研究科	1年	24	3	13%	63%	総合計		224	154	69%	—
		在学生数	参加者	参加率	2021年度の参加率																																
看護学科	1年	105	78	74%	50%																																
栄養学科	1年	95	73	77%	44%																																
学部合計		200	151	76%	—																																
助産研究科	1年	24	3	13%	63%																																
総合計		224	154	69%	—																																

		在学生数	参加者	参加率	2021年度の参加率
看護学科	3年	98	48	49%	25%
栄養学科	3年	91	77	85%	29%
合計		189	125	66%	27%

[活動内容に対する自己評価]

開催期間を長くしたことと、両学科の支援教員の協力があつたことで、前年度よりも参加率が増えたことは評価できる。次年度のさらなる参加率向上のため、引き続き周知方法や開催時期の検討が必要である。

3. 相談員及びキャンパス・ハラスメント対策委員会構成員を対象とするハラスメントに関する研修会を実施する。

[活動内容]

ハラスメント防止委員会と共催により、2022年8月19日に対面で研修会を開催した。当日参加できない教職員については、2022年8月25日から9月30日の期間に動画視聴できるようにした。

[活動内容に対する自己評価]

参加者数は、当日参加30名、動画視聴者50名と、8割以上の教職員が参加したことは評価できる。

4. 定期的なキャンパス・ハラスメント実態調査アンケートを実施する。

[活動内容]

2022年12月1日から2022年12月28日の期間に、全学生および院生に対してキャンパス・ハラスメント実態調査アンケートを実施した。

	回答数	在籍者数	回答率	前年度回答率
学部	92	764	12.0%	32.8%
大学院	10	66	15.2%	28.3%
全体	102	830	12.3%	32.5%

[活動内容に対する自己評価]

回答率が全体で12.3%と非常に低い結果となった。T-NAVIの周知では学生が確認しない傾向があるため、Google Classroomやその他の周知方法および実習時期を考慮するなど開催時期を検討する必要がある。

また、大学からのアンケート等が多く学生の負担が増えていることがアンケート回収率低下の原因の一つと考えられるため、他の委員会が実施しているアンケートとの統合なども検討する必要がある。

次年度への課題	<ol style="list-style-type: none">1. 学生向けハラスメント講演会の参加者を増やすため、開催方法や時期、周知方法について検討する。2. キャンパス・ハラスメント実態調査アンケートの回答率を増やすため、開催時期および周知方法について見直す。
---------	---

8. 学生生活

担 当：宗務委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. キリスト教（カトリック）精神に基づく建学の精神の浸透と人間の育成を図る。 2. カトリック精神に基づく宗教的環境を整備する。 3. カトリック精神に基づく研修会への参加・助成をする。 4. カトリックセンターとの連携を図る。 5. アッセンブリー・アワーの内容・日程調整と行事等の実施を図る。</p> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準1 理念・目的 ①、②、③</p> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>I-1 建学の精神の浸透</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 建学の精神の浸透とキリスト教的精神に基づく人間の育成を図る。</p> <p>1) 学生及び教職員を対象とする宗教的行事について</p> <p>[活動内容]</p> <p>①学部・助産の「建学の理念正課外教育マニュアル」を作成した。 ②イースターの集いを企画運営し、学部生を対象に、各学年の対面授業後、学科別に3日に分けて6回対面で実施した。(看護・栄養1年はほぼ全員参加、看護2年は約60名、栄養2年は約40名の参加、看護3・4年は約30名、栄養3・4年は約60名の参加数であった。) ③クリスマスの集いを企画運営し、学年別に同日、2回に分けて対面で実施した。また、クリスマスプレゼント(クッキー等)を配布した。(看護1年は約80名、栄養1年は約60名、看護・栄養2～4年は全体で約280名の参加数であった。) ④週日のミサ(聖母月・創立記念日・新年ミサも含む)の企画運営を行った。 ⑤その他の宗教的行事(灰の儀式・助産研究科実習前ミサ・死者追悼ミサ・クリスマス点灯式、国家試験前の祈り等)の企画運営を行った。 ⑥卒業・修了感謝のミサを企画運営した。北11条教会で、午前と午後2回に分けて分散開催予定。</p> <p>2) 学生のみを対象とする宗教的行事について</p> <p>[活動内容]</p> <p>①学生満足度調査の結果を踏まえ、各学科支援教員と連携して参加促進を図った。 ②アッセンブリー・アワーにおける宗教講話は、授業方針により時間割が取れず中止した。 ③前期・後期チャペルアワーについて、試験終了後、学部1年生対象に学年別に分けて対面で実施した。学部2～4年生はチャペルのステンドグラス前で事前に録画し、Google Classroomで実施した。 ④出会いと親睦ゼミ・学生修養会・ステップアップセレモニー・戴帽式における宗務関連の支援をした。</p> <p>3) 教職員のみを対象とする宗教的行事について</p> <p>[活動内容]</p> <p>①教職員修養会の運営をした。(企画はカトリックセンターが行う) 対象教職員 103名 出席者 76名(出席率73.8%)(2/3現) 講義・業務等で出席できない教職員には録画映像をGoogle Classroomに配信した。 ②退職される教職員への感謝ミサの、企画運営し開催予定。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>・キリスト教の行事、ミサや修養会を通して学生・教職員が精神的・スピリチュアルに成長する機会の目的・意味を「建学の理念正課外教育マニュアル」として、学部・助産別に作成活用し、教職員への共有を図り推進した。 ・各行事については支援教員と連携して学生への参加を促した結果、参加人数が増加した。しかし、行事の後に必須科目を設定しないと参加率が悪く、行事日程の配置について学部と連携をとることが必要である。 ・コロナ感染対策中であったが、一年次生に対して主要な行事を対面型で実施できたこ</p>

	<p>とは建学の理念を伝え行く上で有効であり評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各行事（イースター・クリスマスの集い、チャペルアワー等）は、事務局職員、各学科・科、大学院、学生支援教員、宗務委員、ケン神父の協力なくして実施できず、概ね教職員の協力の下実施できた事は評価できるが、さらなる連携協力を図る。 <p>2. カトリック精神に基づく宗教的環境を整備する。</p> <p>1) 学内及びチャペル等の環境整備について</p> <p>[活動内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ミサを実施するにあたり、チャペルに生花を飾った。 ②クリスマスに向けてチャペル、学生・正面玄関にクリスマスツリーを設置した。 ③クリスマスキャロルを昼休みに流しクリスマスに向けての雰囲気作りを行った。 ④新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、本学ガイドラインレベルによりチャペル内の着席数を増減した。 <p>2) 宗教的行事のための物品調達について</p> <p>[活動内容] ①聖歌CDを購入し職員朝礼、行事で活用した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>キリスト教の精神に基づくカトリック大学として、本学の宗教的環境が整っていることが評価できる。</p> <p>3. カトリック精神に基づく研修会等への参加・助成をする。</p> <p>1) 「2021年度カトリック医療関連学生セミナー」の学生参加について</p> <p>[活動内容]</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>次年度、カトリック医療関連学生セミナーが開催する場合、学生参加を支援する。</p> <p>4. カトリックセンターとの連携を図る。</p> <p>[活動内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①カトリックセンターと共同して、宗務委員会の活動を遂行した。 ②キリスト教の信仰とその精神を広く学内外伝えるために、カトリックセンターのホームページを更新するなど支援をした。 <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>学生や教職員のカトリック行事をサポートしていることは評価できる。キリスト教の信仰とその精神を広く伝えるHPの更新支援は十分とは言えず、連携して支援をする。</p> <p>5. アッセンブリー・アワーの内容・日程調整をする。</p> <p>[活動内容]</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、アッセンブリー・アワーの時間を授業に振り替えたため、授業の空きコマを利用して行事・各委員会等で調整し実施した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度もアッセンブリー・アワーの時間は、コロナ感染対策のため授業に振替えた為、調整・実施などは果たさせていない。 <p>*2018年度大学基準協会の受審評価結果として、「《建学の精神の浸透を図るとともに、自分や他者への理解を深めるため、集会「アッセンブリー・アワー」の時間を設けて、学生の求めるテーマを採り入れながら年間を通じて様々なプログラムを実施し、コミュニケーション能力の向上や主体性の習得などに寄与している。》。と評価を受けた。</p>
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. イースター・クリスマスの集い、チャペルアワー等カトリック精神を涵養する宗教的行事等について、ホームページやT-NAVI、メールなどを利用し、行事の目的や内容などの周知を行い、学生支援教員と連携して学生・教員の参加率を上げる。 2. 教務委員会との調整を密にして、特にイースターの集い、クリスマスの集いは、授業予定表配布時にコマ数の確保をする。 3. 建学の理念の浸透と学士力に貢献するアッセンブリー・アワーの復活配置を図る。 4. 新任教職員への建学の精神の理解を図るための企画運営を実施する。 5. カトリック精神に基づく研修会・セミナーへ積極的に参加を促す。 6. 宗教的環境を整備する。 7. カトリックセンターとの連携を図る。

9. 就職支援

担 当：就職委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 就職ガイダンス・セミナーの企画・実施 2. 就職活動に関する支援活動 3. 求人開拓の実施 4. 教職課程（栄養教諭）履修者への就職支援 5. 卒業生アンケート調査・就職先へのアンケート調査 6. 就職に関する情報交換及び最新情報収集 7. 既卒者、卒業・修了生に対する就職支援</p> <p>（大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄） 基準 7 ①～③</p> <p>（中期計画戦略目標に該当する項番記入欄） VI-VI-3（1）～（2）、VI-VI-4（3）</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 就職ガイダンス・セミナー（オンライン含む）の企画・実施について [活動内容]</p> <p>1) 就職ガイダンス・セミナー（オンライン含む）の企画・実施 学生から要望が多かった、就活スケジュールを作成した。 各学科学年の就職活動時期に合わせ、就職スタートアップ、自己PR作成、マナー講座、小論文・履歴書・エントリーシートの書き方、SPI受検会、面接対策、公務員試験対策、教員採用試験のガイダンス・セミナーを対面中心とし、オンラインの併用で企画・実施した。 例年1月に実施している栄養学科3年次生対象の「就職活動終了者の体験談」は対面で実施し、講師の栄養学科4年次生5名には体験談を話してもらい、その後、希望業種別に分かれグループワークを行った。3年次生がこれから始まる就職活動に向けての疑問、不安な点等を積極的に質問し、活発なグループワークが行われた。また、資料をGoogleClassroomに投稿し閲覧できるようにした。 助産研究科1・2年合同で、就職ガイダンス（自己分析、志望動機の作成、小論文の作成、メディアリテラシー）のガイダンスをオンラインで実施した。</p> <p>2) 就職ガイダンス・セミナーの開催時期の検討、内容の充実・強化 新型コロナウイルス感染防止に配慮し、開催時期、内容を精査、吟味して対面中心のガイダンス・セミナーを実施した。</p> <p>3) 学内企業説明会の企画・開催 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮して、対面で1回（3社）、オンライン1回（4社）、栄養学科対象に開催した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 3年生から4年生の就職活動スケジュールを作成し、スケジュールに沿った内容のガイダンスを情報会社や卒業生が活躍している企業等に支援いただき、企画・開催したことで内容の充実・強化が図れた。対面授業後の参加率は60%～100%であったため、引続き授業予定表を確認し、対面とオンラインを併用して実施する。</p> <p>2. 就職活動に関する支援活動について [活動内容]</p> <p>1) 就職相談員による就職相談・面接練習・履歴書添削等の支援（オンライン含む） 就職相談員による学生支援については、就職支援システムから予約制とし、オンラインまたは対面で、学生の希望に沿った方法で実施した。 進路相談：561回 書類添削：457回 内定率 看護学科：100.0% 栄養学科：81.2%（2023年2月24日現在） キャリア支援の遠隔化の一環として、2021年11月より導入した求人票配信システム「キャリアタスUC」（天使大学就職支援ナビ）の操作説明動画を学部3年生対象に配信し利用を促した。</p>

2) 就職委員による就職活動全般の支援

各学科の就職委員、学生支援教員、学務課で連携し、就職活動全般の支援を行った。

3) 札幌新卒応援ハローワークによる模擬面接会

毎月、週1回(12:30~13:30)に希望学生に模擬面接を実施した。

[活動内容に対する自己評価]

卒業・修了対象学生に、「天使大学就職支援ナビ」の利用促進を図り、利用率が100%になったことは評価できる。今後、低学年にも周知する。

面接指導の繁忙期は、学生の希望日に予約できない時期があるため、新卒応援ハローワークの模擬面接会の日程・時間等を増やすなど、来年度対策が必要である。

3. 求人開拓の実施について

[活動内容]

1) 病院・福祉施設等への求人票の送付

学生のニーズに対応するため札幌市内・札幌近郊に、求人依頼のパンフレット等を、病院・福祉施設・保育所・調剤薬局・給食委託・一般企業等へ送付した。

(1268施設に2/13発送)

また、関東の病院(400床以上)にも送付し新規開拓に努めた。

2) 病院・企業訪問の実施

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、病院・企業訪問は行わなかったが、オンラインで採用担当者と情報交換を行った。

3) 実習先へ、担当教員が求人票を持参した。

[活動内容に対する自己評価]

求人依頼のパンフレットが届いたことで、本学への求人実績がない施設等から、求人票をいただいたことは評価できる。

4. 教職課程(栄養教諭)履修者への就職支援について

[活動内容]

1) 教職課程委員会との連携

教職課程委員会と連携し、教職課程履修者への就職活動支援を行った。

2) 教員採用試験出題傾向分析と試験対策ガイダンス等の実施

4年次生対象の教員採用1次ガイダンスは、対面で実施し、願書、資料等を教職課程履修者へ配布した。2次検査対策直前ゼミは、教職課程担当教員等が出題傾向等の分析を行い、対面で実施した。その結果、北海道教育委員会選考検査「栄養教諭」の採用登録者は、4名(一次合格者8名受検中)であった。本学は北海道2名、札幌市2名が登録となった。

[活動内容に対する自己評価]

今年度から札幌市の栄養教諭区分が新設され、札幌市採用枠3名中、2名が登録となったことは評価できる。次年度も教職課程委員会と連携し、支援を継続する。

5. 卒業生アンケート調査・就職先へのアンケート調査について

[活動内容]

1) 卒業生アンケート調査および就職先へのアンケート調査の実施

①卒業・修了生対象就職状況調査(2020年度卒業生対象:12月実施)

回収率 39.8%

②就職先アンケート調査(2019、2020年度 学部卒業生対象:4月実施)

回収率 看護学科42%、栄養学科34%

①、②のアンケート調査をGoogleフォームで実施した。

2) 卒業生アンケート調査および就職先へのアンケート調査結果の分析・評価・改善実施したアンケート調査について集計、分析し、改善案を検討した。

3) 調査項目の検討(関係部署と連携し実施)

調査項目の検討をし、内部質保証推進委員会に提案・確認後、アンケート調査集計結果を天使大学HPで情報公開をした。

	<p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>回収率向上に向けて方策を検討する必要がある。</p> <p>令和4年度教育の質に係る客観的指標調査について、卒業生のキャリア状況等の調査を実施・結果の分析し、情報公開したことで得点を獲得できたことは評価できる。</p> <p>6. 就職に関する情報交換及び最新情報収集について</p> <p>[活動内容]</p> <p>1) 他大学との情報交換及び最新情報収集 オンラインで日本私立大学協会北海道支部就職指導研究協議会に参加し、就職支援方法、内定率、感染対策等について情報交換を行った。</p> <p>2) 日本私立大学協会・日本私立大学北海道支部、全国私立大学就職指導研究会との情報交換及び最新情報収集 オンラインで就職指導実務担当者研修会に参加し、就職支援方法、内定率、感染対策等について、グループ ディスカッションで実情交換等の自由討議を行った。</p> <p>3) 就職情報関連企業との情報交換及び最新情報収集 就職情報会社から病院、企業等の採用数、採用状況、内定状況等の最新情報を収集し、対面、Zoom等で情報交換を行った。</p> <p>4) 就職関連研修会・セミナー等への参加 対面での研修会・セミナー、合同企業説明会には、出席できなかったが、オンラインでの研修会等に参加し、最新情報の収集を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>各大学からコロナ禍に対応した取り組み等を伺うことができ、とても有意義な研修会であった。</p> <p>7. 既卒者、卒業・修了生に対する就職支援について</p> <p>[活動内容]</p> <p>1) 求人情報の配信（求職登録者） 求職登録者に求人情報等を配信し、就職支援を行った。 求職登録者数：29名（看護学科1名、栄養学科28名） 内定者数：0名</p> <p>2) 直接来室した場合の就職支援 就職相談に8名の卒業生が来室し、対応した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>今後も、既卒者の希望する求人情報を速やかにメール配信し、支援を継続する。</p>
次年度への課題	<p>1. 就職ガイダンス・セミナーの企画・実施 就職ガイダンス・セミナー（オンラインを含む）の開催時期の検討、内容の充実・強化を図る。全員参加のガイダンスは、授業予定表に入れる。</p> <p>2. 就職活動に関する支援活動 4年次の11月末までに一度も就職相談室を利用していない学生を対象に連絡し、就職活動状況の把握を行い、希望する就職先への内定につなげる。 卒業・修了時アンケートの意見を踏まえて、面接指導の繁忙期は、看護師・管理栄養士の管理職経験者による面接練習の支援を依頼する。</p> <p>3. 卒業生アンケート調査（離職調査）の回答率の向上 スマートフォンを使用し、回答しやすいアンケートをGoogleフォームで作成する。 また、回答率を上げるため回答方法を選択できるよう、依頼文送付時にアンケート用紙（返信用封筒を同封する）と、GoogleフォームURLの案内をする。</p> <p>4. 就職先へのアンケート調査の実施 病院・企業等に本学からのアンケート調査を定着させるため、就職先へのアンケート調査を隔年から毎年にして、4月～5月に実施する。 また、回答率を上げるため回答方法を選択できるよう、依頼文送付時にアンケート用紙（返信用封筒を同封する）と、GoogleフォームURLの案内をする。</p>

10. 図書館

担当：図書情報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 教育・学修支援 修学上の相談等に対応しながら、学生の自立的な学修を支援する。</p> <p>2. 研究支援 本学の学術研究成果等を収集・保存し、ホームページ等で公開する。</p> <p>3. 社会貢献 他大学図書館等の連携を強化し、社会の活性化に貢献する。</p> <p>4. 情報発信 ホームページ等の充実を図り、社会に開かれた図書館として積極的に情報を発信する。</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準8 教育研究等環境 ③</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) VIII-4 (3)、VIII-7 (1)</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 教育・学修支援について</p> <p>[活動内容] 入学時や各学年の要望に応じて図書館利用案内、蔵書検索、学术论文の検索等、授業との連携により図書館司書職員がガイダンスを実施した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 情報リテラシー教育の必要性を重視し、授業との連携によりガイダンスを実施したことは評価できる。次年度は、コロナ感染防止のため実施を中止している少人数による図書館内でのガイダンスを再開したい。</p> <p>[活動内容] ラーニング・コモンズを、学生の居場所として広く開放した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 開放した結果、学生の居場所スペースとして定着していることは評価できる。 次年度は、図書館施設としてのラーニング・コモンズの位置付けを明確にしていきたい。</p> <p>[活動内容] 学生参加による図書選書については、図書館ホームページのマイライブラリから随時、図書の購入希望を受付けた。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 学生並びに教職員から図書の購入希望を随時受付、選書したことは評価できる。 次年度も継続していきたい。</p> <p>2. 研究支援について</p> <p>[活動内容] 本学教員の学术论文、紀要等をリポジトリに登録しホームページで公開した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 本学教員の教育・研究活動の成果をホームページで公開し情報を発信したことは評価できる。</p>

3. 社会貢献について

〔活動内容〕

文献複写依頼相互貸借等の対応については、他大学からの文献複写依頼が日々多く都度、丁寧に対応した。

〔活動内容に対する自己評価〕

本学図書館には、現在入手困難で貴重な専門書が多く所蔵しているため、全国の医療系大学等からの照会が多く、都度、丁寧に対応したことは評価できる。

これからも大学の研究活動における電子ジャーナル利用の定着と各大学の紀要等、学術雑誌のオープンアクセス化は進むと思われるが、利用者のニーズに応えられるよう真摯に対応していきたい。

〔活動内容〕

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2022年4月1日から学外者の利用を制限していたが、本学卒業生の図書館利用について、2022年11月1日から一部再開した。

〔活動内容に対する自己評価〕

本学卒業生への図書館利用サービスを一部再開できたことは評価できる。
次年度も、新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら卒業生等への利用者サービスの向上を図っていきたい。

4. 情報発信について

〔活動内容〕

ホームページについては、新着図書案内等、随時、新しい情報に更新した。

〔活動内容に対する自己評価〕

学術データベースについては、ID・パスワードを申請することで、学外からも文献検索をすることができ、多くの学生からの申請に対応していることは評価できる。

〔活動内容〕

企画、展示を5回実施した。

- ①「Wellcome!!I.S.K インターナショナルスクールのみなさん 天使大学図書館の本ってどんな本？」

9月13日（火）、I.S.K 札幌インターナショナルスクールの小学生（1・5・6年生）と引率教員合わせて27名が、キャリア教育のひとつとして本学に見学と体験学習に来学し、図書館を見学するとの依頼があり企画した。

【展示期間】 2022年9/8（水）～10/2（日）

- ②「TRICK or READ !」

【展示期間】 2022年10月12日（水）～11月6日（日）

- ③「近藤先生受勲記念展示企画」

令和4年秋の叙勲で近藤潤子名誉教授が旭日中綬章を受勲しました

【展示期間】 2022年11月9日（水）～11月27日（日）

- ④「聖夜を彩る書物たち」

【展示期間】 2022年12月2日（金）～12月24日（土）

- ⑤「料理レシピ本大賞受賞作品フェア」

【展示期間】 2023年1月27日（金）～2月末

	<p>〔活動内容に対する自己評価〕</p> <p>企画、展示を定期的を実施し、情報を発信した。</p> <p>図書館施設の多様な有効活用と利用者数の拡大、そして交流の機会の拡大を図ってきたことは評価できる。次年度も各種イベントや展示を継続して開催していきたい。</p> <p>〔活動内容〕</p> <p>新刊図書や雑誌等の最新情報をより分かりやすく提供出来るよう、閲覧室内の資料等の配置を変えた。</p> <p>〔活動内容に対する自己評価〕</p> <p>利用者サービスの向上につなげたことは評価できる。</p> <p>〔活動内容〕</p> <p>学生や教職員のサポート、セキュリティ強化に努めた。</p> <p>〔活動内容に対する自己評価〕</p> <p>図書館と情報処理室と常に連携をとり学生や教職員のサポート、セキュリティ強化に努めたことは評価できる。</p> <p>専門職業人を育成する本学においては、高度な専門性を求められる場合もあり、研修への参加や自己研鑽など日々重ね、利用者の声に丁寧に対応出来る図書情報課職員としての資質の向上を図っていきたい。</p>
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索ガイダンス等の実施による教育・学修支援 2. 学術情報等をホームページ等で公開する事による研究支援 3. 他大学図書館等との連携を強化する等の社会貢献 4. ホームページ等を整備・充実する等の情報発信

1.1. 情報処理システム

担 当：図書情報委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、図書館貸出用パソコンの整備・維持管理</p> <p>2. 新型コロナウイルス感染状況に応じた情報処理設備の運用</p> <p>3. 教職員、学生への情報セキュリティ対策の啓発</p> <p>4. 次期サーバネットワークシステムの更新検討</p> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準8 教育研究等環境 ②</p> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>VIII-4 (3)</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、図書館貸出用パソコンの整備・維持管理</p> <p>[活動内容①]</p> <p>学内のサーバ/NW 等で障害が発生した際にシステムの復旧を最優先し早急に事象が解消するよう努めた。復旧後、事象の再発がないよう原因究明と恒久対処を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価①]</p> <p>今年度発生した障害について、当日中に障害を解消し、学生への影響を最小限に抑えることが出来た点は評価できる。</p> <p>[活動内容②]</p> <p>遠隔授業の普及に伴い回線の利用量が増えたため、回線の拡張を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価②]</p> <p>回線を拡張したことにより、学生から回線に関するクレームがなくなった点は評価できる。</p> <p>[活動内容③]</p> <p>教員共有フォルダの容量が上限値に達してしまいファイルの追加等が出来なくなったため、教員共有フォルダの拡張を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価③]</p> <p>現状の運用に影響が出ないよう上限値を検討し、業務に影響なく共有フォルダの拡張が出来た点は評価できる。</p> <p>2. 新型コロナウイルス感染状況に応じた情報処理設備の運用</p> <p>[活動内容①]</p> <p>遠隔授業について学生が良質な環境で授業を受講できるよう、機器のセッティングや収録方法を検討し、授業のサポートを行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価①]</p> <p>教員や学生が満足する構成で授業を提供できたことは評価できる。</p> <p>3. 教職員、学生への情報セキュリティ対策の啓発</p> <p>[活動内容①]</p> <p>昨今フィッシング攻撃が流行しており、本学への攻撃も散見されたため教職員への注意喚起を行った。サイバー攻撃は今後より高度になることが予想されるため、引き続き注意喚起を徹底していく。</p>

	<p>[活動内容に対する自己評価①] サイバー攻撃の被害が広まる前に早急に注意喚起したことにより、情報漏洩等の被害を回避できたことは評価できる。</p> <p>4. 次期サーバネットワークシステムの更新検討 [活動内容①] 現状の本学システムの活用状況と昨今の世の中の情報システムの活用状況を比較し、現代に即した情報システムの導入ができるよう情報収集を行っている。 [活動内容に対する自己評価①] システム保守が切れるため機械的に更新するということではなく、更新を機に時世に即した更改検討の準備が出来ていることは評価できる。</p>
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバシステム、学内 LAN、無線 LAN 環境、図書館貸出用パソコンの整備・維持管理 2. 現代に即した情報処理室運営 3. 次期サーバネットワークシステムの更新検討 4. 教職員 PC 入れ替え検討

12. 施設・設備

担当：事務局（財務室）

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 中期施設整備計画に基づき、既存棟における建物や設備の老朽化に伴う改修工事及び機器の更新工事を実施する。</p> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準8 教育研究等環境②、⑥</p> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>VIII-4</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 中期施設整備計画に基づき、既存棟における建物や設備の老朽化に伴う改修工事及び機器の更新工事を実施する。</p> <p>[活動内容]</p> <p>2022年度に行った主な改修工事等は以下のとおりである。</p> <p>① 8号館屋上防水工事</p> <p>② 1号館、3～5号館LED照明交換工事</p> <p>③ 5号館、7号館研究室エアコン設置工事</p> <p>④ 3号館、4号館教室の換気設備設置工事</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>研究室のエアコン設置については以前より複数の教員から要望が寄せられていたところであり、教育研究環境の改善を図れたことは評価できる。1号館及び4号館のエアコン未設置の研究室については2023年度に対応することが2022年度の中期財務計画で示されている。早い時期に取り組めるよう努めていきたい。</p> <p>また、教室の換気設備設置については新型コロナウイルスが感染拡大する中で、教務委員会から対応を求められていた。このため、当初は補助金を活用し工事する予定としていた計画を見直し、2022年度中に設置工事が完了するよう中期財務計画を改めた。</p> <p>その他の工事についても計画どおりに終了することができた。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 中期財務計画に基づいた施設・設備の整備を行う。</p>

13. 管理運営

担 当： 事務局（総務課）

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 学長補佐会議において、本学の各学科、科、研究科の将来像について検討し、教育研究評議会、教授会等への提案につなげる。</p> <p>2. 天使大学ガバナンス・コードの見直しを検討する。</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準 10 大学運営・財務－ (1) 大学運営－①・②</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>戦略目標Ⅱ－1 (1)</p> <p>戦略目標Ⅳ－1 (4)</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 学長補佐会議について</p> <p>[活動内容]</p> <p>より全学的な教学マネジメントに対応するため、2022 年度から助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長で構成し、既に 8 回開催している。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>教育研究評議会の事前打ち合わせ、教学に関する規程改正、教員業績評価など教学マネジメントに関して、学長を補佐するための議論が十分できたことは評価できる。</p> <p>2. 天使大学ガバナンス・コードの見直しについて</p> <p>[活動内容]</p> <p>2022 年度は、天使大学ガバナンス・コードの実施点検調査を 7 月から開始し、9 月までに取りまとめ、理事会に報告して、本学ホームページ上で公表した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>ガバナンス・コードを遵守するために、全学的に実施点検調査することが全教職員に浸透されてきたことは評価できる。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 2024 年度の法人統合に向けて、本学の管理運営に関する組織の設置準備及び法人から学長への委任事項を検討する。</p> <p>2. 2024 年度の法人統合後を見据えた天使大学の校務分掌の見直しを検討する。</p>

1 4. 財務

担 当：事務局（財務室）

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. 中期財務計画の見直し 2. 経常費補助金等、私学助成金の獲得を目指す 3. 給付奨学金のための寄付金募集の検討 4. 財務諸規程の見直し</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>基準 10 大学運営・財務 (2) 財務①、②</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>VIII-3</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. 中期財務計画の見直し</p> <p>[活動内容]</p> <p>中期財務計画は9月の理事会で見直しを行い2027年度までを策定した。 既存校舎の修繕計画については、2021年度中期財務計画をベースにしたうえで、財源を考慮し、緊急性の高い事案を追加し計上した。また、入学定員増に伴う教材の補充についても各学科の要望を踏まえ段階的に整備することとし、中期財務計画に反映させた。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>現状を踏まえながら毎年度、中期計画を柔軟に見直し策定している点は評価できる。今後は機材や教材の購入などについても、学科・科と協議しながら購入計画を策定できるよう努めたい。</p> <p>また、次年度以降も校舎の改修・更新工事やネットワーク構築工事が予定されている。このため、中期財務計画は厳しいものとなっているが、収支が均衡するよう、毎年度の経営状況に留意しながら中期財務計画及び単年度の予算編成と執行について理事会や予算会議において検討を行っていく必要があると考える。</p> <p>2. 経常費補助金等、私学助成金の獲得を目指す</p> <p>[活動内容]</p> <p>教育の質に係る客観的指標調査は43点/44点を獲得し、2021度の34点から大きく改善し、一般算定の増減率はプラス6点となった。</p> <p>また、私立大学等改革総合支援事業についてはタイプ1『Society5.0』の実現に向けた特色ある教育の展開の獲得を目指し現状把握調査を行った。集計の結果、26点/95点であったことから2023年度の申請は難しいとの結論になった。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>2022年度は補助金についての説明をSD研修会の中で実施し、助成金についての理解を全学で共有できたと考える。また、教育研究評議会等の学内会議においても、私学助成や本学の状況について説明を行い、理解を深めることができた。教育の質に係る客観的指標調査については数年間に渡って全学で取り組んだ結果であり、私学助成金の獲得に繋がることのできたことは評価できる。</p> <p>3. 給付奨学金のための寄付金募集の検討</p> <p>[活動内容]</p>

	<p>奨学金に係る寄付金の募集については規程の見直しと併せて検討を行うこととしていたが、寄付金募集の検討には至らなかった。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>2023年度は奨学金に限定することなく、寄付金収入を安定的に確保できる策を検討したい。</p> <p>4. 財務諸規程の見直し</p> <p>[活動内容]</p> <p>学校法人藤学園との統合を見据えて、経理規程等の見直しに取り組んだ。規程の改正は両学校法人間ですり合わせる必要があり時間を要しているが、順次、改正の手続きを行っていきたい。</p> <p>また、法人統合の際は会計ソフトを変更する必要があることから、規程の改正と並行して会計ソフトの変更手続きについて検討を行った。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>2024年度から会計ソフトが変更となりデータはクラウドへの格納となる。現会計ソフトのサーバーのバージョンアップが10月に控えていることから、先行して2023年度にデータの格納先を学内サーバーからクラウドへ変更することとした。これにより更新及び導入の費用が軽減されたことは評価できる。</p> <p>経理規程等の改正については、両学園の担当者間で意見交換を行っている段階である。まずは両学園の理事者に対して改正内容について丁寧な説明ができるよう準備を進めたい。</p>
次年度への課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中期財務計画の見直し 2. 経常費補助金等、私学助成金の獲得を目指す 3. 寄付金等、外部資金の獲得を目指す 4. 財務諸規程の見直し

15. 事務組織

担当：事務局（総務課）

<p>本年度の活動目標</p>	<p>1. SD研修の実施方法について検討し、事務職員の参加率を高める。 2. 事務職員の採用及び配置について、適正に務める。</p> <hr/> <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄) 基準 10 大学運営・財務－(1) 大学運営－①・②</p> <hr/> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄) 戦略目標Ⅱ－1 (1) 戦略目標Ⅳ－1 (4)</p>
<p>活動内容の評価</p>	<p>1. FD及びSDについて [活動内容] 2022 年度も学内での教職員説明会や教職員修養会、ハラスメント研修会を対面の他にオンライン及びオンデマンドで開催することにより、当日参加できなかった事務職員に対応した。 [活動内容に対する自己評価] 2022 年度内のいずれかの研修に対して、臨時職員を除く事務職員が必ず参加したことは評価できる。</p> <p>2. 事務職員の採用及び配置について [活動内容] 2022 年度は専任職員の中途退職に伴い、欠員補充として2名採用し、嘱託職員Ⅱが2022 年度末に7名退職するため、2023 年度に向けて新たに臨時職員を採用することとした。 [活動内容に対する自己評価] 2022 年度は専任職員2名が中途退職することになったが、求人募集によりスムーズに採用することができた。また、事務局としては嘱託職員Ⅱから臨時職員に切り替えて雇用していくこととなり、早期に採用内定を出すことで、人員配置を決定できた。</p>
<p>次年度への課題</p>	<p>1. 2024 年度の法人統合に向けて準備作業を行い、天使大学事務局の3課2室体制について見直しを検討する。 2. 専任職員と臨時職員の人数にも配慮し、事務局の人員配置を考慮していく。</p>

1.6. 自己点検・評価活動

担 当： 内部質保証推進委員会

<p>本年度の活動目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学基準協会の認証評価改善報告書の提出 2. 助産評価機構 2023 年度受審に向けて、2022 年度は助産研究科の自己点検評価報告書は評価機構の様式でまとめ年報とする。 3. 看護学分野別評価 2024 年度受審に向けて、準備組織をつくり、看護学科教員が全員で関わるようにする。 4. 「内部質保証と教学の関連図」を改訂する。 5. 年度末評価報告会の在り方を検討する。 6. PDCA サイクルのスムーズな運用のために、理事長・学長への報告と指示(A⇒P)の在り方について検討する。(学長、理事長との報告および懇談の機会を設けるなど) 7. 教育の質にかかる客観的指標調査における取りこぼしをなくし、さらなる高得点の取得のため、学内の説明会を開催し、FDSD 委員会に登録する。 8. 看栄研、助産研究科における学修成果の評価について検討を進める。 9. IR 室との連携、データの有効活用による自己点検・評価の質向上に向けて検討する <p>(大学基準協会の点検・評価項目の基準番号等記入欄)</p> <p>2. 内部質保証 ①②③④</p> <p>(中期計画戦略目標に該当する項番記入欄)</p> <p>II-1 教学マネジメントの確立と課題への対応 (2) (3) (4) (5)</p> <p>II-2 内部質保証体制と点検評価の実質化 (1) (2) (3) (4)</p>
<p>活動内容の評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学基準協会の認証評価改善報告書の提出について <p>[活動内容]</p> <p>認証評価改善報告書を提出し、改善課題については、一部で今後もさらなる改善に努めることが求められるとあったものの、是正勧告については改善の成果が概ね表れているとの結果であった。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>内部質保証推進委員会が中心となり、内部質保証体制を実質化したことの成果である。</p> 2. 助産評価機構 2023 年度受審に向けて <p>[活動内容]</p> <p>10 月 18 日に開催された 2023 年度認証評価オンライン説明会に助産研究科教員全員が参加した。前回 2018 年度受審時の状況と現在の状況を、今回の評価基準に合わせて確認・点検し、課題を整理している。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>2023 年度中に克服すべき課題を残していないか、十分な確認が必要である。前回受審時からの課題で改善報告が難しい内容については、その取り組みの経緯と今後の方向性を示す方法を検討する。</p> 3. 看護学分野別評価 2024 年度受審に向けて <p>[活動内容]</p> <p>2022 年度は看護学科教員全員が分担し、看護学分野別評価の基準に合わせ点検し、課題を整理した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価]</p> <p>計画的に势力的に進められたことは、2024 年度の受審に向け余裕をもって取り組む下地を作ったと評価できる。2023 年度中に課題の克服に取り組む必要がある。</p>

	<p>4. 「内部質保証と教学の関連図」の改訂について</p> <p>[活動内容] 今年度は関連図の改訂に至らなかった。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 教学マネジメントに関する組織の検討中であり、この組織の決定に合わせて関連図を作成していく必要がある。</p> <p>5. 年度末評価報告会の在り方の検討について</p> <p>[活動内容] 第4回内部質保証推進委員会で検討し、2023年度の状況が不明なことから、2022年度は実施することになった。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 今後の体制を見据えて、検討を進める必要がある。</p> <p>6. PDCA サイクルのスムーズな運用のための検討について</p> <p>[活動内容] 理事長・学長への報告と指示(A⇒P)の在り方について、学長、理事長と懇談の機会を設け、課題を共有した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 有意義な機会となったことから、今後も、必要に応じて懇談し、情報共有する。</p> <p>7. 教育の質にかかる客観的指標調査について</p> <p>[活動内容] 学内に周知を図り、43点を獲得することができた。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] 客観的指標調査の得点を意識して改善した体制が継続して有効に機能するよう、さらに整備を進める必要がある。</p> <p>8. 看栄研、助産研究科における学修成果の評価について</p> <p>[活動内容] 看護学専攻においては、CNS コースの評価ルーブリックを作成した。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] DP に対する評価の検討は、管理栄養学専攻、助産研究科について、引き続き検討が必要である。</p> <p>9. IR 室との連携、データの有効活用による自己点検・評価の質向上に関する検討</p> <p>[活動内容] IR 室を委員会として位置づける方向を含む、教学マネジメント体制について検討中である。</p> <p>[活動内容に対する自己評価] より機能的で効率的な体制の在り方に関する検討が必要である。</p>
次年度への課題	<p>1. 教学マネジメントに関する組織の整備を行い、教学に関する PDCA サイクルが機能するよう検討を続ける。</p> <p>2. 大学院看護栄養学研究科、助産研究科の学修成果の評価に関する検討を進める。</p> <p>3. 2023年日本助産評価機構による助産研究科の受審を滞りなく進める。</p> <p>4. 2024年日本看護学教育評価機構による看護学科の受審に向けて、準備を進める。</p>

自己点検・評価資料

目 次

1. 学事暦	74
2. 2022年度教育課程	76
3. 学生数・奨学金の採用状況	88
4. 国家試験合格率	92
5. 就職・進学状況	93
6. 2021年度入学試験結果	97
7. 教員組織	98
8. 事務組織	100
9. 研究等の活動	101
10. 組織図	103
11. 会議の開催状況	104
12. 委員会構成一覧	113
13. 委員会の活動報告	115
14. 図書館の利用状況	138
15. 情報処理室の利用状況	139
16. 施設・設備の状況	140
17. 財務状況	142

2022年度 学事暦【看護学科】

1. 学事暦

「土曜・祝日は必要に応じて開講日とします。授業予定の詳細については、各学科・学年毎に示される授業予定表で確認してください。」

2022.3.14 教授会一部変更
2021.12.13 教授会承認

暦								1年次	2年次	3年次	4年次	全学行事等
日	月	火	水	木	金	土						
27	28	29	30	31	1	2	4/4 入学式 4/4-5 オリエンテーション 4/6-7 出合いと親睦ゼミ 4/8 授業開始(前期) 4/11-15 履修登録期間	4/5 在学生ガイダンス 4/6 授業開始(前期) 4/6-12 履修登録期間	4/5 在学生ガイダンス 4/6 授業開始(前期) 4/6-12 履修登録期間	4/5 在学生ガイダンス 4/6 授業開始(前期) 4/6-12 履修登録期間	4/9(1・4年)・10(2・3年)健診 4/11PM イースターの集いの学生総会	
3	4	5	6	7	8	9						
10	11	12	13	14	15	16						
17	18	19	20	21	22	23						
24	25	26	27	28	29	30						
1	2	3	4	5	6	7	8/8-9/9 夏期休業	8/2-8/26 夏期休業	8/1-8/26 夏期休業	8/1-9/9 夏期休業	5/16PM 合唱コンクール(中止) 6/4 B肝・小児4種ワクチン接種1回目・MR(1・2年) 6/9PM-11 天使祭 6/18 オープンキャンパス 7/2 B肝・小児4種ワクチン接種2回目・水痘・ムンプス(1・2年) 8/1栄養学科 オープンキャンパス 8/2看護学科 オープンキャンパス 8/14-8/16 大学休業日	
8	9	10	11	12	13	14						
15	16	17	18	19	20	21						
22	23	24	25	26	27	28						
29	30	31	1	2	3	4						
5	6	7	8	9	10	11	↑ 9/12 授業開始(後期) ↓ 9/12-16 履修登録変更期間	↑ 8/29-9/9 基礎看護学臨床実習Ⅱ	↑ 8/29-12/9 成人看護学臨床実習Ⅰ・Ⅱ 老年看護学臨床実習Ⅱ 小児看護学臨床実習 母性看護学臨床実習	↑ 5/9-7/29 成人看護学臨床実習Ⅱ 精神看護学臨床実習 在宅看護学臨床実習 母子看護学臨床実習Ⅱ 6/9PM-11 天使祭	9/12 授業開始(後期) 9/12-9/16 履修登録変更期間	
12	13	14	15	16	17	18						
19	20	21	22	23	24	25						
26	27	28	29	30	1	2						
3	4	5	6	7	8	9	基礎看護学臨床実習Ⅰ 10/6・7・13・14 10/25・26、11/1・2	↑ 11/14-18 老年看護学臨床実習Ⅰ ↓ 11/21PM 看2戴帽式総練習 11/22PM 戴帽式	↑ 10/31-11/11 統合看護臨床実習	10/15 入試(大学院) 9/24 オープンキャンパス 9/30 学位記・卒業証書授与式 10/15 入試(大学院) 10/29 追試(大学院) 11/5 B肝・小児4種ワクチン接種3回目(1・2年) 11/19 入試(学部) 11/22 PM 戴帽式 12/3 追試(学部) 12/8 創立記念日 12/12 体育祭 12/19PM クリスマスの集いの学生総会 12/25 キリスト降誕祭		
10	11	12	13	14	15	16						
17	18	19	20	21	22	23						
24	25	26	27	28	29	30						
31	1	2	3	4	5	6	12/26-1/7 冬期休業	12/26-1/7 冬期休業	12/26-1/7 冬期休業	12/26-1/7 冬期休業	1/14-15 大学入学共通テスト 1/21 入試(大学院) 1/28-29 大学入学共通テスト(追試) 2/6・7・15 入試(学部) 2/20・3/1 追試(学部) 3/4 追試(大学院) 3/10 進級判定(看3除く) 3/24 進級判定(看3) 3/25 オープンキャンパス	
7	8	9	10	11	12	13						
14	15	16	17	18	19	20						
21	22	23	24	25	26	27						
28	29	30	31	1	2	3	1/30-2/3 定期試験(検討中) 2/6-3/31 春期休業 2/21-24 追再試験(検討中)	1/30-2/3 定期試験(検討中) 2/6-3/31 春期休業 2/21-24 追再試験(検討中)	1/17・18 修養会 2/27-3/31 春期休業 3/7-9 追再試験(検討中)	1/23-3/31 春期休業 2/1-2/3 追再試験(検討中) 2/16・17 修養会 2/24 卒業判定 3/14 卒業・修了感謝のミサ 3/15 卒業証書・学位記授与式		
4	5	6	7	8	9	10						
11	12	13	14	15	16	17						
18	19	20	21	22	23	24						
25	26	27	28	29	30	31						
1	2	3	4	5	6	7	2/6-3/31 春期休業	2/6-3/31 春期休業	2/21-24 追再試験(検討中)	2/21-24 追再試験(検討中)	2/6・7・15 入試(学部) 2/20・3/1 追試(学部) 3/4 追試(大学院) 3/10 進級判定(看3除く) 3/24 進級判定(看3) 3/25 オープンキャンパス	
8	9	10	11	12	13	14						
15	16	17	18	19	20	21						
22	23	24	25	26	27	28						
29	30	31	1	2	3	4	2/21-24 追再試験(検討中)	2/21-24 追再試験(検討中)	2/21-24 追再試験(検討中)	2/21-24 追再試験(検討中)	2/6・7・15 入試(学部) 2/20・3/1 追試(学部) 3/4 追試(大学院) 3/10 進級判定(看3除く) 3/24 進級判定(看3) 3/25 オープンキャンパス	
5	6	7	8	9	10	11						
12	13	14	15	16	17	18						
19	20	21	22	23	24	25						
26	27	28	29	30	31	1						

この学事暦の日程は、一部変更することがあります。学則では、前期 4月1日から9月15日まで、後期 9月16日から翌年3月31日までと定められていますが、実際には、臨地(学外)実習などの事情により、学科・学年ごとに学事暦が異なります。

2022年度 学事暦【栄養学科】

「土曜・祝日は必要に応じて開講日とします。授業予定の詳細については、各学科・学年毎に示される授業予定表で確認してください。」

2022.3.14 教授会一部変更
2021.12.13 教授会承認

暦							1年次	2年次	3年次	4年次	全学行事等	
	日	月	火	水	木	金						
4	27	28	29	30	31	1	4/4 入学式 4/4・5 オリエンテーション 4/6・7 出会いと親睦ゼミ 4/8 授業開始(前期) 4/11-15 履修登録期間	4/5 在学生ガイダンス 4/6 授業開始(前期) 4/6-12 履修登録期間	4/5 在学生ガイダンス 4/6 授業開始(前期) 4/6-12 履修登録期間	4/5 在学生ガイダンス 4/6 授業開始(前期) 4/6-12 履修登録期間	4/9(1・4年)・10(2・3年)健診 4/11PM イースターの集い/学生総会	
	3	4	5	6	7	8						9
	10	11	12	13	14	15						16
	17	18	19	20	21	22						23
	24	25	26	27	28	29						30
5	1	2	3	4	5	6	8/15-9/9 夏期休業	8/10-9/9 夏期休業	8/8-8/26 夏期休業	8/8-9/16 夏期休業	5/16PM 合唱コンクール(中止) 6/4 B肝・小児4種ワクチン接種1回目・MR(1・2年) 6/9PM-11 天使祭 6/18 オープンキャンパス 7/2 B肝・小児4種ワクチン接種2回目・水痘・ムンプス(1・2年)	
	8	9	10	11	12	13						14
	15	16	17	18	19	20						21
	22	23	24	25	26	27						28
6	29	30	31	1	2	3	9/12 授業開始(後期) 9/12-16 履修登録変更期間	9/12 授業開始(後期) 9/12-9/16 履修登録変更期間	8/29 授業開始(後期) 8/29-9/2 履修登録変更期間	8/8-9/16 夏期休業 8/15-9/16, 5/30-6/17 (うち5日間) 公衆栄養学実習Ⅱ 5/30-6/17(うち5日間) 給食経営管理論実習Ⅲ 6/6-6/17(うち5日間) 栄養教育実習	8/1 栄養学科 オープンキャンパス 8/2看護学科 オープンキャンパス 8/14-8/16 大学休業日 9/17 入試(大学院) 9/24 オープンキャンパス 9/30 学位記・卒業証書授与式 10/14 PM ステップアップセレモニー 10/15 入試(大学院) 10/29 追試(大学院) 11/5 B肝・小児4種ワクチン接種3回目(1・2年) 11/19 入試(学部) 12/3 追試(学部) 12/8 創立記念日 12/12 体育祭 12/19PM クリスマスの集い・学生総会 12/25 キリスト降誕祭 1/14・15 大学入学共通テスト 1/21 入試(大学院) 1/28・29 大学入学共通テスト(追試) 2/6・7・15 入試(学部) 2/20・3/1 追試(学部) 3/4 追試(大学院) 3/10 進級判定 3/14 卒業・修了感謝のミサ 3/15 卒業証書・学位記授与式	
	5	6	7	8	9	10						11
	12	13	14	15	16	17						18
	19	20	21	22	23	24						25
7	26	27	28	29	30	1	12/26-1/7 冬期休業	10/11・12 修養会 10/14 PM ステップアップセレモニー	10/3-10/7 給食経営管理論実習Ⅱ	10/31-11/18 臨床栄養学実習Ⅲ	11/25 修養会	
	3	4	5	6	7	8						9
	10	11	12	13	14	15						16
	17	18	19	20	21	22						23
8	24	25	26	27	28	29	12/26-1/7 冬期休業	10/11・12 修養会 10/14 PM ステップアップセレモニー	10/3-10/7 給食経営管理論実習Ⅱ	10/31-11/18 臨床栄養学実習Ⅲ	11/25 修養会	
	31	1	2	3	4	5						6
	7	8	9	10	11	12						13
	14	15	16	17	18	19						20
9	21	22	23	24	25	26	12/26-1/7 冬期休業	10/11・12 修養会 10/14 PM ステップアップセレモニー	10/3-10/7 給食経営管理論実習Ⅱ	10/31-11/18 臨床栄養学実習Ⅲ	11/25 修養会	
	28	29	30	31	1	2						3
	4	5	6	7	8	9						10
	11	12	13	14	15	16						17
10	18	19	20	21	22	23	12/26-1/7 冬期休業	10/11・12 修養会 10/14 PM ステップアップセレモニー	10/3-10/7 給食経営管理論実習Ⅱ	10/31-11/18 臨床栄養学実習Ⅲ	11/25 修養会	
	25	26	27	28	29	30						1
	2	3	4	5	6	7						8
	9	10	11	12	13	14						15
11	16	17	18	19	20	21	12/26-1/7 冬期休業	10/11・12 修養会 10/14 PM ステップアップセレモニー	10/3-10/7 給食経営管理論実習Ⅱ	10/31-11/18 臨床栄養学実習Ⅲ	11/25 修養会	
	23	24	25	26	27	28						29
	30	31	1	2	3	4						5
	6	7	8	9	10	11						12
12	13	14	15	16	17	18	12/26-1/7 冬期休業	10/11・12 修養会 10/14 PM ステップアップセレモニー	10/3-10/7 給食経営管理論実習Ⅱ	10/31-11/18 臨床栄養学実習Ⅲ	11/25 修養会	
	20	21	22	23	24	25						26
	27	28	29	30	1	2						3
	4	5	6	7	8	9						10
1	11	12	13	14	15	16	12/26-1/7 冬期休業	10/11・12 修養会 10/14 PM ステップアップセレモニー	10/3-10/7 給食経営管理論実習Ⅱ	10/31-11/18 臨床栄養学実習Ⅲ	11/25 修養会	
	18	19	20	21	22	23						24
	25	26	27	28	29	30						31
	1	2	3	4	5	6						7
2	8	9	10	11	12	13	12/26-1/7 冬期休業	10/11・12 修養会 10/14 PM ステップアップセレモニー	10/3-10/7 給食経営管理論実習Ⅱ	10/31-11/18 臨床栄養学実習Ⅲ	11/25 修養会	
	15	16	17	18	19	20						21
	22	23	24	25	26	27						28
	29	30	31	1	2	3						4
3	5	6	7	8	9	10	12/26-1/7 冬期休業	10/11・12 修養会 10/14 PM ステップアップセレモニー	10/3-10/7 給食経営管理論実習Ⅱ	10/31-11/18 臨床栄養学実習Ⅲ	11/25 修養会	
	12	13	14	15	16	17						18
	19	20	21	22	23	24						25
	26	27	28	1	2	3						4
4	5	6	7	8	9	10	12/26-1/7 冬期休業	10/11・12 修養会 10/14 PM ステップアップセレモニー	10/3-10/7 給食経営管理論実習Ⅱ	10/31-11/18 臨床栄養学実習Ⅲ	11/25 修養会	
	12	13	14	15	16	17						18
	19	20	21	22	23	24						25
	26	27	28	1	2	3						4
5	5	6	7	8	9	10	12/26-1/7 冬期休業	10/11・12 修養会 10/14 PM ステップアップセレモニー	10/3-10/7 給食経営管理論実習Ⅱ	10/31-11/18 臨床栄養学実習Ⅲ	11/25 修養会	
	12	13	14	15	16	17						18
	19	20	21	22	23	24						25
	26	27	28	29	30	31						1

この学事暦の日程は、一部変更することがあります。学期では、前期 4月1日から9月15日まで、後期 9月16日から翌年3月31日までと定められていますが、実際には、臨地(学外)実習などの事情により、学科・学年ごとに学事暦が異なります。

2. 2022年度教育課程

1) 看護学科

<2022年度以降入学生対象>

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			概要	卒業所要単位
			必修	選択	講義	演習	実験・実習		
しきたり 人間教育を 基盤と する 科目群	キリスト教概論	1前	2		○			必修科目114単位、 選択科目15 単位以上(選択 必修科目含む) 修得	
	聖書の講読	1後		▲2	○				
	キリスト教人間学	2前		▲2	○				
	キリスト教思想論	2後		▲2	○				
	人間形成とキャリアデザインⅠ	1前	1		○				
	人間形成とキャリアデザインⅡ	2後	1		○				
	人間形成とキャリアデザインⅢ	3後	1		○				
	人間形成とキャリアデザインⅣ	4後	1		○				
小計(8科目)		—	6	6	—				
教養教育科目群	共通基礎	基礎学修演習	1前	1			○		
		情報処理演習	1前		1		○		
		教養ゼミ	2後		2				
	自然科学	化学	1前	2		○			
		生物学	1前		2	○			
		データの科学	1後	2		○			
		科学的思考	2前		2	○			
	外国語	英語ⅠA	1前	1			○		
		英語ⅠB	1後	1			○		
		英語ⅡA	2前		1		○		
		英語ⅡB	2後		1		○		
		オーラルイングリッシュⅠA	1前	1			○		
		オーラルイングリッシュⅠB	1後	1			○		
		オーラルイングリッシュⅡA	2前		1		○		
		オーラルイングリッシュⅡB	2後		1		○		
		フランス語	2前		1		○		
		中国語	2前		1		○		
	韓国語	2前		1		○			
	スペイン語	2前		1		○			
	健康・スポーツ	健康とスポーツⅠ	1通		1			○	
		健康とスポーツⅡ	2通		1			○	
小計(21科目)		—	9	17	—				
共通教養教育科目	人間と文化	倫理学	1後	2		○			
		宗教学	1後		2	○			
		音楽概論	1後		2	○			
		美術概論	1後		2	○			
		民族と異文化理解	2後		2	○			
	人間と社会	法学(日本国憲法)	1前		2	○			
		対人関係の心理学	1前		2	○			
		社会学	1前		2	○			
		近現代の日本	1後		2	○			
		現代の政治経済	2後		2	○			
小計(10科目)		—	2	18	—				
小計(31科目)		—	11	35	—				
専門教育科目群	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	1前	2		○			
		形態機能学Ⅱ	1後	2		○			
		栄養代謝学	1前	2		○			
		微生物学	1後	2		○			
		病理学	1後	2		○			
		看護薬理学	2前	2		○			
		病態診療学Ⅰ	2前	2		○	○		
		病態診療学Ⅱ	2後	2		○			
		環境健康論	1後	2		○			
		社会福祉論	1前	2		○			
		保健医療福祉システム論	3前	2		○			
		生涯発達論	1前	1		○			
		医療と倫理	2前	1		○			
		医療人類学	4後		1	○			
小計(14科目)		—	24	1	—				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			概要	卒業所要単位
			必修	選択	講義	演習	実験・実習		
看護基礎科目	看護学原理	1前	2		○				
	人間関係論	1後	1			○			
	看護過程とヘルスアセスメントⅠ	2前	2		○				
	看護過程とヘルスアセスメントⅡ	2前	1			○			
	基礎看護技術論Ⅰ	1前	1			○			
	基礎看護技術論Ⅱ	1後	2			○			
	基礎看護技術論Ⅲ	2前	1			○			
	基礎看護技術論Ⅳ	2前	1			○			
	小計(8科目)	—	—	11	0	—	—	—	—
	看護臨床科目	地域看護学Ⅰ	2前	1		○			
		地域看護学Ⅱ	2後	1		○			
		成人看護学Ⅰ	2前	1		○			
		成人看護学Ⅱ	2後	2			○		
		成人看護学Ⅲ	3前	2		○	○		
		老年看護学Ⅰ	2前	2		○			
		老年看護学Ⅱ	3前	2		○	○		
		小児看護学Ⅰ	2後	2		○			
		小児看護学Ⅱ	3前	2		○	○		
		母性看護学Ⅰ	2後	1		○			
		母性看護学Ⅱ	2後	2		○			
		母性看護学Ⅲ	3前	1			○		
		精神看護学Ⅰ	2後	1		○			
		精神看護学Ⅱ	3前	2		○			
		精神看護学Ⅲ	3後	1			○		
		在宅看護学Ⅰ	3前	1		○			
		在宅看護学Ⅱ	3後	2		○			
		家族看護学	3前	1		○			
		医療安全	3前	1		○			
		多職種連携	1後	1		○			
	多職種連携演習	3後	1			○			
	看護倫理	4前	1		○				
	臨床実習科目	基礎看護学臨床実習Ⅰ	1後	1				○	
		基礎看護学臨床実習Ⅱ	2後	2				○	
成人看護学臨床実習Ⅰ		3後	3				○		
成人看護学臨床実習Ⅱ		3後	3				○		
老年看護学臨床実習Ⅰ		2後	1				○		
老年看護学臨床実習Ⅱ		3後	3				○		
小児看護学臨床実習		3後～4前	2				○		
母性看護学臨床実習		3後～4前	2				○		
精神看護学臨床実習		4前	2				○		
在宅看護学臨床実習		4前	2				○		
小計(32科目)	—	—	52	0	—	—	—	—	
小計(54科目)	—	—	87	1	—	—	—	—	
統合発展科目群	生と死の看護ゼミ	2後	1			○			
	ホスピス・緩和ケア論	3前	1		○				
	ヘルスプロモーション活動論	3後	1	○					
	リハビリテーション看護学	4前	1	○					
	国際保健学	2前	1	○					
	国際保健学演習	2後/3後	1		○				
	看護英文講読	3後	1	○					
	看護研究の基礎	3後	1			○			
	看護研究	4前後	2			○			
	看護管理	4前	1	○					
	災害看護学	4前	1	○					
	看護教育学	4前	1	○					
	統合看護臨床実習	4前	2				○		
	統合看護技術演習	4後	1			○			
小計(14科目)	—	—	10	6	—	—	—	—	
合計(107科目)	—	—	114	48	—	—	—	—	

▲は選択必修科目

2) 栄養学科

<2020年度以降入学生対象>

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			概要	卒業所要単位
			必修	選択	講義	演習	実験・実習		
しきたり人間教育を基盤とした人間教育科目群	キリスト教概論	1前	2		○			必修科目104単位、選択科目23単位以上(選択必修科目含む)修得	
	聖書の講読	1後		▲2	○				
	キリスト教人間学	2前		▲2	○				
	キリスト教思想論	2後		▲2	○				
	人間形成とキャリアデザインⅠ	1前	1		○				
	人間形成とキャリアデザインⅡ	2後	1		○				
	人間形成とキャリアデザインⅢ	3後	1		○				
	人間形成とキャリアデザインⅣ	4後	1		○				
小計(8科目)		—	6	6	—				
教養教育科目群	共通基礎	基礎学修演習	1前	1		○			
		情報処理演習	1前		1		○		
		教養ゼミ	2後		2	○			
	自然科学	化学	1前	2		○			
		生物学	1前		2	○			
		データの科学	1後	2		○			
		科学的思考	2前		2	○			
	外国語	英語ⅠA	1前	1			○		
		英語ⅠB	1後	1			○		
		英語ⅡA	2前		1		○		
		英語ⅡB	2後		1		○		
		オーラルイングリッシュⅠA	1前	1			○		
		オーラルイングリッシュⅠB	1後	1			○		
		オーラルイングリッシュⅡA	2前		1		○		
		オーラルイングリッシュⅡB	2後		1		○		
		フランス語	2前		1		○		
		中国語	2前		1		○		
	韓国語	2前		1		○			
	スペイン語	2前		1		○			
	健康・スポーツ	健康とスポーツⅠ	1通		1			○	
		健康とスポーツⅡ	2通		1			○	
小計(21科目)		—	9	17	—				
共通教養教育科目	人間と文化	倫理学	1後	2		○			
		宗教学	1後		2	○			
		音楽概論	1後		2	○			
		美術概論	1後		2	○			
		民族と異文化理解	2後		2	○			
	人間と社会	法学(日本国憲法)	1前		2	○			
		対人関係の心理学	1前		2	○			
		社会学	1前		2	○			
		近現代の日本	1後		2	○			
		現代の政治経済	2後		2	○			
小計(10科目)		—	2	18	—				
小計(31科目)		—	11	35	—				
専門教育科目群	社会・環境と健康	人間関係論	1前	1		○			
		生涯発達論	1前	1		○			
		公衆衛生学	2前	2		○			
		医療概論	2前		2	○			
		健康管理概論	2後	2		○			
		公衆衛生学実習	2後	1			○		
		保健医療福祉システム論	4前	1		○			
	小計(7科目)		—	8	2	—			
	人体の構造と機能・疾病の成り立ち	生化学Ⅰ	1前	2		○			
		生化学Ⅱ	1後	2		○			
		形態機能学Ⅰ	1前	2		○			
		形態機能学Ⅱ	1後	2		○			
		有機化学	1前		2	○			
		微生物学	1後	2		○			

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			概要	卒業所要単位	
			必 修	選 択	講 義	演 習	実 験・ 実習			
	形態機能学実習Ⅰ	1後	1				○			
	形態機能学実習Ⅱ	3前	1				○			
	病理学	2前	2			○				
	生化学実験	2前	1				○			
	病態診療学	2後	2			○				
	小計（11科目）	—	17	2	—					
専門基礎科目	食と健康	食品科学Ⅰ	1前	2		○				
	食品科学Ⅱ	1後	2		○					
	食品科学Ⅲ	4前		2	○					
	調理学	1前	2		○					
	調理学実習Ⅰ	1前	1				○			
	調理学実習Ⅱ	1後	1				○			
	食品科学実験Ⅰ	1後	1				○			
	食品科学実験Ⅱ	3前	1				○			
	食品衛生学	2前	2			○				
	食品衛生学実験	2前	1				○			
	食品微生物学実験	2前	1				○			
	食文化論	4後		1	○					
	小計（12科目）	—	14	3	—					
	小計（30科目）	—	39	7	—					
専門教育科目群	栄養の基礎	基礎栄養学	1後	2		○				
		応用栄養学Ⅰ	2前	2		○				
		応用栄養学Ⅱ	2後	2		○				
		応用栄養学Ⅲ	3後	2		○				
		基礎栄養学実験・実習	2後	1				○		
		応用栄養学実習	3前	1				○		
		スポーツ栄養学	4前		2	○				
		国際栄養学	4後		1	○				
		小計（8科目）	—	10	3	—				
	栄養の教育	栄養教育論Ⅰ	2前	2		○				
		栄養教育論Ⅱ	2後	2		○				
		栄養教育論Ⅲ	3後	2		○				
		栄養教育論実習	3前	1				○		
		カウンセリング演習	3前		1		○			
		学校栄養指導論Ⅰ	3前		2	○				
		学校栄養指導論Ⅱ	3後		2	○				
		小計（7科目）	—	7	5	—				
栄養の実践	臨床栄養学Ⅰ	2前	2		○					
	臨床栄養学Ⅱ	2後	2		○					
	臨床栄養学Ⅲ	3前	2		○					
	臨床栄養学Ⅳ	3後	2		○					
	給食経営管理論Ⅰ	2前	2		○					
	給食経営管理論Ⅱ	2後	2			○				
	給食経営管理論実習Ⅰ	2後	1				○			
	臨床栄養学実習Ⅰ	3前	1				○			
	臨床栄養学実習Ⅱ	3後	1				○			
	臨床栄養学実習Ⅳ	4前	1				○			
	公衆栄養学Ⅰ	3前	2		○					
	公衆栄養学Ⅱ	3後	2		○					
	公衆栄養学実習Ⅰ	3後	1				○			
	多職種連携	2後	1		○					
	多職種連携演習	3後	1			○				
	総合演習Ⅰ	3通年	1			○				
総合演習Ⅱ	4通年	2			○					
在宅栄養管理論	4前	1		○						
地域栄養活動演習	4前		1		○					
フードサービス演習	4前		2		○					
	小計（20科目）	—	27	3	—					

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			概要	卒業所要単位
			必 修	選 択	講 義	演 習	実 験・ 実 習		
学 外 実 習	給食経営管理論実習Ⅱ	3後	1				○		
	給食経営管理論実習Ⅲ	4前		▲1			○		
	給食経営管理論実習Ⅳ	4通年		▲1			○		
	公衆栄養学実習Ⅱ	4通年		▲1			○		
	臨床栄養学実習Ⅲ	3後	2				○		
	臨床栄養学実習Ⅴ	4通年		▲1			○		
	臨床栄養学実習Ⅵ	4通年		2			○		
	小計 (7科目)	—	3	6			—		
	小計 (42科目)	—	47	17			—		
	小計 (72科目)	—	86	24			—		
統 合 発 展 科 目 群	国際保健学	2前		1	○				
	国際保健学演習	2後		1		○			
	英文文献講読	3後		1		○			
	食といのちのゼミ	4後	1		○				
	卒業研究	4通年		3		○			
小計 (5科目)	—	1	6			—			
合計 (116科目)		—	104	71			—		

▲は選択必修科目

3) 教職課程

科目区分	授業科目	開講 年次	学期	単位数		区分			備考
				必修	選択	講義	演習	実習	
教職課程科目	教育原論	1	後		1	1			
	教職概論	1	前		2	2			
	教育制度論	2	前		1	1			
	発達と学習の心理学	1	後		2	2			
	特別支援教育論	2	前		1	1			
	教育課程論	1	後		1	1			
	道德教育論	2	後		1	1			
	総合学習指導論	3	前		1	1			
	特別活動論	2	後		1	1			
	教育方法論	2	前		1	1			
	教育におけるICT活用論	2	前		1	1			
	生徒指導論	2	後		2	2			
	カウンセリング概論	1	後		2	2			
	栄養教育実習事前事後指導	4	前		1				1
	栄養教育実習	4	前		1				1
	教職実践演習（栄養教諭）	4	前後		2		2		
	教職総合演習	3	後		2		2		
		合計				23	17	4	2

4) 大学院看護栄養学研究科 栄養管理学専攻 (博士前期課程)

2016年度以降入学生対象

授業科目	共通科目	配当年次	学期	単位数		授業区分				
				必修	選択	講義	演習	実習		
基礎科目	倫理学特論	☆	1		後	1		1		
	統計学特論	☆	1		前	1			1	
	疫学	☆	1		前	1		1		
	人間関係論特論	☆	1		後		1	1		
	研究方法論特論	☆	1		前	2		2		
	医療情報・医療経済	☆	1		後		1	1		
	国際保健学特論	☆	2		前		1	1		
	国際保健学特論演習	☆	2		前		1		1	
専門基礎科目	食品衛生学特論		1		前	2		2		
	食品学特論		1・2	※	後		2	2		
	食薬理学特論		1・2	※	前		2	2		
	栄養生理学特論		1・2	※	前		2	2		
	代謝栄養学特論	★	1		後	2		2		
	栄養免疫学特論		1・2	※	後		2	2		
	地域ケアシステム論	☆	1		後		1	1		
	ヘルスカウンセリング論	★	1		前		1		1	
	環境保健学	★	1		前		1	1		
	健康社会学	★	2		前		1	1		
	医療人類学特論	★	2		前		1	1		
専門実践科目	栄養管理学特論		1		前	2		2		
	栄養疫学特論		1		後		1	1		
	健康行動科学特論	☆	1		前	1		1		
	健康・食行動理論		1		前		1	1		
	健康栄養エビデンス論		1・2	※	前		2	2		
	栄養診断学特論		1		後	2		2		
	栄養管理学総合演習		1		前後	2			2	
	臨床栄養学特論		1		前	2		2		
	栄養管理学特別研究		1~2		前後	4				4
	栄養管理学特別演習		1~2		前後	4			4	
合計						26	21	34	9	4

修了に必要な単位数:30単位以下

☆:両専攻共通科目 ※:隔年開講

★:両専攻選択可能科目

5) 大学院看護栄養学研究科 栄養管理学専攻 (博士後期課程) 2016年度以降入学生対象

区分	授 業 科 目	配当 年次	学期	単 位 数		授 業 区 分		
				必修	選択	講義	演習	実習
共通	研 究 方 法 特 論	1	前後	4		4		
基礎系栄養 管理学 分野	基礎系栄養管理学特論	1	前		2	2		
	基礎系栄養管理学特別研究	1~3	前後		12			12
実践系栄養 管理学 分野	実践系栄養管理学特論	1	前		2	2		
	実践系栄養管理学特別研究	1~3	前後		12			12
合 計				4	28	8	0	24

修了に必要な単位数：18単位以上

区分	授業科目	共通科目	配当年次	学期	修論コース		高度実践看護師コース		CNS対象科目	保健師コース		授業区分		
					単位数		単位数			単位数		講義	演習	実習
					必修	選択	必修	選択		必修	選択			
看護学・栄養管理学科専攻共通科目	倫理学特論	☆	1	後	1		1		○	1		1		
	人間関係論特論	☆	1	後		1		1			1	1		
	研究方法論特論	☆	1	前	2		2		○	2		2		
	統計学特論	☆	1	前		1		1		1			1	
	疫学	☆	1	前		1		1		1		1		
	地域ケアシステム論	☆	1	後		1		1		1		1		
	健康行動科学特論	☆	1	前		1		1		1		1		
	医療情報・医療経済	☆	1	後		1		1			1	1		
	国際保健学特論	☆	2	前		1		1			1	1		
国際保健学特論演習	☆	2	前		1		1			1		1		
看護学専攻共通基礎科目	看護理論特論		1	前	2		2		○	2		2		
	看護倫理特論		1	後	1		1		○		1	1		
	看護研究法Ⅰ(量的研究)		1	後		1		1			1		1	
	看護研究法Ⅱ(質的研究)		1	後		1		1			1		1	
	看護教育学特論Ⅰ		1	前		2	2		○		2	2		
	看護教育学特論Ⅱ		1	後		1		1			1		1	
	看護管理学特論		1	後		2		2	○		2	2		
	家族関係論特論		1	前		1		1		1		1		
コンサルテーション論		1	後		1		1	○		1	1			
専門基礎科目	フィジカルアセスメント		1	後			2		○			2		
	病態生理学		1	前		2	2		○			2		
	臨床薬理学		1	前		2	2		○			2		
	保健医療福祉政策論		1~2	後		1		1	○	1		1		
	保健医療福祉行政論		1	前		3				3		3		
	疫学・保健統計特論		1	前		2				2		2		
	ヘルスカウンセリング論	★	1	前		1		1		1			1	
	代謝栄養学特論	★	1	後		2		2			2	2		
	環境保健学	★	1	前		1		1			1	1		
健康社会学	★	2	前		1		1			1	1			
医療人類学特論	★	2	前		1		1			1	1			
専門分野専門科目	基礎看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
	基礎看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
	基礎看護学演習Ⅰ		1	前	2								2	
	基礎看護学演習Ⅱ		1~2	後前	2								2	
	成人看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
	成人看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
	成人看護学演習Ⅰ		1	前	2								2	
	成人看護学演習Ⅱ		1~2	後前	2								2	
	老年看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
	老年看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
	老年看護学演習Ⅰ		1	前	2								2	
	老年看護学演習Ⅱ		1~2	後前	2								2	
	母性看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
	母性看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
	母性看護学演習Ⅰ		1	後	2								2	
	母性看護学演習Ⅱ		1~2	後前	2								2	
	小児看護学特論Ⅰ		1	前	2							2		
	小児看護学特論Ⅱ		1	前	2							2		
	小児看護学演習Ⅰ		1	前	2								2	
	小児看護学演習Ⅱ		1~2	後前	2								2	
精神看護学特論Ⅰ		1	前	2							2			
精神看護学特論Ⅱ		1	前	2							2			
精神看護学演習Ⅰ		1	後	2								2		
精神看護学演習Ⅱ		1~2	後前	2								2		
公衆衛生看護学特論Ⅰ		1	前	2					2		2			
公衆衛生看護学特論Ⅱ		1	前	2							2			
公衆衛生看護学演習Ⅰ		1	前	2								2		
公衆衛生看護学演習Ⅱ		1~2	後前	2								2		

区分	授業科目	共通科目	配当年次	学期	修論コース		高度実践看護師コース		CNS対象科目	保健師コース		授業区分		
					単位数		単位数			単位数		講義	演習	実習
					必修	選択	必修	選択	必修	選択				
ホスピス緩和ケア看護学コース	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅰ		1	前			2		○			2		
	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅱ		1	後			2		○			2		
	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅲ		1～2	後前			2		○				2	
	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅳ		1	後			2		○			2		
	ホスピス緩和ケア看護学特論Ⅴ		1	前			2		○			2		
	ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅰ		1	前後			2		○			1	1	
	ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅱ		1	後			1		○				1	
	ホスピス緩和ケア看護学演習Ⅲ		2	前			1		○				1	
	ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅰ		1	後			4		○					4
	ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅱ		2	前			4		○					4
ホスピス緩和ケア看護学実習Ⅲ		2	前			2		○					2	
老年看護学CNSコース	老年看護学特論Ⅰ（理論・概念）		1	前			2		○			2		
	老年看護学特論Ⅱ（健康生活評価）		1	前			2		○			2		
	老年看護学特論Ⅲ		1	後			2		○			2		
	老年看護学特論Ⅳ		1	後			2		○			2		
	老年看護学特論Ⅴ		1	後			2		○			2		
	老年看護学展開論Ⅰ		1	後			2		○				2	
	老年看護学展開論Ⅱ		2	前			2		○				2	
	老年看護学実習Ⅰ		1	後			4		○					4
老年看護学実習Ⅱ		2	前			6		○					6	
精神看護学CNSコース	精神看護学特論Ⅰ		1	前			2		○			2		
	精神看護学特論Ⅱ		1	前			2		○			2		
	精神看護学特論Ⅲ		1	後			2		○			2		
	精神看護学特論Ⅳ		2	前			2		○			2		
	精神看護学演習Ⅰ		1	後			2		○				2	
	精神看護学演習Ⅱ		2	前			2		○				2	
	リエゾン精神看護学特論		2	前			2		○			2		
	高度実践精神看護実習Ⅰ		1	後			1		○					1
	高度実践精神看護実習Ⅱ		1	後			2		○					2
	高度実践精神看護実習Ⅲ		2	前			4		○					4
高度実践精神看護実習Ⅳ		2	前			2		○					2	
高度実践精神看護実習Ⅴ		2	後			1		○					1	
保健師コース	公衆衛生看護学原論		1	前							2	2		
	公衆衛生看護活動論Ⅰ		1	前							2	2		
	公衆衛生看護活動論Ⅱ		1	後							2	2		
	健康学習支援特論		1	後							2	2		
	家族看護学特論		1	前							2	1	1	
	公衆衛生看護診断		1	後							2	1	1	
	公衆衛生看護管理		1	後							2	2		
	健康危機管理特論		1	後							2	2		
	産業・学校保健活動論		2	前							2	2		
	地域ケアシステム論特論		2	前							2	2		
	公衆衛生看護課題研究演習		1	後							2		2	
	家族看護継続実習		1	後							2			2
	公衆衛生看護活動実習		1	後							3			3
	公衆衛生看護管理実習Ⅰ		1	後							2			2
公衆衛生看護管理実習Ⅱ		2	前							1			1	
特別看護研究		2	前後		8								8	
ホスピス緩和ケア看護課題研究		2	前後				2						2	
老年看護課題研究		2	前後				2						2	
精神看護課題研究		2	前後				2						2	
公衆衛生看護課題研究		2	前後							4			4	
計		—	—	—	70	33	86	28	—	53	18	110	69	38

修了に必要な単位数：30単位以上

注1：保健師コースにおいて、保健師国家試験受験資格を取得するためには、必須の31単位と大学院修士課程修了に必要な30単位の計61単位を修得すること。

注2：修士論文コースは、専攻分野ごとに定める専門科目を履修・修得すること。

注3：高度実践看護師コースにおいて、高度実践看護師資格を取得するためには必修科目38単位を修得すること。

<記号説明>

☆：両専攻共通科目

★：各専攻の専門科目（両専攻で選択可）

7) 【助産基礎分野】

2017年度以降入学生対象

区分	授 業 科 目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法 及び 修了要件	
				必修	選択	講義	演習	実習		
基 礎 科 目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	2	後		1	1			
	専門基礎	出産の文化	1	前	1		1			
		女性のフィジカルイグザミネーション	1	前	1			1		
		助産薬理学Ⅰ	1	前	1		1			
		助産薬理学Ⅱ	2	前	1		1			
		妊産褥婦乳幼児の栄養	1	前	1		1			
		助産女性学	1	前	1		1			
		助産カウンセリング	1	後	1			1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
		助産研究法	1	後	1		1			
		助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後	1		1		
			助産管理論Ⅱ	2	前	1		1		
	助産師教育論		2	前	1		1			
	助産師教育方法論		2	後		1	1			
	母子保健行政・財政論		1	後	1		1			
母子保健活動論（疫学・統計を含む）	2		前	1		1				
実 践 専 門 科 目	マタニティサイクル助産ケア	マタニティサイクル助産ケアⅠ	1	通年	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅡ	1	通年	2		1	1		
		マタニティサイクル助産ケアⅢ	1	通年	2		1	1		
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後	1		1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後	1		1			
		ハイリスク助産演習	2	前	1			1		
		独立助産実践概論	2	前	1		1			
	マタニティサイクル助産ケア実践	独立助産演習	2	前	1			1		
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ	1	前	2				2	
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅰ	1	後	6				6	
		マタニティサイクル独立助産実習	2	前	6				6	
		マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ	2	後	2				2	
発 展 ・ 展 開 科 目	発展・展開	子育て支援論Ⅰ	1	後	1	①	1			
		子育て支援論Ⅱ	2	前後		1		1		
		子育て支援論演習	2	後		1		1		
		性教育Ⅰ	2	前	1	②	1			
		性教育Ⅱ	2	前後		1		1		
		性教育実習	2	後		2			2	
		ウィメンズヘルスⅠ	1	後	1	③	1			
		ウィメンズヘルスⅡ	2	前後		1		1		
		ウィメンズヘルス演習	2	後		1		1		
		国際助産学Ⅰ	2	前	1	④	1			
		国際助産学Ⅱ	2	前後		1		1		
		国際助産学実習	2	後		2			2	
特別統合研究科目	特別統合課題研究	2	通年	1			1			
合 計					53	12	26	15	24	

修了要件は、選択科目3単位以上を含む56単位以上修得すること。なお、選択科目は、①から④のいずれかの領域の単位を必ず修得し、かつ①、③の領域を選択した場合は、

8) 【助産教育分野】

2015年度以降入学生対象

区分	授 業 科 目	学年	学期	単位数		授業区分			履修方法及び 修了要件	
				必修	選択	講義	演習	実習		
助 産 専 門 科 目	概念形成	助産学概論	1	前	1		1			修了要件は選択科目8単位以上を含む 45単位以上を修得すること。
		助産哲学・倫理Ⅰ	1	後	1		1			
		助産哲学・倫理Ⅱ	1	後	1		1			
		出産の文化	1	前		1	1			
		助産女性学	1	前		1	1			
	助産教育技術	助産カウンセリング	1	後	1			1		
		健康教育論Ⅰ	1	前	1		1			
		健康教育論Ⅱ	2	前	1			1		
		女性のフィジカルイグザミネーション	1	前		1		1		
	助産ケア 特論・実践	独立助産実践特論	1	前	1		1			
		独立助産演習	1	前	1			1		
		独立助産実習	1	後	6				6	
		助産薬理学	2	前		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅰ	1	後		1	1			
		ハイリスク助産学Ⅱ	1	後		1	1			
	助産機能	助産管理論Ⅰ	1	後		1	1			
		助産管理論Ⅱ	1	前	1		1			
		母子保健行政・財政論	1	後		1	1			
		母子保健活動論(疫学・統計を含む)	2	前		1	1			
	発展・展開	子育て支援論	1	後		1	1			
性教育		1	前		1	1				
ウィメンズヘルス		1	後		1	1				
国際助産学		1	前		1	1				
教 育 科 目	助産・ 看護教育	教育概論	1	前	2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開	1	通年	2		2			
		教育計画(カリキュラム)の原理と展開演習	1	後	1			1		
		教授学習法の理論と展開	1	通年	2		2			
		教授学習法の理論と展開演習	1	後	1			1		
		教育評価	1	後	2		2			
		教育評価演習	1	後	1			1		
		教育機関の運営と評価	1	後	2		2			
		助産教育(Classroom Teaching)演習	2	前	1			1		
		助産教育(Classroom Teaching)実習	2	前	1				1	
		臨床助産教育(Clinical Teaching)演習	2	前	1			1		
		臨床助産教育(Clinical Teaching)実習	2	前	2				2	
	特別統合研究	助産研究法Ⅰ	1	前	1		1			
		助産研究法Ⅱ	1	後	1			1		
助産教育課題研究		2	前	2			2			
合 計						37	13	29	12	9

3. 学生数・奨学金の採用状況

在籍者数

(2022年5月1日現在)

所属	学科・専攻	コース名等	収容定員	1年	2年	3年	4年	計	収容定員充足率
看護学部 栄養	看護学科		387	105 (5)	101 (4)	98 (1)	96 (2)	400 (12)	103.4%
	栄養学科		355	94 (3)	92 (2)	91 (4)	87 (2)	364 (11)	102.5%
	小計			742	199 (8)	193 (6)	189 (5)	183 (4)	764 (23)
助産大学院 研究科	助産専攻	助産基礎分野	60	24 -	16 -	- -	- -	40 -	66.7%
		助産教育分野	20	0 -	0 -	- -	- -	0 -	0.0%
	小計			80	24 -	16 -	- -	- -	40 -
看護学部 大学院 研究科	看護学専攻	基礎看護学コース	28	1	0	- -	- -	1 (0)	57.1%
		成人看護学コース		0	0	- -	- -	0 (0)	
		老年看護学コース		0	0	- -	- -	0 (0)	
		母性看護学コース		0	0	- -	- -	0 (0)	
		小児看護学コース		0	0	- -	- -	0 (0)	
		精神看護学コース		0	2	- -	- -	2 (0)	
		公衆衛生看護学コース		0	0	- -	- -	0 (0)	
		ホスピス緩和ケア看護学コース		0	2 (1)	- -	- -	2 (1)	
		老年看護CNSコース		0	3	- -	- -	3 (0)	
		精神看護CNSコース		1 (1)	0	- -	- -	1 (1)	
	保健師コース	6	2	- -	- -	8 (0)			
	栄養管理学専攻	博士前期課程	6	1	1	- -	- -	2 (0)	33.3%
		博士後期課程	6	1	1	5 (1)	- -	7 (1)	116.7%
小計			40	10 (1)	11 (1)	5 (1)	- -	26 (3)	65.0%
合計			862	233 (9)	220 (7)	194 (6)	183 (4)	830 (26)	96.3%

奨学金の種類と採用数（学部生） 2023年3月現在

奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数		
全学生	天使大学貸与奨学金		月 額	30,000円	無利子貸与	21人	
	日本学生支援機構奨学金	貸与	第一種	月 額	自 宅 54,000円 自 宅外 64,000円 上記以外に月額20,000円～50,000円まで、1万円単位で選択することができます（自宅通学の方は50,000円選択不可）。	無利子貸与	168人
			第二種	月 額	月額20,000円～120,000円まで、1万円単位で選択することができます。	有利子貸与 利率3%以内	189人
	給付	第Ⅰ区分	月 額	自 宅 38,300円 自 宅外 75,800円	住民税非課税世帯（年収300万円未満の世帯）、それに準ずる世帯で、一定の学力・資質要件を満たす学生等が対象	38人	
				自 宅 25,600円 自 宅外 50,600円		19人	
				自 宅 12,800円 自 宅外 25,300円		14人	
				停止中		11人	
	2～4年次生以上	天使大学シスター川原ユキエ記念奨学金		年 額	300,000円	給付、返還不要	3人
天使大学給付奨学金		年 額	200,000円	給付、返還不要	16人		
天使大学同窓会給付奨学金		年 額	100,000円	給付、返還不要	4人		
2～4年次生	学業成績優秀者奨励金		年 額	50,000円	給付	7人	
看学生	北海道看護職員養成修学資金		月 額	36,000円	道内特定施設に一定期間勤務の場合返還免除	8人	
全学生	その他の奨学金		札幌市奨学金(7)、北海道信用金庫奨学金(4)、天使病院奨学金(3)、森記念奨学金(3)、あしなが育英会奨学金(2)、日本教育文化財団育英奨学金(1)、IMSグループ奨学金(1)、コカ・コーラ教育・環境財団奨学金(1)			22人	
合 計						520人	

奨学金の種類と採用数（看護栄養学研究科） 2023年3月現在

奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
天使大学貸与奨学金		月 額	30,000円または50,000円	無利子貸与	0人
日本学生支援機構奨学金	第一種	月 額	修士課程 50,000円または88,000円 博士課程 80,000円または122,000円	無利子貸与	1人
	第二種	月 額	50,000円、80,000円 100,000円、130,000円 150,000円から選択	有利子貸与 利率3%以内	0人
天使大学同窓会給付奨学金		年 額	100,000円	給付、返還不要	0人
北海道看護職員養成修学資金		月 額	36,000円	道内特定施設に一定期間勤務の場合返還免除	0人
その他の奨学金		国際看護師協会東京大会記念奨学金（1）			1人
					2人

奨学金の種類と採用数（助産研究科） 2023年3月現在

奨学金の種類		奨学金の金額		貸与・給付の別	採用数
天使大学貸与奨学金		月 額	30,000円または50,000円	無利子貸与	0人
日本学生支援機構奨学金	第一種	月 額	50,000円または88,000円	無利子貸与	9人
	第二種	月 額	50,000円、80,000円 100,000円、130,000円 150,000円から選択	有利子貸与 利率3%以内	4人
天使大学同窓会奨学金		年 額	100,000円	給付、返還不要	1人
日本助産師会奨学金		月 額	50,000円	無利子貸与	0人
北海道看護職員養成修学資金		月 額	36,000円	無利子貸与。道内施設に一定 期間勤務の場合返還免除	20人
その他の奨学金		JA北海道厚生連 助産師奨学金（1）			1人
合 計					35人

4. 国家試験合格率

国家試験合格率（2022年度）

学 部・学 科	国家試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B)	合格率 (%) B/A*100	全国合格率 (新卒) (%)
看護栄養学部看護学科	看護師国家試験	94 人	92 人	97.9%	95.5%
看護栄養学研究科看護専攻	保健師国家試験	2 人	2 人	100.0%	96.8%
助産研究科助産専攻	助産師国家試験	14 人	13 人	92.9%	95.9%
看護栄養学部栄養学科	管理栄養士国家試験	86 人	79 人	91.9%	87.2%

5. 就職・進学状況

看護栄養学部就職状況（2023年5月1日現在）

〔学科別就職希望者〕

学科		看護学科						栄養学科					
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	卒業生に対する割合	数	割合	数	割合	数	卒業生に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	70	98.6%	1	1.4%	71	75.5%	83	98.8%	1	1.2%	84	97.7%
	希望無しの者	22	95.7%	1	4.3%	23	24.5%	1	50.0%	1	50.0%	2	2.3%
計(卒業生数)		92	97.9%	2	2.1%	94	100.0%	84	97.7%	2	2.3%	86	100.0%

〔学科別就職決定者〕

学科		看護学科						栄養学科					
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合
決定数/決定率		70	100.0%	1	100.0%	71	100.0%	80	96.4%	1	100.0%	81	96.4%

〔地域別・就職別決定者〕

学科		看護学科						栄養学科					
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	就職者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職者に対する割合
地域別	道外	17	24.3%	0	0.0%	17	23.9%	8	10.0%	0	0.0%	8	9.9%
	道内	53	75.7%	1	100.0%	54	76.1%	72	90.0%	1	100.0%	73	90.1%
	市内(再掲)	49	(70.0%)	1	(100.0%)	50	(70.4%)	47	(58.8%)	0	0.0%	47	(58.0%)
職種別	看護師	70	100.0%	1	100.0%	71	100.0%						
	管理栄養士							46	57.5%	1	100.0%	47	58.0%
	栄養士							16	20.0%	0	0.0%	16	19.8%
	栄養教諭							5	6.3%	0	0.0%	5	6.2%
	上記以外							13	16.3%	0	0.0%	13	16.0%

〔進学状況〕

学科		看護学科						栄養学科					
性別		女子		男子		計		女子		男子		計	
項目		数	割合	数	割合	数	進学希望者に対する割合	数	割合	数	割合	数	進学希望者に対する割合
進学希望者数			19		1	20			0		0	0	
進学合格者数			19		1	20	100.0%		0		0	0	0.0%

看護栄養学研究科就職状況（2023年5月1日現在）

〔就職希望者〕

所属		看護学専攻						栄養管理学専攻						看護栄養学研究科			
専攻		保健師コース		精神看護学コース		老年看護CNSコース		計		博士前期課程		博士後期課程		計		合計	
項目		数	割合	数	割合	数	割合	数	修了者に対する割合	数	割合	数	割合	数	修了者に対する割合	数	修了者に対する割合
就職希望の有無	希望有りの者	2	33.3%	2	33.3%	2	33.3%	6	100.0%	1	100.0%	-	-	1	100.0%	7	100.0%
	希望無しの者	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-	-	0	0.0%	0	0.0%
計(修了者数)		2	33.3%	2	33.3%	2	33.3%	6	100.0%	1	100.0%	-	-	1	100.0%	7	100.0%

〔就職決定者〕

所属		看護学専攻						栄養管理学専攻						看護栄養学研究科			
専攻		保健師コース		精神看護学コース		老年看護CNSコース		計		博士前期課程		博士後期課程		計		合計	
項目		数	割合	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合	数	就職希望者に対する割合
就職者数/決定率		2	100.0%	2	100.0%	2	100.0%	6	100.0%	1	100.0%	-	-	1	100.0%	7	100.0%

〔地域別決定者〕

所属		看護学専攻						栄養管理学専攻						看護栄養学研究科			
専攻		保健師コース		精神看護学コース		老年看護CNSコース		計		博士前期課程		博士後期課程		計		合計	
項目		数	割合	数	割合	数	割合	数	就職者に対する割合	数	割合	数	割合	数	就職希望者に対する割合	数	就職者に対する割合
地域別	道外	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	-	-	0	0.0%	1	14.3%
	道内	1	50.0%	2	100.0%	2	100.0%	5	83.3%	1	100.0%	-	-	1	100.0%	6	85.7%
	市内(再掲)	0	(0.0%)	2	(100.0%)	2	(100.0%)	4	(66.7%)	1	(100.0%)	-	-	1	(100.0%)	5	(71.4%)

助産研究科就職状況（2023年5月1日現在）

〔就職希望者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	卒業者に 対する割合
就職希望 の有無	希望有りの者	14	-	14	100.0%
	希望無しの者	0	-	0	0.0%
計(修了者数)		14	-	14	100.0%

〔就職決定者〕

分野	助産基礎分野	助産教育分野	計	就職者に 対する割合
決定数/決定率	14	-	14	100.0%

〔地域別・就職別決定者〕

分野		助産基礎分野	助産教育分野	計	就職者に 対する割合
地域別	道外	1	-	1	7.1%
	道内	13	-	13	92.9%
	市内(再掲)	6	-	6	(42.9%)
職種別	助産師	13	-	13	92.9%
	教員	0	-	0	0.0%
	上記以外: 看護師	1	-	1	7.1%

2022年度求人件数・人数（2023年3月31日現在）

〔看護職〕

職 種	件 数				人 数			
	(市内)	道内	道外	件数合計	(市内)	道内	道外	人数合計
看護師	37	89	124	213	584	1,130	7,284	8,414
保健師	3	89	12	101	9	163	43	206
助産師	7	31	55	86	21	91	146	237
計	47	209	191	400	614	1,384	7,473	8,857

〔栄養士職〕

職 種	件 数				人 数			
	(市内)	道内	道外	件数合計	(市内)	道内	道外	人数合計
栄養士	20	66	42	108	44	367	675	1,042
管理栄養士	20	115	52	167	46	435	663	1,098
栄養教諭	0	0	0	0	0	0	0	0
食品衛生監視員	0	0	0	0	0	0	0	0
その他 保健医療従事者	0	0	0	0	0	0	0	0
計	40	181	94	275	90	802	1,338	2,140

〔一般職・その他〕

職 種	件 数				人 数			
	(市内)	道内	道外	件数合計	(市内)	道内	道外	人数合計
一般	11	46	10	56	209	432	85	517
合計	98	436	295	731	913	2,618	8,896	11,514

注1 (市内)は道内の内数

注2 若干名は3とカウントする

注3 保健師・助産師求人数は人数を明記してある場合以外は3とカウントする

6. 2023年度入試結果

看護栄養学部

◆看護学科

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
指定校推薦	40	5	(7)	5	(7)	5	(7)	5	(7)	1.0
公募制推薦		48	(57)	48	(57)	37	(37)	37	(37)	1.3
社会人	40	1	(3)	0	(3)	0	(1)	0	(1)	-
一般		213	(233)	207	(227)	91	(91)	47	(39)	2.3
共通テスト利用	20	136	(188)	136	(188)	64	(86)	14	(19)	2.1
総計	100	403	(488)	396	(482)	197	(222)	103	(103)	2.0

◆栄養学科

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
指定校推薦	44	4	(2)	4	(2)	4	(2)	4	(2)	1.0
公募制推薦		51	(52)	51	(52)	46	(43)	46	(43)	1.1
社会人	36	2	(0)	2	(0)	2	(0)	2	(0)	1.0
一般		49	(60)	49	(59)	43	(47)	38	(43)	1.1
共通テスト利用	10	48	(41)	48	(41)	13	(37)	3	(6)	3.7
総計	90	154	(155)	154	(154)	108	(129)	93	(94)	1.4

大学院 看護栄養学研究科

◆看護学専攻

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
推薦	14	3	(2)	3	(2)	3	(2)	3	(2)	1.0
一般Ⅰ期		7	(6)	7	(6)	3	(5)	3	(5)	2.3
一般Ⅱ期		3	(1)	3	(1)	2	(1)	2	(1)	1.5
在宅看護CNS		1	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	-
総計	14	14	(9)	14	(9)	8	(8)	8	(8)	1.8

◆栄養管理学専攻 博士前期課程

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
一般Ⅰ期	3	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	1.0
一般Ⅱ期		0	(1)	0	(1)	0	(1)	0	(1)	-
総計	3	1	(1)	1	(1)	1	(1)	1	(1)	1.0

◆栄養管理学専攻 博士後期課程

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)
一般Ⅰ期	2	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
一般Ⅱ期		1	(1)	1	(1)	1	(1)	1	(1)	1.0
総計	2	1	(1)	1	(1)	1	(1)	1	(1)	1.0

大学院 助産研究科

種別	定員(名)	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		倍率(受/合)	
基礎分野	推薦	10	30	(15)	30	(14)	13	(12)	12	(12)	2.3
	一般Ⅰ期	15	32	(23)	32	(23)	6	(12)	5	(10)	5.3
	社会人Ⅰ期		2	(4)	2	(4)	1	(0)	1	(0)	2.0
	一般Ⅱ期	5	13	(7)	13	(7)	3	(2)	3	(2)	4.3
	社会人Ⅱ期		0	(3)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
教育分野	Ⅰ期	10	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
	Ⅱ期		0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	-
総計	40	77	(52)	77	(48)	23	(26)	21	(24)	3.3	

7. 教員組織

教員組織一覽

(2022年5月1日現在)

所 属		教授	准教授	講師	助教	助手	計
大学院	助産研究科	6人	2人	1人	1人	0人	10人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	
看護栄養学部	看護学科	8人	9人	10人	6人	0人	33人
	栄養学科	4人	8人	4人	1人	5人	22人
	教養教育科	4人	2人	0人	0人	0人	6人
	計	16人	19人	14人	7人	5人	61人
	兼任教員(非常勤講師)	—	—	—	—	—	
合計		22人	21人	15人	8人	5人	71人

専任教員年齢構成

(2022年5月1日現在)

所属	職位	71歳以上	66歳～70歳	61歳～65歳	56歳～60歳	51歳～55歳	46歳～50歳	41歳～45歳	36歳～40歳	31歳～35歳	26歳～30歳	25歳以下	計
助産研究科	教授	0 0.0%	1 16.7%	4 66.7%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100%
	計	0 0.0%	1 10.0%	4 40.0%	2 20.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100%
	助手	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
小計		0 0.0%	1 10.0%	4 40.0%	2 20.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100%
看護栄養学部・看護栄養学研究科	教授	3 18.8%	4 25.0%	2 12.5%	2 12.5%	3 18.8%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16 100%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	3 15.8%	6 31.6%	4 21.1%	6 31.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19 100%
	講師	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	2 14.3%	1 7.1%	5 35.7%	3 21.4%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14 100%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	7 100%
	計	3 5.4%	4 7.1%	6 10.7%	10 17.9%	10 17.9%	15 26.8%	4 7.1%	2 3.6%	1 1.8%	1 1.8%	0 0.0%	56 100%
	助手	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%	5 100%
小計		3 4.9%	4 6.6%	6 9.8%	10 16.4%	10 16.4%	15 24.6%	4 6.6%	3 4.9%	2 3.3%	4 6.6%	0 0.0%	61 100%
合計		3 4.2%	5 7.0%	10 14.1%	12 16.9%	12 16.9%	15 21.1%	4 5.6%	4 5.6%	2 2.8%	4 5.6%	0 0.0%	71 100%

※定年：65歳

教員の任免・昇任者一覧

(2023年3月31日現在)

学科・科	採用者					昇任者			退職者				
	教授	准教授	講師	助教	助手	准教授から教授	講師から准教授	助教から講師	教授	准教授	講師	助教	助手
助産研究科	0人	1人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人
看護学科	0人	1人	0人	1人	0人	1人	1人	1人	3人	2人	1人	0人	0人
栄養学科	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
教養教育科	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	0人	0人	0人
計	0人	2人	2人	3人	0人	1人	1人	1人	6人	2人	1人	0人	1人

8. 事務組織

(2022年5月1日現在)

区分	部門	専任職員		常勤嘱託 職 員	臨時職員	パート職員	派遣職員	計
			うち管理職					
法人 業務系	事務局長	0	0	1	0	0	0	1
	参与	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	0	0	0	1
大学 業務系	総務課	4	1	2	0	0	0	6
	学務課	7	1	4	1	3	0	15
	図書情報課	3	1	2	1	0	0	6
	財務室	3	1	2	1	5	0	11
	入試・広報室	3	1	0	1	0	0	4
	計	20	5	10	4	8	0	42
合 計		20	5	11	4	8	0	43

9. 研究等の活動

独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業（代表者）の採択状況

	区分	種別	研究代表者	研究課題
1	継続	基盤研究(C)	伊織 光恵	改訂版初経教育プログラムの構築による知的障害のある女子の母親への継続支援
2	継続	基盤研究(C)	小澤 涼子	女性新規就農者が健康を獲得するプロセスの解明と健康増進プログラムの開発
3	継続	基盤研究(C)	榊 建二郎	NMDを介した小胞体ホメオスタシス制御因子の細胞内局在メカニズムの解明
4	継続	基盤研究(C)	吉田 礼維子	住民の視点による介護予防システムの評価指標の開発と有用性の検討
5	継続	基盤研究(C)	松下 真美	ヒト褐色脂肪組織の活性に関連する食事・生活習慣因子の解明
6	継続	基盤研究(C)	中田 かおり	正期産期の血圧の安定につながる妊婦の水とくらしに関する研究
7	継続	若手研究	小島 有沙	介護老人保健施設におけるスキナーケア予防策の構築－援助者の認識する発生状況から－
8	継続	若手研究	船木 沙織	原爆傷害調査委員会が実施した遺伝学調査における助産婦の活動
9	新規	基盤研究(C)	秋山 雅代	熟練看護師の介助シャワー浴技術の思考発話に基づく新しい授業教材の開発
10	新規	基盤研究(C)	伊藤 治幸	酸化ストレスを指標とした生活習慣の状況とヘルスリテラシーの実態と評価
11	新規	基盤研究(C)	小野澤 かおり	妊婦を対象とした出生前検査に関する包括的な相談支援要件の明確化
12	新規	基盤研究(C)	田中 さおり	成長ホルモン治療中の子どもと家族の治療継続を支えるピア・サポートプログラムの開発
13	新規	基盤研究(C)	高橋 彩華	農漁村地域の環境が保護者の価値観に与える影響と子どもの生活習慣および肥満との関連

特別研究費の助成状況

	区分	種別	研究代表者	研究課題
1	新規	特別研究費	伊藤 治幸	大学生を対象としたヘルスリテラシーの多面的評価に関する研究
2	新規	特別研究費	長田 雅子	女子高校生への性教育実習を経験した助産大学院生のプレコンセプションケアに対する意識の変化
3	新規	特別研究費	杉田 樹美	後輩の指導・教育能力に関する助産師の学修ニーズ

受託研究等

	種別	担当者	研究・事業名
1	公益財団法人寿原記念財団	榎 建二郎	NMD制御因子による小胞体ストレス応答の新規調節機構の解析
2	公益財団法人武田科学振興財団	榎 建二郎	RNAと小胞体を結ぶ品質管理連携機構の解明とNMD阻害薬の臨床応用へ向けた提案
3	公立大学法人大阪	吉田 真弓	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業
4	個人	鈴木 純子	奨学寄付

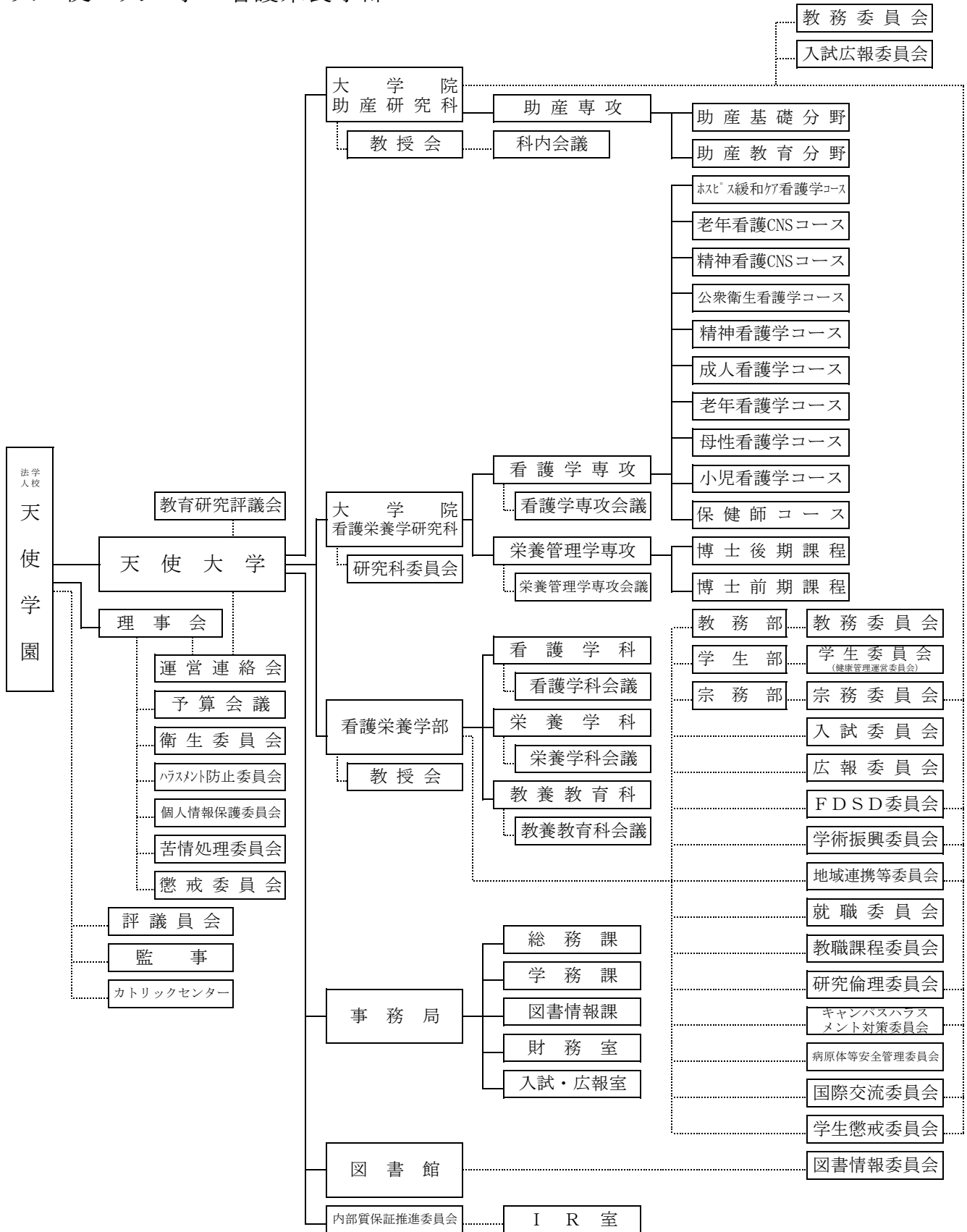
FD・SDの実施状況

分類	日時	参加人数	テーマ・内容
F D	随時	32	授業参観 教員各自が遠隔授業で使用した（する）動画又は対面授業の録画を選択してGoogle Classroomの授業参観ページにアップし、各教員は、Google Classroomにアップされた動画を視聴して参観する。
F D	2022年6月1日+ オンライン開催	123	研究倫理研修会 内容：令和2年・3年個人情報保護法の改正に伴う生命・医学系指針の改正についての解説
F D	2022年8月3日+ オンライン開催	58	看護栄養学研究科FD テーマ：2040年を見据えた大学院教育について
F D	2022年9月	48	FDSD委員会主催FD研修会 内容：授業評価アンケート結果を活用した学生の学習状況の分析～授業改善に向けて
F D S	2022年9月28日+ オンライン開催	23	助産研究科FD研修会 テーマ：看護と政治
F D	2023年1月24日+ オンライン開催	42	教職課程FD研修会 テーマ：特別な支援を必要とする児童生徒・学生への合理的配慮
F D	2023年2月9日+ オンライン開催	34	看護栄養学研究科FD テーマ：ケアの困難と可能性について
S D	2022年8月3日 オンライン開催	93	教職員説明会 内容：①2021年度学校法人天使学園決算報告について ②令和4年度客観的指標調査への取り組みについて ③法人統合協議会の進捗状況について
S D	2022年8月19日+ オンライン開催	80	ハラスメント相談員研修会 テーマ：キャンパスハラスメントの相談のあり方
S D	2022年8月25日+ オンライン開催	74	FDSD委員会主催SD研修会 テーマ：内部質保証におけるPDCAサイクルの具体的な進め方について
S D +	2022年12月14日 オンライン開催	93	教職員修養会 テーマ：肯定の哲学－現代に学ぶトマス・アクィナスの神学

10. 組織図

学校法人天使学園 管理運営組織図

天使大学大学院 助産研究科
 天使大学大学院 看護栄養学研究科
 天使大学 看護栄養学部



11. 会議の開催状況

看護栄養学部教授会

開催日時	出席人数	議 案 名
臨時 4月1日(水)	名	報告事項 1 2022年度一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜における追加合格について
第1回 4月11日(月)	15名	審議事項 1 2022年度非常勤講師の委嘱について 報告事項 1 休学・復学・退学の許可について 2 2022年度入学者数並びに一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜の追加合格者数等について 3 天使大学卒業生に関する就職先アンケートについて
第2回 5月9日(月)	15名	審議事項 1 2022年度既修得単位の認定・単位授与について 2 2022年度非常勤講師の委嘱・変更・取消について 3 看護学科教育課程改訂に伴う履修等について 報告事項 1 休学・復学・退学の許可について 2 2022年度化学・生物診断テストの結果について 3 2022年度後期授業実施方針について 4 2022年度葦の会役員及び部・サークルについて 5 建学の理念正課外教育マニュアルについて 6 キャンパスハラスメント実態調査アンケート結果について
第3回 6月13日(月)	15名	審議事項 1 2023年度看護栄養学部入学者選抜要項について 報告事項 1 2021年度教員による科目評価の分析結果について 2 2021年度学生による到達度評価アンケートの分析結果について
第4回 7月11日(月)	13名	報告事項 1 2021年度教員業績評価の評価結果について 2 休学の許可について 3 業成績優秀者奨励金対象者について 4 2022年度FD研修会及びSD研修会の開催について 5 2022年度科研費獲得セミナーの開催について 6 2022年度ハラスメント相談員研修会の開催について 意見聴取事項 1 教員の採用に係る募集大綱について 2 非常勤講師の雇用契約の更新について
臨時 7月25日(月)	14名	意見聴取事項 1 教員の採用に係る募集大綱について

<p>第5回 9月12日(月)</p>	<p>13名</p>	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 天使大学学則の改正について 2 2022年度前期卒業判定について 3 2022年度既修得単位の認定・単位授与について 4 2022年度非常勤講師の委嘱変更について 5 北海道胆振東部地震、平成30年7月豪雨および熊本地震で被災した2023年度入学志願者等の入学検定料、入学金、授業料の減免について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2022年度前期卒業証書・学位記授与式実施要領について 2 教員の昇任について 3 教員の退職について 4 2022年度教育講演会の開催について 5 2022年度Food and Life Step-up Ceremonyの実施について 6 休学・復学・退学の許可について 7 2022年度教職員修養会の開催について 8 2022年度英語プレイスメントテストの結果について 9 アセスメントポリシーに係る各種調査の実施について 10 2023年度授業予定表へのアッセンブリーアワー再配置について 11 2022年度後期アッセンブリー・アワーの実施方法について 12 2022年度後期宗務行事予定について <p>意見聴取事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 履修規程の改正について
<p>第6回 10月11日(火)</p>	<p>16名</p>	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2024年度入学者選抜日程について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2021年度公的研究費(科研費等)の間接経費の使用について 2 2022年度戴帽式の実施について 3 休学・退学の許可について
<p>第7回 11月14日(月)</p>	<p>16名</p>	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2023年度学事暦について 2 2022年度非常勤講師の委嘱について 3 2023年度非常勤講師の委嘱について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教員の採用等について 2 2023年度科学研究費助成事業の申請状況について 3 休学の許可について 4 教員の退職について <p>意見聴取事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教員の採用に係る募集大綱について 2 学業成績優秀者奨励金に関する規程の一部改正について
<p>臨時 12月9日(金)</p>	<p>14名</p>	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2023年度学校推薦型選抜・社会人選抜の合否判定について

第8回 12月12日(月)	15名	審議事項 1 2023年度非常勤講師の委嘱・取消について 報告事項 1 教員の採用について 2 2022年度アセスメント・ポリシーに係る調査等の実施について 3 2022年度教職課程FD研修会の開催について
臨時 12月23日(金)	9名	審議事項 1 教員の退職について 意見聴取事項 1 教員の採用に係る募集大綱について
第9回 1月17日(火)	16名	審議事項 1 2023年度非常勤講師の委嘱について 報告事項 1 教員の退職について 2 2022年度特別研究費による研究報告会の開催について
第10回 2月13日(月)	14名	審議事項 1 2023年度非常勤講師の委嘱・取消について 報告事項 1 教員の採用について 2 復学の許可について 3 2022年度キャンパスハラスメント実態調査アンケート結果について 4 2025年度一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜の学力試験科目について 意見聴取事項 1 客員教授の委嘱について 2 教職課程履修規程の一部改正(2023年4月1日施行)について
臨時 2月14日(火)	15名	審議事項 1 2023年度入学者選抜の合否判定について
臨時 2月22日(水)	13名	審議事項 1 2023年度入学者選抜の合否判定について 2 2022年度卒業判定について 3 2022年度教職課程修了判定について 報告事項 1 教員の退職について 2 2022年度卒業証書・学位記授与式の実施要領について 意見聴取事項 1 2023年度科目等履修生の受け入れについて
第11回 3月13日(月)	14名	審議事項 1 2022年度進級判定について 2 2023年度授業科目の開講学期の変更について 3 2023年度非常勤講師の委嘱について 4 2023年度既修得単位の認定・単位授与について 報告事項

		<ol style="list-style-type: none"> 1 2023 年度入学式の実施要領について 2 休学・復学・退学の許可について 3 2023 年度校務分掌一覧について 4 2022 年度遠隔授業の授業データ削除について 5 2023 年度学事暦の一部変更について 6 専任教員の新規授業科目担当について <p>意見聴取事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 客員教授の委嘱について
臨時 3月24日(金)	12名	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2022 年度進級判定について 2 2023 年度授業科目の開講学年の変更について 3 2023 年度非常勤講師の委嘱変更について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専任教員の新規授業科目担当について 2 その他

大学院看護栄養学研究科委員会

開催日時	出席人数	議 案 名
第1回 4月11日(月)	12名	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2022 年度看護栄養学研究科の活動目標について 2 2022 年度学事暦について 3 2022 年度非常勤講師の委嘱について 4 看護学専攻保健師コース ディプロマポリシーの変更について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 休学・退学の許可について 2 2022 年度看護栄養学研究科開講科目一覧について 3 2022 年度看護学専攻学位論文研究計画書の指導教員について 4 2022 年度看護学専攻研究計画審査及び発表会の実施について 5 2022 年度栄養管理学専攻新入生の研究指導教員について <p>その他 院生の研究倫理審査書類の提出について</p>
第2回 5月9日(月)	12名	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2023 年度看護栄養学研究科入学者選抜要項について 2 2022 年度非常勤講師の委嘱・取消について 3 2022 年度看護学専攻学位論文研究計画書の審査について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 休学の許可について 2 2022 年度看護栄養学研究科開講科目一覧(栄養管理学専攻)について
第3回 6月13日(月)	12名	<p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 長期履修期間延長後の院生研究費について <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護学専攻博士後期課程設置準備室の整備について 2 2022 年度栄養管理学専攻学位論文研究計画書について

		<ul style="list-style-type: none"> 3 2022年度栄養管理学専攻学位論文中間発表会の開催について 4 2022年度FD研修会(栄養管理学専攻担当)の開催について
第4回 7月11日(月)	11名	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 天使大学大学院看護栄養学研究科出願資格審査覚書について 2 2022年度実習指導教員の委嘱について 3 2022年度特別講師の委嘱・取消について 4 2022年度非常勤講師の委嘱変更について <p>意見聴取事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 天使大学大学院看護栄養学研究科学則の一部改正について 2 天使大学大学院看護栄養学研究科履修規程の一部改正について
第5回 9月12日(月)	11名	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 休学の許可について
臨時 9月22日(木)	9名	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 2023年度看護学専攻(保健師コース)推薦型選抜の合否判定について
第6回 10月11日(火)	13名	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 2024年度入学者選抜日程について 2 2022年度特別講師の委嘱について
臨時 10月19日(水)	11名	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 2023年度看護栄養学研究科一般選抜(I期)の合否判定について 2 2022年度非常勤講師の委嘱について
第7回 11月14日(月)	13名	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 2022年度学位論文関連スケジュールについて 2 2022年度学位論文提出予定者の主査及び副査について <p>意見聴取事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 2023年度大学院非常勤講師の雇用契約の更新について 2 看護学専攻博士後期課程設置に関する進学希望調査について
第8回 12月12日(月)	12名	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 2023年度学事暦について 2 2023年度大学院非常勤講師の委嘱について 3 2023年度看護栄養学研究科専任教員の新規担当科目について 4 2022年度学位論文発表会(保健師コース)の開催について 5 2023年度看護栄養学研究科看護学専攻高度実践看護師コース在宅看護CNS領域入学者選抜日程等について 6 高度実践看護師コース：在宅看護CNS領域の広報について 7 他の大学院と共通する非常勤講師の講義における合同実施の検討について 8 2022年度学位論文提出予定者の主査及び副査について <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 休学の許可について <p>意見聴取事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 2023年度大学院非常勤講師の雇用契約について
第9回 1月17日(月)	13名	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 2022年度学位論文発表会(精神看護学コース、老年看護CNSコース、博士

		<p>前期課程)の開催について</p> <p>2 長期履修学生の履修期間変更について</p> <p>3 2023年度非常勤講師の委嘱について</p> <p>4 院生学習室 PC の統計ソフト SPSS バージョンアップ等の整備について</p> <p>報告事項</p> <p>1 看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程設置案の概要について</p> <p>2 2022年度FD研修会(看護学専攻担当)の開催について</p> <p>意見聴取事項</p> <p>1 天使大学大学院看護栄養学研究科学則の一部改正(2023年4月1日施行)について</p> <p>2 天使大学大学院看護栄養学研究科履修規程の一部改正(2023年4月1日施行)について</p> <p>3 天使大学大学院看護栄養学研究科学則の一部改正(2024年4月1日施行)について</p> <p>4 看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程の授業料等の減額措置について</p> <p>5 2023年度非常勤講師の雇用契約について</p>
臨時 1月25日(水)	12名	<p>審議事項</p> <p>1 2023年度看護栄養学研究科一般選抜(Ⅱ期)の合否判定について</p> <p>2 2023年度特別講師の委嘱について</p>
第10回 2月13日(月)	12名	<p>審議事項</p> <p>1 2022年度看護栄養学研究科自己点検・評価報告書について</p> <p>2 2023年度非常勤講師の委嘱・変更について</p> <p>3 2023年度看護栄養学研究科専任教員の新規担当科目について</p> <p>意見聴取事項</p> <p>1 2023年度非常勤講師の雇用契約について</p>
臨時 2月22日(水)	11名	<p>審議事項</p> <p>1 2022年度修了判定について</p> <p>2 2023年度非常勤講師の委嘱について</p> <p>3 2023年度特別講師の委嘱について</p> <p>報告事項</p> <p>1 2022年度看護栄養学研究科学位論文審査報告書について</p>
臨時 3月7日(火)	10名	<p>審議事項</p> <p>1 2023年度看護栄養学研究科一般選抜(在宅看護 CNS 領域)の合否判定について</p> <p>2 2023年度非常勤講師の委嘱について</p> <p>意見聴取事項</p> <p>1 2023年度非常勤講師の雇用契約について</p>
第11回 3月13日(月)	12名	<p>審議事項</p> <p>1 2023年度以降教育課程におけるカリキュラムマップについて</p> <p>2 2023年度看護栄養学研究科専任教員の新規担当科目について</p> <p>3 2023年度非常勤講師の委嘱について</p> <p>4 2023年度実習指導教員の委嘱について</p> <p>意見聴取事項</p>

		1 2023 年度非常勤講師の雇用契約について 2 2023 年度実習指導教員の雇用契約の更新について 3 2023 年度科目等履修生の受け入れについて
--	--	--

大学院助産研究科教授会

開催日時	出席人数	議 案 名
第 1 回 4月13日(水)	8 名	報告事項 1 休学・退学の許可について 2 2021 年度日本学生支援機構大学院第一種奨学金返還免除推薦者について 3 その他 ・新入生の新型コロナワクチン接種について ・院生学習室の環境整備について ・助産研究科の授業料等の減免要望の取扱いについて ・助産教育分野のカリキュラム改正について ・自家用車通学の例外措置について ・2023 年度人事方針(案)について ・助産研究科新入生からの要望書内容の情報共有として
第 2 回 5月11日(水)	7 名	報告事項 1 2023 年度入学者選抜要項について 報告事項 1 建学の理念正課外教育マニュアルについて 2 キャンパスハラスメント実態調査アンケート結果について 3 その他 ・教育課程連携協議会について ・5 月 9 日開催の教育研究評議会の意見聴取事項について
第 3 回 6月15日(水)	6 名	報告事項 1 2021 年度天使大学部門別事業活動収支計算書について
第 4 回 7月13日(水)	5 名	報告事項 1 2021 年度教員業績評価の評価結果について 2 休学の許可について 3 2022 年度 FD 研修会及び SD 研修会の開催について 4 2022 年度ハラスメント相談員研修会の開催について 5 2022 年度科研費獲得セミナーの開催について
第 5 回 9月22日(水)	7 名	報告事項 1 教員の昇任について 2 教員の退職について 3 復学の許可について 4 2022 年度教育講演会の開催について 5 2022 年度教職員修養会の開催について 6 2022 年度後期宗務行事予定について
臨時 9月22日(水)	7 名	審議事項 1 2023 年度助産基礎分野推薦型選抜の可否判定について

第6回 10月12日(水)	6名	審議事項 1 2024年度入学者選抜日程について 報告事項 1 2021年度公的研究費(科研費等)の間接経費の使用について 2 休学・復学・退学の許可について
臨時 10月19日(水)	6名	審議事項 1 2023年度助産研究科Ⅰ期選抜の合否判定について
第7回 11月9日(水)	6名	報告事項 1 教員の採用等について 2 2023年度科学研究費助成事業の申請状況について
第8回 1月18日(水)	6名	審議事項 1 2023年度天使大学大学院助産研究科学事暦(案)について 2 2023年度非常勤講師の委嘱について 報告事項 1 教員の採用について 2 教員の退職について 3 2022年度特別研究費による研究報告会の開催について 4 その他 ・大学院助産研究科開設20周年記念事業について
臨時 1月25日(水)	5名	審議事項 1 2023年度助産研究科Ⅱ期選抜の合否判定について
第9回 2月8日(水)	6名	報告事項 1 教員の採用について 2 退学の許可について 3 2022年度キャンパスハラスメント実態調査アンケート結果について 4 その他 ・教育課程連携協議会外部委員の助言及び指導について ・助産研究科教員による科目評価の実施について 意見聴取事項 1 客員教授の委嘱について 2 退学の許可について
臨時 2月28日(火)	7名	審議事項 1 2022年度大学院助産研究科助産基礎分野の修了判定について 2 2023年度兼任教員について 報告事項 1 教員の退職について 2 2022年度卒業証書・学位記授与式の実施要領について
第10回 3月16日(木)	7名	審議事項 1 2023年度天使大学大学院助産研究科学事暦の一部修正について 2 2023年度非常勤講師の委嘱について 報告事項 1 2023年度入学式の実施要領について

		2 2023 年度校務分掌一覧について 3 退学の許可について 4 2023 年度授業科目担当者について
--	--	--

12. 委員会構成一覽

2022年10月1日 現在

2022年度校務分掌一覽

【委員任期(2年)：2022.4.1～2024.3.31】

教育研究評議会	学長：田畑邦治、看護栄養学研究科長：日沼千尋、助産研究科長：津田万寿美、看護学科長：吉田礼維子、栄養学科長：中川幸恵、教養教育科長：川口雄一、図書館長：(田畑邦治)、宗務部長：菅原邦子、教務部長：新井英志、学生部長：小澤芳子、内部質保証推進委員会委員長：(日沼千尋)、事務局長：岩間久哉	総務課
学長補佐	助産研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長	1年 ー

【看護栄養学部関係】

◎看護学科長：吉田礼維子 ◎栄養学科長：中川幸恵 ◎教養教育科長：川口雄一

学部教授会	学長、看護学科：吉田(礼)、伊藤、大野、小澤(芳)、榊、菅原、服部、日沼、山本 栄養学科：中川、清水、鈴木 教養教育科：川口、新井、鹿内、堀井	総務課
-------	--	-----

区分	委員会名	委員長	委 員	任期	担当
常設委員会	教務委員会	教務部長	教務部長：新井、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、(教職課程委員長：新井)、看護：伊藤、伊織、栄養：金澤・志賀、教養：小原	2年	学務課
	学生委員会 (健康管理運営委員会)	学生部長	学生部長：小澤(芳)、看護：小坂・横山、栄養：吉田(真)・蜂谷、教養：日時 (健康管理運営委員会構成員)学生委員会委員+助産研究科教務委員会委員長	2年	学務課
	宗務委員会	宗務部長	宗務部長：菅原、看護：秋山・福田、栄養：岡部・吉田(拓)、教養：川口、助産：杉田、事務局：田中、カトリックセンター司祭：ケン・スレイマン	2年	学務課
	図書情報委員会	図書館長	図書館長：田畑、看護：高橋(順)・臺野、栄養：高桑・峯岸、教養：日時、助産：長田、図書情報課長：白石	2年	図書情報課
	内部質保証推進委員会	日沼	看護：榊、栄養：岡部、教養：(一)、看護学専攻：(日沼)、栄養管理学専攻：鈴木、助産：中田、事務局長	2年	総務課
	入試委員会	川口	看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、看護：柴田、栄養：長谷川、教養：(川口)、入試・広報室長：佐藤	2年	入試・広報室
	広報委員会	服部	看護：小澤(涼)・小島、栄養：坂本・西、教養：(一)、入試・広報室長	2年	入試・広報室
	F D S D委員会	大野	看護：船木、栄養：松下、教養：鹿内、助産：杉浦、総務課長：豊島 総務課：松田、学務課：渡邊	2年	総務課
	学術振興委員会	榊	看護：田中(さ)、栄養：西、教養：(一)、助産：片倉	2年	図書情報課
	地域連携等委員会	清水	看護：若山・新関、栄養：長谷川・蜂谷、教養：(一)、助産：三浦	2年	学務課
	就職委員会	鈴木	看護：長内・前田、栄養：鈴木・岩淵、教養：(一)	2年	学務課
	教職課程委員会	新井	教職科目担当：新井、鹿内、長谷川、松下、吉田(拓)	2年	学務課
	研究倫理委員会	山本	看護栄養学研究科長、助産研究科長、学長指名：山本、鈴木、小原(人文・社会科学有識者)、岩間(職員)、〔学外：大久保岩男、久々湊晴夫〕	2年	財務室
	キャンパス・ハラスメント対策委員会	清水	学生部長、看護：山本、栄養：清水、教養：(一)、助産：津田、事務局長	2年	総務課
	病原体等安全管理委員会	榊	専門：岩淵、学校医：西村、衛生委員会：豊島	2年	財務室
国際交流委員会	中田	看護：峰岸、栄養：坂本、教養：(一)、看栄研：鈴木、助産：中田、事務局長	2年	総務課	
特設	学生懲戒委員会	その都度	学生部長、看護：()、栄養：()、教養：()、助産：()	ー	学務課

名 称	構 成 員
I R室	室長：榊、室員：総務課 上村、学務課 星、財務室 萩野

2022年度校務分掌一覧

【委員任期(2年)：2022.4.1～2024.3.31】

名 称	構 成 員
看護：学生支援教員	1年：○榑、服部、秋山、伊織、小島、前田、芦名、高橋(彩) 2年：○柴田、若山、新関、横山、小野澤、重岡、田中(裕) 3年：○長内、大野、小澤(涼)、高橋(順)、臺野、福田、船木 4年：○小坂、伊藤、田中(さ)、峰岸、中洞、井口
栄養：学生支援教員	1年：○吉田(真)、岡部、金澤、西、金吉 2年：○長谷川、坂本、蜂谷、松下、坂野 3年：○清水、鈴木、吉田(拓)、喜田、金野 4年：○志賀、岩淵、高桑、峯岸、高橋(咲) ※ ○はリーダー（看護・栄養共通）

名 称	構 成 員	担当
教育講演会ワーキング	看護：小野澤・重岡、栄養：坂本・岩淵	総務課

【大学院看護栄養学研究科関係】

◎研究科長：日沼千尋	◎看護学専攻主任：大野和美	◎栄養管理学専攻主任：鈴木純子
------------	---------------	-----------------

研究科委員会	看護学専攻：日沼、大野、伊藤、小澤(芳)、榑、菅原、服部、山本、吉田(礼) 栄養管理学専攻：鈴木、清水、中川、川口	総務課
--------	--	-----

看護学専攻博士課程設置準備室	◎日沼、田畑、大野、吉田(礼)、鈴木(敏)、事務局：豊島 ワーキンググループ：日沼、吉田(礼)、山本、大野、服部、榑、伊藤	総務課
----------------	--	-----

【大学院助産研究科関係】

◎研究科長：津田万寿美

助産研究科教授会	学長、研究科長、杉浦、中田、臨床専任教員：高室、宮下、山本、兼任：山本
----------	-------------------------------------

区分	委員会名	委員長	委 員	任期	担当
委員会等	研究科会議	研究科長	研究科教員		
	教務委員会	津田	(講義基礎)杉浦、(講義教育)中田、(学生・就職)片倉、杉田、(実習)三浦、長田	2年	学務課
	入試広報委員会	杉浦	津田、杉浦、中田、片倉、三浦、入試・広報室長	2年	入試・広報室

【理事会関係】

区分	委員会名	委員長	委 員	任期	担当
常設委員会	将来構想委員会	理事長	理事長、学長、財務担当理事：菅原、宗務部長、図書館長、助産研究科長、看護栄養学研究科長、看護学科長、栄養学科長、教養教育科長、事務局長、理事・評議員(教職員)	2年	総務課
	ハラスメント防止委員会	白崎(互選)	理事：菅原、本間、白崎、佐藤、 教員：山本、吉田(真)、職員：豊島	2年	総務課
	衛生委員会	岩間	産業医：辻崎、衛生管理者(保健師)：宮路、看護：高橋(彩)、栄養：岡部、教養：川口、助産：片倉、事務局長、事務局：豊島	2年	総務課
特設	苦情処理委員会	互選	理事3名、教職員2名、学外者1名	—	総務課
	懲戒委員会	理事長指名	その都度	—	総務課
	個人情報保護委員会	互選	理事長、学長、理事：本間、前田、事務局長	—	総務課

名 称	セクター長	構 成 員	任期	担当
カトリックセンター	田畑	センター長：田畑学長、司祭：スレイマン、宗務担当理事：近藤理事、佐藤理事、宗務部長、宗教教育担当教員：小原	2年	学務課

13. 委員会の活動報告

2022年度 教務委員会活動報告

委員会組織	委員長：新井英志 委員：吉田礼維子、中川幸恵、川口雄一、伊藤治幸、伊織光恵、志賀一希 金澤康子、小原琢
委員会開催数	定例 13回、臨時 なし
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師の委嘱・変更・取消について ・実習指導教員の委嘱・変更・取消について ・臨地実習科目における特別講師委嘱手続きについて ・既修得単位の授与について ・後期定期試験及び追再試験について ・後期授業実施方針について ・新入生オリエンテーション、出会いと親睦ゼミ及び在学生ガイダンスの評価について ・教務委員会日程について ・委員長代理について ・遠隔授業アンケートについて ・特別講師の委嘱について ・2022年度前期試験・評価日程（案）について ・コロナウイルス感染症の後遺症による受講困難な学生への修学支援について ・学士課程教育における現代社会で求められている課題に対応する能力育成に関するアンケート調査について ・天使大学非常勤講師等の採用選考に関する規程の新規制定について ・学内における非常勤講師のインターネット(Wi-Fi)の利用について ・2023年度非常勤講師の雇用契約の更新について ・科目「健康とスポーツ」に関する単位の計算方法について ・教育の質に係る客観的指標調査について ・実習指導教員の雇用契約の更新について ・2022年度教育の質に係る客観的指標調査について ・学則の改正について ・履修規程の改正について ・2023年度学事暦シミュレーションについて ・授業における情報処理室の座席配置について ・2022年度前期卒業判定について ・2023年度授業実施方針について ・試験料について ・休学をした学生のGPA値の算出方法について ・学生による到達度評価アンケートの実施手順について ・後期評価日程について ・履修の取消について 	

- ・教員評価アンケートについて
- ・試験料について
- ・特別講師における取り扱いについて
- ・「時間割・授業予定表」及び「進級・卒業判定資料」の一部省略について
- ・骨髄移植ドナー休暇制度及びドナー公欠制度の本学での適用について
- ・2022年度 アセスメントポリシーに係る教育課程に関する「学生による到達度評価アンケート」と「教員による科目評価」の実施について
- ・2023年度開講科目一覧について
- ・2023年度活動計画について
- ・2023年度履修要項の一部変更について
- ・2023年度授業概要について
- ・修養会等の特別講師について
- ・次年度の教室使用の運用について
- ・カリキュラム評価等の教務委員会が行う評価とその方法について
- ・自己点検評価報告について
- ・全学休講措置にならない場合における本人の責めに帰さない欠席等の扱いについて
- ・2019年度以前入学生の履修科目読み替え等について
- ・2023年度教室の運用について
- ・カリキュラム評価等の教務委員会が行う評価とその方法について
- ・品田監事からの教室使用願いについて

[主な報告事項]

- ・2022年度活動計画について
- ・2021年度学生到達度評価 社会人基礎力の分析について
- ・時間割編成に係る宗務委員会からの要望について
- ・2023年度に委嘱できない非常勤講師について
- ・学生への試験における不正行為の防止の周知について
- ・2022年度前期履修科目の取消について
- ・遠隔授業アンケートについて
- ・2022年度後期教科書販売について
- ・学外実習（臨地実習）の日程について
- ・2023年度学事暦シミュレーションについて
- ・2023年度非常勤講師の雇用契約の更新について
- ・新たな時代を見据えた質保証システムの改善・充実について（審議のまとめ）概要
- ・令和4年度 教育の質に係る客観的指標調査「⑭学生の学修成果の把握」に関する根拠資料について（報告）
- ・私立大学等改革総合支援事業について
- ・履修取消について
- ・書面審議の結果について
- ・大学設置基準改正について
- ・コロナ禍における臨地実習科目の特別講師の扱いについて（中間報告）

2022年度 学生委員会活動報告

委員会組織	委員長：小澤芳子 委員：小坂美智代、横山聖美、吉田真弓、蜂谷愛、目時光紀
委員会開催数	9回（2023年2月24日現在）
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度 役割分担について ・2022年度 学生部長不在時の代理について ・2023年度 活動計画書について ・2023年度 予算について ・2022年度 年報（学生委員会）について ・2023年度 合唱コンクールについて ・学長と学生の懇談会について ・学生食堂に関するアンケートについて ・2023年度 学事暦（学生委員会関係）について ・2022年度 学生生活実態調査について ・2022年度 卒業・修了時アンケートについて ・2023年度 学校医（内科医・精神神経科医）の委託について ・学内の掲示場所について ・2022年度 天使祭について ・2022年度 体育祭について ・2022年度 葦の会役員と学生委員会の交流会について ・学業成績優秀者奨励金に関する規程の改正について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度 活動計画書および予算見積内訳書について ・2022年度 クッキングライブについて ・看護・栄養学科 学生支援体制について ・卒業生の入校・施設利用について ・2022年度 札幌市福祉避難場所等への学生等ボランティアについて ・「ほっかいどう若者応援プロジェクト」からの食料・生活用品支援 実施報告について ・2021年度 卒業・修了時アンケートの集計結果について ・2022年度 前期オフィスアワーについて ・2022年度 後期オフィスアワーについて ・科目等履修生証について ・2022年度 補正予算（学生担当）について ・2022年度 学生の安否確認の訓練について 	

- ・日清食品からの「完全メシ」の無償支援について
- ・天使大学同窓会からの「ひとり暮らし」の学生に対する食糧支援について
- ・2022年度 卒業祝賀会について
- ・2023年度 学生生活ガイドブックについて
- ・2023年度予算（学生委員会）のヒアリングについて
- ・2022年度 クラス委員一覧について
- ・2022年度 葦の会役員、部・サークルについて
- ・2022年度 卒業アルバムの進捗状況について
- ・2022年度 葦の会会報「萌芽」の進捗状況について
- ・2022年度 同窓会役員と葦の会役員による交流会について
- ・2022年度 葦の会役員 三役選挙について
- ・2022年度 葦の会からの献金について
- ・HBC イチモニ！「健康けっこう！調べ隊」イオン北海道×天使大学 商品開発プロジェクトについて
- ・「ミルクラ」と「雪印メグミルク」によるレシピ開発について
- ・ミルクラと雪印メグミルクが考案したレシピの学生食堂でのメニュー化について
- ・雪印メグミルク杯ジャンプ大会でのミルクラブースの出店 実施報告
- ・「ラ・コミーダ」と「ドラゴン・アロー」によるお弁当開発について
- ・学内団体の新規設立について
- ・天使大学同窓会給付奨学金の制度変更について
- ・2022年度 学生の出校停止対象者数、新型コロナウイルス陽性者数等一覧について
- ・学生食堂報告
- ・保健相談室報告
- ・学生相談室報告

2022年度 宗務委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：菅原邦子 委員：ケン・スレイマン、秋山雅代、福田早織、岡部哲子、吉田拓登、川口雄一、杉田樹美、田中貴</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>4回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宗教行事、ミサの実施について <ul style="list-style-type: none"> イースターの集い 前期修了感謝ミサ 死者追悼のミサ クリスマス点灯式、クリスマスキャロルの放送 クリスマスの集い 創立記念日のミサ 新年のミサ 灰の儀式（灰の水曜日） 退職する教職員への感謝ミサ 卒業・修了感謝のミサ 週日のミサ ・ 学科行事における宗務的行事について <ul style="list-style-type: none"> 戴帽式 ステップアップセレモニー ・ 宗務部長不在時の部長代理について ・ 建学の理念正課外教育マニュアルについて ・ チャペルアワーの実施について ・ 2023年度宗務委員会活動計画書及び予算見積内訳書について ・ 2023年度アッセンブリー・アワーの実施方法について ・ 2022年度自己点検評価について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年度宗務委員会活動計画書及び予算見積内訳書について ・ 2022年度補正予算の提出について ・ 聖歌CDの購入について ・ 大学基準協会の評価結果における「アッセンブリー・アワー」の情報掲載について ・ ミサの実施報告について ・ 2022年度教職員修養会について ・ ミサの年間スケジュールについて ・ 学生修養会について 	

2022年度 図書情報委員会活動報告

委員会組織	委員長：田畑邦治 委員：高橋順子、臺野美奈子、高桑暁子、峯岸夕紀子、目時光紀、長田雅子、白石澄枝
委員会開催数	7回
審議・報告事項	
[主な審議事項] <ul style="list-style-type: none"> ・委員長代理について ・2022年度後援会寄贈図書について ・2022年度後期図書館開館時間の見直しについて ・2022年度 後期 図書館開館予定（案）について ・2022年度 後期 情報処理室開室予定（案）について ・学内における非常勤講師のWi-Fiの利用について ・教員共有フォルダの容量上限値の引き上げについて ・学外者（卒業生のみ）の図書館利用の一部再開について ・2022年度 後援会 寄贈図書「選定リスト」について ・2023年度 洋雑誌及びデータベースの継続について ・2023年度 和雑誌の継続について ・2023年度 和雑誌（直販雑誌）の継続について ・2023年度 活動計画書（案）（図書館・情報処理室） ・2023年度 予算見積内訳書（案）（図書館・情報処理室） ・2022年度 自己点検・評価報告書10. 図書館（案）について ・2022年度 自己点検・評価報告書11. 情報処理システム（案）について ・2022年度 図書情報委員会活動報告（案）について ・2022年度 除籍図書（案）について ・2023年度 前期 図書館開館予定表（案）について ・2023年度 前期 情報処理室開室予定表（案）について [主な報告事項] <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度 活動計画について（図書館、情報処理室） ・2022年度 予算について（図書館、情報処理室） ・2022年度 前期予定表について（図書館、情報処理室） ・2022年度 電子書籍（eBook Library）学外アクセス用ID・パスワードの発行について ・2022年度 学術データベースのリモートアクセス用ID・パスワードの申請について ・2022年度 電子書籍（新聞雑誌費：消耗品費）の予算配分について ・2022年度 製本雑誌（図書費：備品）の予算配分について ・2022年度 図書資料費執行状況について 	

- ・ 2023 年度 新規に購入を希望する雑誌について
- ・ 2022 年度 後期 図書館開館予定表及び情報処理室開室予定表について
- ・ 図書館及び情報処理室の利用について
- ・ 学内ネットワーク拡張作業について
- ・ 停電に伴う学内システムの停止について
- ・ 図書館システムバージョンアップに伴う一部サービスの停止について
- ・ 図書館の配架場所変更について
- ・ 後援会寄贈図書「事務局分選定リスト」について
- ・ 図書館の配架場所の一部変更について
- ・ I S K 札幌インターナショナルスクール生の図書館見学について
- ・ 2022 年度 在室者数統計（図書館・情報処理室）について
- ・ 2022 年度製本雑誌（図書費：備品）の予算配分について
- ・ 発注書の I S B N の記載方法について
- ・ 図書館学生アルバイト募集について
- ・ 2022 年度 図書資料費執行状況について
- ・ 2022 年度 在室者数統計（図書館・情報処理室）について
- ・ 文献複写等の受付申込期限について
- ・ 2023 年度 洋雑誌及びデータベースの決定について
- ・ 2023 年 1 月下旬の文献複写等の申込について
- ・ 2023 年度 入学者向け PC 仕様の案内について
- ・ 2022 年度 蔵書点検について

2022年度 内部質保証推進委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：日沼千尋 委員：鈴木純子、中田かおり、榊建二郎、岡部哲子、岩間久哉</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>6回（うち書面1回）</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学基準協会第3期認証評価改善報告書について ・ 2022年度内部質保証推進委員会活動方針（案） ・ 外部委員の意見聴取について ・ 2022年度教育の質に係る客観的指標調査について ・ 令和4年度教育の質に係る客観的指標調査 就職委員会担当新設問について ・ アセスメントポリシー改訂案について ・ (仮称) 天使大学教育の質向上委員会の設置について ・ 年報様式の変更について ・ 就職委員会担当のアンケート調査結果に係る検討事項について ・ 2022年度自己点検評価報告書_作成要領（案）について ・ 2023年度活動計画（案）および予算（案）について ・ 教学マネジメント委員会について ・ 2023年度外部委員の委嘱について ・ 2022年度活動報告会について ・ 2022年度年報の原稿案について ・ IR委員会規程案について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年度予算について ・ 2022年度委員会開催日程について ・ 2021年度年報について ・ 2021年度自己点検・評価に関する理事長・学長との意見交換について ・ 外部委員の評価回答について ・ 2022年度教育の質に係る客観的指標調査について ・ 大学基準協会改善報告書の受理について ・ アセスメントポリシー改訂について ・ 就職先・外部委員の評価に関する看護学科および栄養学科の意見について ・ 大学基準協会改善報告書検討結果（委員会案）について 	

2022年度 入試委員会活動報告

委員会組織	委員長：川口雄一 委員：吉田礼維子、中川幸恵、柴田和恵、長谷川めぐみ、佐藤誠治
委員会開催数	7回
審議・報告事項	
[主な審議事項] <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員長代理について ・ 2023年度入学 一般選抜の追試験について ・ 2023年度入学 入学者選抜要項について ・ 2023年度入学 推薦型選抜（指定校制）の指定校枠について ・ 2023年度入学 学校推薦型・社会人選抜入試問題出題者について ・ 小論文・面接試験評価項目一覧について ・ 令和5年度 大学入学者選抜実施要項について ・ 2023年度入学 入学者選抜業務（大学入学共通テストを除く）への人選依頼について ・ 2023年度入学 推薦型選抜・社会人選抜合否判定基準について ・ 災害救助法が適用されている地域で被災した受験生に関する検定料等の減免について ・ 2023年度 学校推薦型・社会人選抜小論文試験問題の選定について ・ 2024年度 入学者選抜日程（案）について ・ 入学者選抜への不正行為防止策について ・ 2023年度 天使大学入学者選抜追試験対象者の範囲設定等について ・ 2023年度 学校推薦型・社会人選抜実施要領・監督要領（案）について ・ 2023年度 学校推薦型・社会人選抜全体説明会について ・ 入学者選抜への不正行為防止策について ・ 2023年度 天使大学入学者選抜追試験対象者の範囲設定等について ・ 2023年度 入学手続要項について ・ 学校推薦型・社会人選抜事後アンケートについて ・ 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜合否判定基準について ・ 2023年度 一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜実施要領・監督要領について ・ 追加合格決定のプロセスについて ・ 2025年度 入学者選抜について ・ 2023年度 一般選抜学力試験 得点調整について ・ 2022年度 入試委員会年報について [主な報告事項] <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年度 入試委員会活動計画 ・ 2022年度 入試委員会予算（決定内容報告） 	

- ・2022年度 入学者選抜入試問題の著作権処理状況
- ・監督者人選に伴う事前確認等について
- ・令和4年度 天使大学ガバナンス・コードの実施状況点検調査について
- ・2023年度 入学者選抜要項の完成
- ・大学入学共通テスト全体説明会（対面形式の場合）の日程について
- ・令和7年度（2025年度）入学者選抜に関する情報（札幌医科大学・旭川医科大学）
- ・2024年度 入学者選抜日程について
- ・入試委員会補正予算について
- ・大学入学共通テスト三大学の打ち合わせについて
- ・Society 5.0について
- ・大学入学共通テスト担当者配置について
- ・学校推薦型選抜・社会人選抜のアンケート結果について

2022年度 広報委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：服部容子 委員：小澤涼子、中洞真理子、(8月より産休：小島有沙) 西隆司、坂本洋子、 佐藤誠治(6月より異動：鈴木敏郎)</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>7回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度 広報活動について ・大学院広報について ・2021年度 第4回オープンキャンパス振り返り(3/26実施) ・2022年度前期 学報33号について(7月末発行) ・2022年度 第1回オープンキャンパスについて(6/18実施) ・6月の広報活動について ・大学院ホームページの改修について ・2022年度 第2回オープンキャンパスについて(8/1、2実施) ・2022年度 第3回オープンキャンパスについて(9/24実施) ・2024 大学案内について ・次年度オープンキャンパス日程について ・2022年度 第2回オープンキャンパス振り返り ・2022年度後期 学報学報34号について ・2022年度 第3回オープンキャンパスの振り返り(9/24実施) ・広報活動における現在状況報告及び意見徴収 ・次年度広報学生サポーターについて ・2022年度 第4回オープンキャンパス(3/25)について ・2023年度 オープンキャンパス日程について(看護栄養学研究科を含む) ・過去問題集の収録年数について(意見徴収) ・自己点検・評価について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学相談会・校内ガイダンス参加計画について ・広報勉強会について ・教職員への広報活動協力要請について ・2023年 大学案内(2022年6月発行)進捗について ・撮影について ・2022年度 出張講義・大学訪問・取材依頼について ・在学生による母校訪問、母校向け天使大学を目指す皆さんへの実施について ・広報活動協力不可学生について 	

- ・2023年度 大学案内（2022年6月発行）完成について
- ・看護学専攻案内フライヤーについて
- ・広報活動勉強会
- ・ビデオカメラの購入について
- ・オープンキャンパス使用の不織布バッグについて
- ・一眼レフカメラ不具合
- ・学報33号完成
- ・第1回オープンキャンパス反省
- ・高校訪問等中間報告
- ・次年度予算計上科目の聴取について
- ・大学院栄養管理学専攻からの希望
- ・実習、演習科目及び事例研究、卒業研究の撮影依頼について
- ・補正予算計上について
- ・看護学科広報委員の小島先生が産休・育休のため、中洞先生に交代
- ・2024大学案内進捗状況について
- ・学報34号について
- ・2023年度予算ヒアリングについて
- ・出張講義メニューの他大学情報について

2022年度 FDS D委員会活動報告

委員会組織	委員長：大野和美 委員：船木沙織、松下真美、鹿内信善、杉浦恵子、豊島利昭、松田ゆかり、 渡邊泰央
委員会開催数	10回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度授業参観実施報告書(案)について ・2021年度授業評価アンケート実施結果報告について ・2022年度学生による授業評価アンケートの実施について ・2022年度授業参観について ・2022年度 FDS D 委員会開催予定について ・2022年度授業評価アンケートの今後の予定について ・天使大学授業参観実施要項の改正案について ・他部署が企画するFD及びSD研修会実施計画について ・2022年度FD及びSD研修会について ・授業評価アンケートの回答方法の周知について ・令和4年度教育の質に係る客観的指標調査に関する本委員会の対応について ・2022年度FD及びSD研修会開催要領の一部変更について ・2022年度後期授業評価アンケートの予定について ・授業評価アンケート実施要項の一部改正について ・教育の質に係る客観的指標調査の項目⑬「学生の学修時間・学修行動の把握」の担当部署変更の願い出について ・2023年度のFD研修会及びSD研修会について ・2023年度活動計画及び予算について ・授業評価アンケートに関する説明時間の確保について ・授業参観におけるGoogle Classroomのクラス作成方法について ・2022年度自己点検評価報告書について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度活動計画及び予算について ・各部署が主催するFD/SD研修会(予定)の調査について ・2022年度FD及びSD研修会について ・令和4年度北海道FD・SD協議会総会について ・天使大学授業参観実施要項の改正について ・FDS D 研修会実施計画報告書の追加提出について ・2022年度前期授業評価アンケートの改善計画書提出について 	

- ・FD 研修会及びSD 研修会参加状況について
- ・FD 研修会及びSD 研修会参加状況とアンケート集計結果について
- ・教育の質に係る客観的指標調査の担当部署変更の願い出について
- ・大学院看護学専攻主催 FD 研修会の予定について
- ・大学院看護学専攻主催 FD 研修会について
- ・授業評価アンケート実施要項の一部改正について

2022年度 学術振興委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：榊建二郎 委員：田中さおり、西隆司、片倉裕子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>12回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度委員長不在時の委員長代理について ・2022年度科学研究費アドバイザーについて ・科研費獲得セミナーについて ・「本学研究活動」の大学HPへの記載最終確認について ・「本学研究活動」バナーの学部学生周知について ・天使大学紀要の採録可否について ・「よろず相談」相談案件について ・2023年度活動計画（案）について ・2023年度予算見積内訳書（案）について ・2022年度特別研究費による研究報告会について ・2022年度自己点検・評価報告書 学術振興委員会（案）について ・2022年度学術振興委員会活動報告（案）について ・2023年度紀要第24巻第1号及び第2号投稿論文募集のご案内について ・天使大学紀要 執筆要領の一部修正（案）と追加資料（案）について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度紀要第22巻1号の発行について ・2022年度活動計画及び予算見積内訳書について ・2022年度紀要第23巻1号の進捗状況について ・2022年度紀要第23巻2号の進捗状況について ・2022年度研究のためのよろず相談について ・天使大学紀要の採録可否について ・2022年度特別研究費による研究報告会の開催について ・2022年度紀要第23巻2号の進捗状況について 	

2022年度 地域連携等委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：清水真理 委員：若山好美、新関幸子、長谷川めぐみ、蜂谷愛、三浦恵津子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>4回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度天使大学・北海道科学大学連携公開講座について ・地域連携協定5者合同会議に係る内容確認について ・地域連携事業活動の把握に関わる報告書について ・委員長不在時の委員長代理について ・「ひがしく健康・スポーツまつり2022」について ・「令和4年度健康づくりパネル展」の出展依頼について ・「夕張地域医療体験」について ・タッピーフレンズ企業からの連携事業の依頼について ・2022年度補正予算について ・「健康づくりパネル展」について ・「夕張地域医療体験」申込状況について ・「地域連携事業活動報告書」様式について ・2023年度活動計画書（案）について ・2022年度公開講座について ・2023年度予算見積内訳書（案）について ・2022年度年報 自己点検・評価報告書について ・地域連携事業活動報告書様式について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度活動計画書・予算について ・2021年度年報 自己点検・評価報告書について ・Web 両親学級の広報協力について ・2022年度天使大学・北海道科学大学連携公開講座実施状況について ・ひがしく健康・スポーツまつりの点検・評価について ・「健康づくりパネル展」への協力について 	

2022年度 就職委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：鈴木純子 委員：前田朝子、長内さゆり、岩渕絵里子</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>6回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長不在時の委員長代理について ・役割分担について ・委員会の開催日について ・就職ガイダンス・セミナーの実施方法について ・教員採用候補者選考検査第2次検査指導に関する企画・実施方法について ・就職相談室ニュース第1号～3号の作成について ・求人開拓パンフレット「採用のご担当者の皆様へ」の作成について ・就職活動ガイドブック2023年度版の作成について ・天使大学アンケート調査結果に基づく検討について ・2021年度卒業・修了生対象就職状況調査について ・2022年度就職活動と就職支援に関する調査について ・2021年度卒業生に関する就職先アンケート調査について ・2023年度活動計画案及び予算案について ・2022年度自己点検評価について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度活動計画及び予算見積内訳書について ・2022年度就職内定状況・就職相談室利用状況等の報告について ・2022年度就職ガイダンス・セミナーの実施状況について ・卒業生の経験談について ・2019、2020年度卒業生に関する就職先アンケート集計結果について ・2020年度卒業・修了生対象就職状況調査の集計結果について ・2021年度就職活動と就職支援に関する調査の結果について ・教員採用候補者選考検査第2次検査（栄養教諭）対策直前ゼミについて ・2021年度卒業・修了生就職先企業等への採用礼状の発送について ・求人訪問対応報告について ・補正予算の提出について ・私立大学等改革総合支援事業に関する本学の現状把握について 	

2022年度 教職課程委員会活動報告

委員会組織	委員長：新井英志 委員：鹿内信善、長谷川めぐみ、松下真美、吉田拓登
委員会開催数	7回
審議・報告事項	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程 Google classroom の作成について ・教育における ICT 活用論の科目配置について ・教職課程における質保証に係る対応について ・2022 年度以降の教職課程科目担当者および教職課程委員会体制について ・中期計画（案）に関する教職課程委員会の意見について ・科目等履修生（教職課程）の受入れについて ・非常勤講師および特別講師の委嘱について ・教員免許状更新講習について ・教職課程自己点検評価について ・2022 年度教職課程修了判定 ・2023 年度栄養教育実習履修判定 ・2023 年度授業科目の担当者について ・2023 年度活動計画書および予算について ・2023 年度新生オリエンテーションについて ・2023 年度教職課程履修の手引について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度活動計画および予算について ・教職課程履修者数および教職課程履修取消者について ・教員採用試験結果について ・教員採用選考検査のための対策ゼミについて ・栄養学科 3 年生の面接指導の実施について ・全私教協研究交流集会の参加報告について ・教育実習に関する説明会について ・教職課程 FD 研修会について <p>【主な確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程委員会の行事等一覧について ・教職課程履修の手引きについて 	

2022年度 研究倫理委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：山本勝則 委員：津田万寿美、日沼千尋、鈴木純子、小原琢、岩間久哉、 大久保岩男(学外委員)、久々湊 晴夫(学外委員)</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>10回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天使大学における人を対象とする研究倫理申請について（審査件数 34 件） ・ 研究データの有償提供にかかる規程の制定について ・ 2023 年度予算および活動計画書について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 倫理審査終了後の研究期間変更等の変更届について ・ 天使大学における人間を対象とする研究終了報告書について ・ 他の研究機関への試料・情報の提供に関する届出書について ・ 研究倫理研修会について 	

2022年度 キャンパス・ハラスメント対策委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：清水真理 委員：小澤芳子、山本勝則、津田万寿美、岩間久哉</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>6回（うち書面4回）</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長代理の選任について ・キャンパス・ハラスメント対策委員会年間スケジュールについて ・キャンパス・ハラスメント講演会について ・ハラスメント実態調査アンケートについて ・学生への啓発活動について ・啓発ポスターについて ・キャンパス・ハラスメント実態調査アンケートについて ・2023年度活動計画案について ・2023年度予算案について ・2022年度年報について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス・ハラスメント対策委員会2022年度予算について ・2022年度ハラスメントに関する相談窓口について ・ハラスメント実態調査アンケート結果について 	

2022年度 病原体等安全管理委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：榊建二郎 委員：榊建二郎、岩淵絵里子、西村光弘、豊島利昭</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>2回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度活動計画(案)について ・2022年度自己点検評価報告書の原稿について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「病原性微生物の保管・管理の徹底および保管状況調査」の提出について 	

2022年度 国際交流委員会活動報告

委員会組織	委員長：中田かおり 委員：峰岸まや子、坂本洋子、鈴木純子、岩間久哉
委員会開催数	2回、紙面審議1回
審議・報告事項	
[主な審議事項] <ul style="list-style-type: none"> ・ 東アジア及び東南アジアカトリック大学連盟 (Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities: ASEACCU) 加盟校および韓国カトリック大学との連携協定校としての本学国際交流委員会の在り方と活動の方向性について ・ 法人統合協議における両大学合同の国際交流に係る組織設置の検討依頼文書の提出について ・ 2023年度活動計画及び予算について [主な報告事項] <ul style="list-style-type: none"> ・ 2016年11月設置から2022年度までの国際交流委員会担当事業、活動の整理と振り返り ・ 2022年度東アジア及び東南アジアカトリック大学連盟 (Association of Southeast and East Asian Catholic Colleges and Universities: ASEACCU) および韓国カトリック大学から案内のあった6件の国際交流案件対応について 	

2022年度 助産研究科入試広報委員会活動報告

<p>委員会組織</p>	<p>委員長：杉浦恵子 委員：津田万寿美、中田かおり、片倉裕子、三浦恵津子、佐藤誠治</p>
<p>委員会開催数</p>	<p>8回</p>
<p>審議・報告事項</p>	
<p>[主な審議事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度 助産研究科オープンキャンパスについて（内容・実施方法について） ・2023年度 助産研究科パンフレットについて ・2022年度 入学相談窓口について ・2023年度 入学者選抜要項について（事前に配布した校正を持参ください。） ・2023年度入学 助産研究科入学者選抜について（当日配布） ・2022年度 助産研究科オープンキャンパスの振り返りについて ・2023年度 助産研究科入学者試験及びスケジュールについて ・2023年度 助産研究科オープンキャンパス日程について ・2023年度入学 助産研究科学校推薦型選抜について ・2023年度 助産研究科入学手続要項及び入学前課題について ・2024年度入学 助産研究科入学者選抜日程について ・2023年度 助産研究科推薦型選抜合否判定について ・2023年度 助産研究科Ⅰ期（一般・社会人）選抜合否判定について ・2023年度助産研究科入試広報委員会活動計画書について ・2023年度助産研究科予算申請書について ・2023年度入学 助産研究科Ⅱ期選抜（一般・社会人）について ・2023年度助産研究科Ⅱ期選抜（一般）合否判定について <p>[主な報告事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度 助産研究科入試広報委員会予算について ・2022年度 雑誌の掲載号について ・2022年度入学者選抜問題集の発行について ・新入生アンケートの結果について 	

14. 図書館利用状況

IX-表1 2022年度入館者数統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	2,751	3,027	4,110	4,913	1,457	5,554	3,508	3,547	2,360	3,314	1,606	277	36,424

IX-表2 2022年度図書・視聴覚資料貸出統計

所 属	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看護学科	526	760	1,190	759	578	708	1,151	981	366	127	111	16	7,273
栄養学科	243	193	547	315	155	235	215	263	142	106	109	32	2,555
助産研究科	243	154	150	36	49	45	92	125	79	26	64	28	1,091
看護栄養学研究科 看護学専攻	77	73	26	65	29	63	62	31	22	37	31	8	524
看護栄養学研究科 栄養管理学専攻 博士前期課程	0	0	2	4	0	4	0	0	0	0	0	0	10
看護栄養学研究科 栄養管理学専攻 博士後期課程	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員	101	178	113	78	94	115	147	114	97	95	106	32	1,270
相互利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学外者 (非常勤講師・実習指導 教員・臨床指導者)	3	0	0	10	5	3	1	0	4	0	0	4	30
卒業生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,193	1,358	2,028	1,267	910	1,173	1,668	1,514	710	391	421	120	12,753

15. 情報処理室の利用状況

年間利用状況

学科・学年 室	看護学科				看護 小計	栄養学科				栄養 小計	各室 計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4301室(日中)	393	154	595	2,084	3,226	157	544	2,752	815	4,268	7,494
4301室(夜間)	49	25	45	257	376	9	35	84	46	174	550
4302室(日中)	1,061	292	1,342	1,551	4,246	813	985	2,718	1,468	5,984	10,230
4302室(夜間)	44	63	142	180	429	9	39	98	113	259	688
総計	1,547	534	2,124	4,072	8,277	988	1,603	5,652	2,442	10,685	18,962

月別学科学年利用状況

学科・学年 月	看護学科				看護 小計	栄養学科				栄養 小計	各室 計
	1年	2年	3年	4年		1年	2年	3年	4年		
4	258	30	30	296	614	259	39	580	182	1,060	1,674
5	153	47	36	474	710	141	47	727	279	1,194	1,904
6	300	66	98	714	1,178	233	240	878	336	1,687	2,865
7	262	72	163	672	1,169	211	93	850	304	1,458	2,627
8	9	18	43	182	252	1	14	205	111	331	583
9	60	24	362	485	931	33	60	542	252	887	1,818
10	66	57	515	426	1,064	20	97	609	308	1,034	2,098
11	243	87	221	549	1,100	30	288	208	289	815	1,915
12	100	85	182	208	575	38	223	345	229	835	1,410
1	85	37	191	16	329	18	474	502	74	1,068	1,397
2	11	7	261	45	324	2	11	156	61	230	554
3	0	4	22	5	31	2	17	50	17	86	117
総計	1,547	534	2,124	4,072	8,277	988	1,603	5,652	2,442	10,685	18,962

16. 施設・設備の状況

大学設置基準との対比 (単位：㎡)

	本学の現有面積	大学設置基準面積	大学設置基準との差
校地面積	30,390	7,060	23,330
校舎面積	18,057	6,475	11,582

校舎内訳

	建設年	経過年数	面積(㎡)	備考
1号館	1976 (S51)	45	928.53	2階建 (耐震構造)
2号館	2020 (R2)	1	5,393.45	6階建 (耐震構造)
3号館	1963 (S38)	58	1,977.11	3階建 (耐震補強済)
4号館	1971 (S46)	50	2,428.96	3階建 (耐震補強済)
5号館	1980 (S55)	41	396.27	2階建 (耐震構造)
6号館	2000 (H12)	21	2,668.40	6階建 (耐震構造)
7号館	2002 (H14)	19	2,330.13	4階建 (耐震構造)
8号館	2004 (H 7)	17	1,855.69	4階建 (耐震構造)
中沼グランド 更衣室等	1992 (H 4)	29	79.38	平屋建
計	—	—	18,057.91	

学部・大学院研究科ごとの講義室、演習室等の面積・規模

学部・研究科	講義室・演習室・学生学習室等	室数	総面積(㎡)	専用・共用の別	収容人員(総数)	学生総数	在学生1人当たり面積(㎡)	備考
看護栄養学部	講義室	14	1,947	共用	1,634	778	2.50	看護栄養学研究科と共用
	演習室	15	673	共用	373	820	0.82	大学院と共用
	学生学習室	3	441	共用	250	820	0.54	大学院と共用
看護栄養学研究科	講義室							
	学生学習室	3	441	共用	250	820	0.54	看護栄養学部、助産研究科と共用
助産研究科	講義室	2	227	専用	135	42	5.40	
	学生学習室	3	441	共用	250	820	0.54	看護栄養学部、看護栄養学研究科と共用
体育館/講堂		1	725					

学部 of 学生用実験・実習室の面積・規模

分類	室名	収容人数	面積(m ²)	1人当り面積(m ²)
実験・実習室 (看護学科)	2302看護実習室	100	416	4.16
	第1看護実習室	100	346	3.46
	第2看護実習室	10	41	4.10
	第3看護実習室	20	46	2.30
	第4看護実習室	10	23	2.30
	第5看護実習室	10	27	2.70
実験・実習室 (栄養学科)	理化学実験室	60	262	4.37
	生理学実験室・微生物学実験室	65	397	6.11
	動物実験室	5	6	1.20
	給食経営管理自習室・実習食堂	130	350	2.69
	第2臨床栄養実習室	60	386	6.43
	官能検査室	10	30	3.00
	食品・調理実験実習室(準備室含む)	60	250	4.17
	第1カウンセリング室	3	8	2.67
	第2カウンセリング室	3	9	3.00
	栄養教育実習室	60	155	2.58
	第1臨床栄養実習室	15	45	3.00
実験・実習室(共通)	和室	10	69	6.90
情報処理室	第1情報処理室	60	113	1.88
	第2情報処理室	56	138	2.46
計		747	2,701	3.62

大学院 of 学生用実験・実習室の面積・規模

分類	室数	総面積(m ²)	収容人数(総数)	収容人員1人当りの面積(m ²)	使用研究科等	備考
実習室	18	2,874	783	3.67	看護栄養学研究科	看護栄養学部と共用
実習室	1	174	40	4.35	助産研究科	
計	19	3,048	823	3.70	—	—

17. 財務状況

貸借対照表関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	自己資金は充実しているか	純資産構成比率	△	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	74.8	84.9
2		繰越収支差額構成比率	△	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△15.8	△20.2
3		基本金比率	△	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	90.1	97.1
4		積立率	△	$\frac{\text{運用資産}}{\text{基本金要組入額}}$	88.7	70.1
5	長期資金で固定資産は賄われているか	固定比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資金}}$	93.1	98.5
6		固定長期適合率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	78.5	90.0
7	資産構成はどうか	固定資産構成比率	▼	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	69.7	83.7
8		有形固定資産構成比率	▼	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	59.5	62.8
9		特定資産構成比率	△	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	9.6	18.3
10		流動資産構成比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	30.2	16.2
11		減価償却比率（図書を除く）	～	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得額}}$	44.0	53.3
12	負債に備える資産が蓄積されているか	内部留保資産比率	△	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総資産}}$	13.8	16.0
13		運用資産余裕比率（単位：年）	△	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	1.2	0.2
14		流動比率	△	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	269.9	230.9
15		前受金保有率	△	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	307.3	521.6
16		退職給与引当特定資産保有率	△	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	90.7	30.5
17	負債の割合はどうか	固定負債構成比率	▼	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資金}}$	13.9	8.0
18		流動負債構成比率	▼	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資金}}$	11.2	7.0
19		総負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	25.1	15.0
20		負債比率	▼	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	33.5	17.7

(注1) 「評価」は△：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない を示す。

(注2) 「他法人」は収容定員500～1000名の保健系学部を有する全国12法人の2018年度決算額の平均。

事業活動収支計算書関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	経営状況はどうか	事業活動収支差額比率	△	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△4.4	1.2
2		経常収支差額比率	△	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△4.4	0.7
3		教育活動収支差額比率	△	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△4.2	0.5
4	収入構成はどうか なっているか	学生生徒等納付金比率	～	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	77.2	30.4
5		寄付金比率	△	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.1	3.1
6		補助金比率	△	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	16.2	8.9
7	支出構成は適切であるか	人件費比率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	63.7	51.6
8		教育研究経費比率	△	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	34.7	40.6
9		管理経費比率	▼	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	5.8	7.0
10		借入金等利息比率	▼	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.2	0.0
11		基本金組入率	△	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	6.3	5.7
12		減価償却費比率	～	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	12.4	5.9
13	収入と支出のバランスは取れているか	人件費依存率	▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	82.5	169.5
14		基本金組入後収支比率	▼	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	111.5	104.8

活動区分資金収支計算書関係の財務比率表

(%)

	分類	比率	評価	算式	本学園	他法人
1	経営状況はどうか	教育活動資金収支差額比率	△	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	6.4	7.9

2022 年度 内部質保証推進委員会

委員長：日沼 千尋（看護学専攻）

委員：榊 建二郎（看護学科）

岡部 哲子（栄養学科）

鈴木 純子（栄養管理学専攻）

中田かおり（助産研究科）

岩間 久哉（事務局長）

総務課：上村 俊哉

2022年度

天使大学 看護栄養学部
天使大学大学院 看護栄養学研究科
天使大学大学院 助産研究科

年 報
—自己点検・評価報告書—

2023年6月完成
自己点検評価委員会

天使大学

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1番30号

TEL 011-741-1051 FAX 011-741-1077

<https://www.tenshi.ac.jp>
